

令和3年度使用中学校教科用図書選定会議調査報告について

令和3年度使用中学校教科用図書 選定会議調査報告書

(発行者別概要説明書・
発行者別調査研究報告書)

令和2年7月10日(水)

教科用図書選定会議

種目（国語 全4者）

発行者名	1. 東京書籍
<p>「てびき」（2年 p. 22）に各学習の「目標」から「振り返り」までが示されており、見通しをもって学ぶことができる。また、「てびき」内の「たすけ」には、個に応じた配慮が感じられる。「学びの扉」（2年 p. 35）等にキャラクターを採用することで親しみやすさが感じられる。3年生の授業時数は少ないにもかかわらず、最もページ数が多いことから、学習内容の多さを感じる。また二段組みの教材（2年 pp. 36～43「辞書に書かれたもの」等）が多く、読みづらい。</p>	
発行者名	2. 三省堂
<p>「学びの道しるべ」（2年 pp. 18～19）には、学習過程が示され、主体的な学びにつながる。また、「思考の方法」や「語彙を豊かに」によって身に付けるべき知識・技能が明確に示され、学習の深まりにも効果的に働く。裏見返し、巻末折込の『「読み方を学ぼう」一覧』は、具体的な教材を示し、学年相互間の連携を図った系統的な指導につながる。折込資料が多く、破損の原因になりやすい。</p>	
発行者名	3. 教育出版
<p>全学年、「読むこと」の教材前の「学びナビ」（2年 pp. 14～15）、教材の「目標」（2年 p. 16）、教材後の「みちしるべ」（2年 p. 17）の連携により、見通しをもって学習を進めることができる。各領域でSDGsに関連する内容を示しているが、どの教材・題材と、どのSDGsのゴールが関連するのかが明確でないため、わかりづらい。印刷等については、本文の文字が細くて色も薄く、見にくい。特に、「詩」教材（2年 p. 16）の文字が小さい。</p>	
発行者名	4. 光村図書出版
<p>各教材のあとの「学習」（2年 p. 24）では、「見通しをもつ」「とらえる」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」の5つの段階が示されており、生徒が見通しをもって主体的に取り組めるようになっている。「読むこと」教材の後に「書くこと」が関連をもたせて配置され、スムーズに学習できる（2年 p. 124「モアイは語る」の後に、p. 134「根拠の適切さを考えて書こう」）。表紙の表面に自然な凹凸があり、手になじむため扱いやすい。資料の写真には、やや鮮明さを欠くものがある。（2年 p. 163「漢詩の風景」）</p>	

発行者名		東京書籍
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 (学校) 内容の程度は、全学年を通して教材の難易度が高い。(1年 p.42「さんちき」、2年 p.36「辞書に描かれたもの」、3年 p.37「百科事典少女」)
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 基礎編(2年 p.229)や、裏見返し「『言葉の力』一覧」等により、学年相互間の連携を図り、系統的な指導ができる。 (学校)「てびき」(2年 p.22)に各学習の「目標」から「振り返り」が示されており、見通しをもって学ぶことができる。また、「てびき」の中の「たすけ」は、個に応じた指導への配慮が感じられる。 全学年とも p.6 に前学年までの既習事項が分かりやすくまとめられている。 各教材の題名下の「問いかけ」により、問題解決的なめあてを設定しやすい。 「学びの扉」(2年 p.54)は、生徒の学習意欲の向上につながる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 古典の教材が多い。(1年生「移り行く浦島太郎の物語」、「伊曾保物語」、「竹取物語」、「矛盾」) どの学年も分量が多く、とりわけ3年生の授業時数が少ないにもかかわらず、最もページ数が多く、学習内容が多い。(1年 p.336、2年 p.340、3年 p.348)
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 各単元に練習問題が配置されており、学習の定着を図ることができる。 発展的な学習内容が「資料編」として区別されている。 行数の表示が分かりやすい。「(・・5・・)」 (学校)二段組みの教材が多く、読みづらい。 キャラクターを採用することで親しみやすさがあるが、「学びの扉」の「人物ちょこっとメモ」など情報量が過多であり、支援を要する生徒には集中しづらい。 「話すこと・聞くこと」については、全体的に説明が多く、話し合いの場面をイメージできるイラストや図などが乏しい。(3年 pp.197～202)
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 字の大きさは、学年ごとの配慮はあるものの、全体的に小さく読みづらい。 2年 p.254「文の成分」は、薄い色使いで、やや見にくい。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> 「A 話すこと・聞くこと」については、豊富な対話例と、話し合いに活用できる思考ツールの提示により、対話の基礎を身に付けることができる。また、現在の社会生活の課題に適した題材を取り上げている。(2年 p.47「考えを比べながら聞こう」の話題が高齢者の運転) 「B 書くこと」については、互いに助言し合う活動や編集会議などの学習が設定されており、協働的な学びを通して書く力を高めることができる内容となっている。 「C 読むこと」については、「A 話すこと・聞くこと」や「B 書くこと」と関連付けて指導することができる配置となっている。 〔知識及び技能〕については、「読むこと」教材の後に配置された「広がる言葉」(2年 p.170)において、より定着度が増すように工夫されており、これらが〔思考力、判断力、表現力〕の学習の基盤となることが期待できる。 「読書」については、「テーマ読書」や著名人による「私のおすすめの本」など、生徒が興味をもつ工夫がなされている。また、情報活用能力の育成を重視した読書活動が設定され、読書意欲の向上が期待できる。 「情報の扱い方に関する事項」については、情報の整理の仕方や情報と情報との関係の捉え方を、生徒の身近な例を題材に、集中的に学ぶことができるよう工夫されている。(2年 pp.230～231) 2年の漢詩(p.144)では、資料編に川合康三氏の解説(p.293)があるが、本編での解説が少ない。 	

発行者名		三省堂
観点		
1 各教科 共通の 選定の 観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 学習指導要領に示された内容がもれなく指導できる教材選定がなされている。 (学校) 教材で取り上げられている内容は、学校生活や身の回りの日常生活から社会生活へと広がるように配慮されている。(2年 p. 88 「一・・・年後の水を守る」) 2年 p. 76 「壁に残された伝言」は、難易度が高い。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 「思考の方法」(2年 p. 318) として情報の整理の仕方を一覧にまとめている。 「学びの道しるべ」(2年 p. 18) には、学習過程が示され、主体的な学びにつながる。また、「思考の方法」や「語彙を豊かに」によって身に付けるべき知識・技能が明確に示され、学習の深まりにも効果的に働く。 裏見返し、巻末折込の『読み方を学ぼう』一覧は、具体的な教材を示し、学年相互間の連携を図った系統的な指導につながる。 三角ロジックを思考ツールとして取り上げているが、他の思考ツールもあった方がよい。 単元名が3学年を通して同じであるが、学年を重ねる中で学習が深化していることを生徒自身が捉えにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 「読むこと」の教材では、文学的文章が少なく、説明的文章の割合が多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 巻頭の「領域別教材一覧」では、付けたい力が整理して示されており、学習の目的が分かりやすく、学習の見通しがもてる。 2年 pp. 144～145 のグラフ資料が充実している。 巻末の「資料編」は汎用性があり、他教科での活用にもつながる。 「話し合いのこつ」の色分けの工夫(2年 pp. 35～36) は、ページをまたいで解説されており、分かりにくい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 文字の大きさについては各学年の発達の段階に応じた配慮がなされている。 「資料編」の「古典芸能に親しむ」の写真や絵が、適切かつ鮮明である。 1行の字数が多いため字間が狭く、読みにくい。本文の字体が、丸みを帯びており、読みづらさがある。 (学校) 折込資料が多く、破損の原因になりやすく、使いづらい。 表紙は、見返し加工ではないため、堅牢な製本とは言い難い。
2 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> 「A 話すこと・聞くこと」については、各学年の第一単元に、「グループディスカッション」が設けられ、合意形成に向けて話し合うことのできる言語能力を育成する内容である。また、学年末には、「A 話すこと・聞くこと」と「B 書くこと」を一体的に指導できる教材が配置されている。 「B 書くこと」については、「表現プラザ」(2年 p. 114) で、自由度の高い小教材が配置され、生徒が興味をもって学習に向かうことができる。 「A 話すこと・聞くこと」において、読書活動(「ブッククラブ」「ビブリオバトル」)等が配置されており、目的意識をもって読書することができる。 「情報の扱い方に関する事項」については、「情報の扱い方」に特化した単元を設け、グラフや図表などの情報と文章による情報とを関連づけながら自分の考えを深める学習ができる。 「読書」に関する資料については、「読書の広場」(2年 pp. 244～249) が巻末にあり、読書活動などとは別に掲載されているため、年間を通して読書意欲を高めることにつなげづらい。 2年の漢詩(p. 132) は解説がなく、脚注のみでは鑑賞しづらい。 	

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) (1年 p.16)「文学入門」、中学校1年の発達の段階にはやや難しい。p.20「桜蝶」は、字数が多く、中学校の国語学習の入り口としては難しい。 ・ (2年 p.142)「二千五百年前からのメッセージ—孔子の言葉—」は、「置き字」等を学習する必要があり難易度が高い。 ・ 「総合 (SDG s)」や、「メディアと表現」の漫画や絵コンテのみを取り上げた教材は、目標達成につながらない。(2年 p.186「映像作品の表現を考える」)
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 全学年、「読むこと」の教材前の「学びナビ」(2年 pp.14~15)、教材の「目標」(2年 p.16)、教材後の「みちしるべ」(2年 p.17)の連携により、見通しをもって学習を進めることができる。 ・ 各領域でSDG sに関連する内容を示しているが、どの教材・題材と、どのSDG sのゴールが関連するのかが明確でない。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年を通して短い作品が多いため、読むことへの抵抗感を軽減できる。 ・ 教材数、ページ数が多く、各学年とも授業時数に対して分量が多い。 ・ 全体的に「読むこと」の教材が多い。「情報の扱い方に関する事項」についてなど、バランスよく教材を取り上げる必要がある。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・ 行数の表示が分かりやすい。(「・・・」) ・ 教材の最初に示された目標と、「みちしるべ」の中の「振り返り」が一体化しており、教材によってつける力が明確である。 ・ (学校)「学びナビ」の書き込む箇所(2年 p.47)は、学習が限定的になる。 ・ 2年 (p.164)、3年 (p.262) 両方に穂村弘氏の文筆を掲載しているが、幅広く読ませ、思考を広げるという点では適切でない。 ・ 単元の始まりが分かりづらく、どこで区切られているかが分かりにくい。 ・ 目次の単元に本文から引用した一節を付しているが、単元のテーマとの関連性が不明なものが多い。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明で、製本も適切である。 ・ 本文の文字が細くて色も薄い。また「詩」教材(2年 p.16)の文字が小さい。 ・ 本編に使用している紙がざらついている。 ・ 「目次」は、配色が地味で明るさに欠ける。
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・ 「A 話すこと・聞くこと」については、「話す」「聞く」「話し合う」のそれぞれを重点化した3教材が設けられている。また、1、2年生冒頭の教材は、関連する内容のコラムとセットで示され、より深く学習できる工夫がなされている。 ・ 「B 書くこと」の「学びを生かそう」(2年 p.39)で他教科や社会生活とのつながりについて触れられていることから、身に付けたことがどのような場面で活用できるのかを意識して学べる。 ・ 「C 読むこと」では、図表と文章の関係について考えたり、同じテーマで書かれた二つの文章を読み比べたりしながら、論理的思考力を育てることのできる内容となっている。(2年 p.46「日本の花火の楽しみ」「水の山 富士山」日本特有の文化をテーマとしている。) ・ 単元末の「広がる本の世界」では、テーマとの関連性が分かりにくく、関連付けながら読書に広がりをもたせることが難しい。(2年 p.89「日本語は泣いている」) ・ 新出漢字の取扱いについては、本文中の欄外にも読みがなや例語を提示するとよい。 ・ 「情報の活用」において、リテラシーの面では、系統的に学べるようになってきているとは言いがたい。情報をどう活用するかを生徒自身が思考する場が少ない。 ・ 全学年に設定されている総合単元は、SDG sと関連づけたものとなっているが、生徒が学習の必然性を感じることができるようになってない。

観 点		発行者名 光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の程度は3学年それぞれの段階に応じており、学習指導要領に示された事項を不足なく指導し、教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・ 質の高い文章教材が多く、特に説明的文章については、現代社会にふさわしい題材が選ばれている。(2年 p. 42 「クマゼミ増加の原因を探る」)
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年間を見通して系統的・段階的に教材を位置づけ、学びの深まりがとらえやすい。(1年生「新しい視点で」→2年生「多様な視点から」→「3年生「視野を広げて」) ・ (学校) 各教材のあとの「学習」(2年 p. 24) では、「見通しをもつ」「とらえる」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」の5つの段階が示されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるようになっている。 ・ 教科横断的に取り扱おうとする際、関連が分かりづらい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の分量は、授業時数から見て適切であり、各領域及び分野の内容に偏りがなく調和がとれている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「話すこと・聞くこと」(2年 p. 54)、「書くこと」(2年 p. 34) の学習の流れが、見開き1ページで示され、分かりやすい。 ・ 「読むこと」後に「書くこと」が関連付けて用意され、スムーズに学習できる。(2年 p. 124 「モアイは語る」の後に、p. 134 「根拠の適切さを考えて書こう」) ・ 巻頭の「思考の地図」の思考ツールは、問題解決的な学習をする際に役立つ。 ・ 巻末にある「学習の窓」一覧は、主体的な学習や発展的な学習に活用できる。 ・ (学校) QRコードは、自主的・自発的な学習を促すとともに、個に応じた指導に対しても有効である。 ・ 「話し合いの方法」(3年 pp. 242～243) は、説明が簡潔すぎるため、そのページを見るだけで学習できるような説明があるとよい。 ・ 巻頭の「学習の見通しをもとう」では、1年間で学習すべき内容と教科書構成の説明、教科書の使い方が示されているが、文字が詰まっており、見づらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の活字は見やすく、字間も適切で、目になじみやすい。 ・ 表紙の表面に自然な凹凸があり、滑りにくく手になじむため扱いやすい。 ・ やや鮮明さを欠く写真がある。(2年 p. 163 「漢詩の風景」、3年見返し)
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「A 話すこと・聞くこと」については、対話・質問、スピーチ、プレゼンテーション、討論、合意形成の話し合いなど、社会生活や他教科の学習の基盤となる多様な言語活動を設定している。 ・ 「B 書くこと」については、情報を整理したり構成を考えたりする過程で、思考ツールや図表を用いて情報を視覚化し、整理する方法が示されている。(1年 pp. 34～37) ・ 「C 読むこと」については、1・2年生で図表を用いた教材が配置され、2・3年生で比較読みを前提とした教材が配置されるなど、読んで考えを形成し、根拠を明確にして意見を述べる言語能力を育成することができる。(3年 pp. 48～49) ・ (市民・学校) 「読書」については、「読書活動」→「案内」→「コラム」等、紹介の仕方に工夫が見られ、図書紹介が充実(277冊)しているため、読書意欲の向上につながる。 ・ 「情報の扱い方に関する事項」については、「思考のレッスン」や「情報整理のレッスン」が設けられるなど、3領域の学習に関連させ、繰り返し活用できる工夫がされている。(1年 pp. 52～53) ・ 1年の p. 22 「シンシユン」と p. 106 「星の花が降るころに」はいずれも友人関係をテーマにしている。身近なテーマではあるが、掲載される教材数には限りがあるため、違うテーマのものがよい。 ・ 3年古典の単元の時期がやや遅い。 	

種目（書写全4者）

発行者名	1. 東京書籍
<p>文字を正しく整えて速く書くための知識・技能が「書写のかぎ」と名付けられ、各单元に一つ明示されているため、わかりやすい。各学年に「生活に広げよう」という学習が設定されており、国語や他教科、日常生活に生かすことのできる内容になっている。また、具体的な場面に沿って、書写の学びをどのように生かすかを考えさせているが、場面設定が生徒の実態と合わない部分があり、学習意欲の喚起につながらない。</p>	
発行者名	2. 三省堂
<p>「書いて身につけよう」で繰り返し文字の練習ができるようになっている。また、練習欄は「線あり」から「線なし」になっており、段階的に練習することができ、個に応じた指導への配慮がされている。他教科との関連教材は設けられているが、なぞり書きをするだけのところが多く、身につけた力を生かせる内容にはなっていない。第3学年で行書の復習課題がないため、各学年で硬筆及び毛筆を使用する書写の指導を行うことができる内容とはいいがたい。</p>	
発行者名	3. 教育出版
<p>行書の学習では、「考えよう」で「～させた結果、速く書くことができた」など、速く書くことができるポイントを最後に確認できるようになっている。また、国語・数学・理科・社会・総合的な学習の時間など、各教科との関連を図っており、習得した書写の力を各教科の学習や日常生活に生かすことができるよう、関連付けられている。身につけた力を確認する「まとめ書き」の欄では、お手本がないところがある。</p>	
発行者名	4. 光村図書出版
<p>毛筆課題（楷書）は基本点画を網羅しており、行書課題も初めて学ぶ題材として適切である。書写ブックがついており、毛筆で学習したことを硬筆で繰り返し練習することができ、文字を正しく整えて速く書く力が高められる。国語科や他教科、道徳、日常生活と関連付けながら、書写の能力を育成することができる内容になっている。第3学年の内容「効果的に文字を書くこと」に対応する部分が分かりにくい。</p>	

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 文字の大きさと配列で、第1学年の楷書から、第2学年の行書への移行がよい。 (学校)「書写で学ぶこと」が巻頭にあり、3年間見通せる内容になっている。 第1学年の毛筆(行書)は、課題の文字「光」の難易度が高い。第2学年の行書「豊かな自然」は難易度が高い。 (学校)「書写で学ぶこと」の説明は詳しく記述されているが、紙面が整理されていないため、分かりづらい。 「基本の点画」(p.10~11)に「右上払い」がない。そのため、楷書の毛筆教材が「大志」となっており、楷書の学習内容を十分に網羅しているとは言えない。 行書の五つの特徴をまとめた教材がないため、行書の基礎的な書き方を理解する上で望ましくない。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 書写活用ブックに「人名漢字表」も掲載されており、生徒が自分の記名に対応し易い。 文字を正しく整えて速く書くための知識・技能が「書写のかぎ」と名付けられ、各単元の一つ明示されているため分かりやすい。 小学校の学習を振り返る内容(p.8)が充実しており、チェックしながら基本的な知識・技能の定着を確認できるようになっている。 (学校)教材の硬筆文字から普段書いている文字の課題を見出し、解決について考えたり、言葉に表したりする活動が設定されている。問題解決型の学習となっており、主体的な学びへとつながっている。 「仮名の書き方と字形」の平仮名の一覧(p.16)が50音図になっているが、古典学習との関連から考えると「いろは歌」のほうがよい。また、仮名の書き方のポイントが説明不足である。 手書き文字と活字の違い(p.72)については記述されているが、正誤についての記載がなく、生徒の学習理解に対して不十分である。 「書写テスト」があるが、記載されている場所が統一されておらず使いづらい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 配慮事項、注意事項が多く、1時間の授業の組み立てが焦点化しづらく、説明に時間がかかりすぎる。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> (学校)硬筆を書くコーナーが多いのはよい。 左利き、右利きどちらの場合でも教材文字をしっかりと見ながら書くことができるように配慮されている。 動画や資料があるもの、国語や他教科の学習に関連する内容のもの、関連する内容が示されたページなど、マークがつけられていて分かりやすい。 毛筆教材文字のページにあるインデックスには学習課題を書き込む欄があったり、既習事項が図示されていたり、生徒が確認しやすい。 年賀状の例(p.42)に本文がないのは、はがきの基本形式と異なり、指導上不都合である。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> (学校)毛筆教材は半紙の比率に合わせてあり、半紙での配列の参考になる。

<p>2 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 各学年に「生活に広げよう」という学習が設定されており、国語や他教科や日常生活に生かすことのできる内容になっている。また、具体的な場面に沿って書写の学びをどのように生かすのかを考えさせることができるようになっている。 ・ 単元は硬筆文字から課題を発見し、毛筆で大きく書いて確認し、硬筆で他の文字を書いて定着を図る、というように、毛筆を使用する学習が硬筆で書く力の基礎となるように構成されている。 ・ 「生活に広げよう 防災訓練に参加しよう」(p.75)では、案内表示や看板などを書くことを想定して考える場面があるが、現実的ではない。
--	--

発行者名		三 省 堂
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 第1学年で、行書についてしっかり時間をかけ、習得する内容になっている。 ・ 「この教科書で学ぶ皆さんへ」で学習の見通しがわかるようにしているが、中学生生活3年間の見通しとしてはおおざっぱすぎる。 ・ 全体的に説明が少なく、生徒が何をどのように学ぶのかを理解しづらい内容になっている。 ・ 「名言集」(p.76) はよいが、作成のポイント(評価の観点)についての説明がない。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 「書いて身につけよう」で文字の練習が繰り返しできるようになっている。また、練習欄は「線あり」から「線なし」になっており、段階的に練習することができ、個に応じた指導への配慮がされている。 ・ (学校) 「書き方を学ぼう」では、どこに気をつけて、どのように書けばよいか分かりやすく示され、自学で活用できるよう工夫されている。 ・ 「やってみよう」(p.48, 66) では手順が具体的に示され、活動内容が分かりやすい。 ・ 「書写の広場」の楷書・行書一覧は、常用漢字表のみで、生徒が自分の記名に対応しにくい。 ・ 筆の運び方(p.10)の、穂先・軸の動き・腕の動きの説明がわかりにくい。 ・ 「学習の流れ」(p.5)が、ポイントをつかんで書くことが中心になっており、課題解決学習にはなっていない。 ・ はがきを書くページ(pp.32~33)では、書き方が別ページ(pp.84~85)にあり、お手本もない上に横書きで書いてあるメモや下書きを縦書きで書かなければならず、難しい。 ・ 最初の毛筆教材であるにもかかわらず、1年「天地」(pp.18~19)ではポイントや注意点が示されておらず、正しく整えて書くことが難しい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 各学年の配当時数の中で、無理なく学習計画が立てられる分量となっている。 ・ (学校) 第3学年の授業時数に対しての分量が少ない。第3学年も行書の復習の課題があったほうがよい。 ・ (学校) 第2学年の授業時数に対する分量が少なく、全体的にページ数が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 第1学年、第2学年、第3学年と学年ごとに色分けされており、使いやすい。 ・ 毛筆補充教材の手本の種類が多い。 ・ 行書学習の組み立て方・課題の内容・分量がよい。行書の確実な上達が見込める。 ・ (学校) 行書と楷書の違い(p.36)がわかりやすい。あとの学習にもつなぎやすい。 ・ 全体に、説明→毛筆→硬筆→コラムの構成に統一されている。 ・ 片付け方の動画があるのはよい。 ・ 点画の組み立て(p.14)は例字が小さすぎる。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供や筆のイラスト(キャラクター)(p.10)が粗末である。 ・ (学校) 紙の性質がつるつるしており、書き込みづらい。

2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 毛筆で書いて確かめた内容を、「書いて身につけよう」などの豊富な書き込み欄を使って、硬筆の文字に生かすことができるように工夫されている。 ・ 他教科との関連教材 (p. 31, pp. 56～57) は設けられているが、なぞり書きをするだけであり、身につけた書写の力を生かせる内容にあまりなっていない。 ・ 2年「やってみよう 情報誌を作ろう」(pp. 66～67) は日常生活の中で機会があまりない。また、「情報誌」作成の準備のための負担が大きい。
----------------------------	---

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 第1・第3学年は、教科の目標達成に結びつく内容になっており、内容の程度はその学年の発達の段階に適応している。 最初にノートのとめ方があり、これからの「学び」に対する意識・目的がはっきりする。国語科だけではなく、他教科の整理の仕方があるのがよい。 第2学年の行書の課題は楷書に近い。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> (学校)「学習の進め方」(p.8)は主体的、課題解決的な学習が重視されている。 筆圧の説明(p.14)が、わかりやすい。横画、縦画などの基本点画と併せて表記しているので、理解しやすい。 文字の大きさと配列では、短冊、半紙の書式が掲載されている。また、色々なサイズの紙に、2～5行などで書いている手本を載せているのがよい。作品の最後に、「・・・の詩 △△かく」と記しているのもよい。 楷書と行書の違い(p.43)がわかりやすい。 「書写テスト」は学習内容に沿っており、評価や入試対策として活用できる。 筆記用具や硬筆練習、教材を選択する場面があり、生徒が主体的に取り組むことができるように工夫されている。 楷書・行書に調和する仮名のポイント解説がない(p.26, 66)ため、どのように書くのかが分かりにくい。 (学校)とめ書きの欄ではお手本がないところがあり、苦手意識をもっている生徒にとっては難しい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 一年生で、毛筆の楷書・行書の基礎学習がしっかりできる計画になっている。 「学習を生かして書く」(pp.52～53)は、まとめと応用になっており、練習量の少ないまま、応用に入ることになるので、難易度が高い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> (市民)手本にくせがなく、見やすい。朱色での筆の動き(流れ)を示した手本もわかりやすい。 「目的に合わせて書こう」(pp.4～5)は、ひと目で実生活に書写の学習を生かそうというメッセージが伝わり、書写のねらい・学習の進め方が明記されているのがよい。 全体に毛筆→硬筆→コラム(発展)の流れで統一されていてよい。 (学校)「短歌を短冊に書く書式」(p.69)は、国語で短歌を創作する指導と並行して活用することができる。 読みがなや筆順が示された字が多く、動画収録、学習手順の提示により、すべての生徒が学びやすく、文字を正しく書くことにつながっている。 話し合ったことや考えたことを書く欄が用意され、学習の深まりに有効である。 上から撮影の動画は生徒目線でわかりやすい。運筆などを動画で視覚的に確認することができるようになっている。 行書の学習では、「考えよう」で「～させた結果、速く書くことができた」など、速く書くことができるポイントを最後に確認できるようになっている。 イラストや写真が効果的に使われ、学習内容や活動内容が理解しやすい。 学年ごとにページが色分けされており、分かりやすい。 硬筆での行書学習において、スモールステップの手立てがほしい。 「コラム」(p.86)の「発展」という文字が小さく、目次にも明示されていないので、発展的な学習内容であることが分かりづらい。

	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 半紙形を維持した紙面によって、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさと余白の取り方が分かりやすい。
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> (学校)「学習の進め方」(p. 8) は毛筆が硬筆による書写の能力の基礎を養うという根幹を押さえている。 (学校) 国語・数学・理科・社会・総合的な学習の時間など、各教科との関連を図っている。 pp. 30～36 他教科の学習に活用できる。 p. 82 新聞・ポスター・案内状について掲載されている。 pp. 100～112 この書式集を書写で扱くと、様々な学習場面で好都合である。 pp. 110～111 他教科につなぐことができる。 (学校)「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」「書写の教室」では、習得した書写の力を各教科の学習活動や日常生活に生かすことができるよう、関連付けられている。

発行者名		光 村 図 書 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毛筆では、第1学年で楷書の基本点画、行書の基礎が押さえられており、第2、3学年の行書も発展学習にふさわしい課題が用意されている。 ・ (学校) UD書体の紹介があり、筆記ではなく、パソコン使用の際の文字の選択のありかたを考えることができる。将来の社会を見据えている。 ・ 第3学年の「効果的に文字を書くこと」についての学習内容が分かりにくい。
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校)「学習の進め方」(p.36)は主体的、課題解決的な学習が重視されている。 ・ 漢字字典には、楷書と行書を比較した「人名漢字表」も掲載されており、生徒が自分の記名に対応しやすい。 ・ 毛筆について、学習する内容が絞られており、「点画の変化」などのタイトルの文字、「考えよう」など活動内容の文字も大きく、ひと目でわかる。 ・ 毛筆では、筆圧が数字で示され、文字を書く際の力加減が分かりやすいよう配慮されている。 ・ 行書の見開きのお手本には名前が書かれているため、字の大きさや配置が分かりやすく、個に応じた指導への配慮がされている。 ・ 楷書の学習では、毛筆課題の解説があまりされておらず、ポイントが分かりづらい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行書学習の組み立て方・課題の内容・分量が適切であり、行書の確実な上達が見込める。 ・ 必要な事柄が簡潔にまとめられており、情報量が最低限度であるため、支援を要する生徒にも配慮されている。 ・ (学校)毛筆と硬筆の学習内容の分量・バランスがよい。 ・ 第1学年に毛筆の課題が多く、すべてを取り上げると授業時数に対してやや多めである。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校)教科書に「書写ブック」がつけられており、別冊を購入しなくても学習できる。 ・ 片付け方の動画があるのはよい。 ・ 「書写テストに挑戦しよう」(p.20)は、入試の実情に合っている。 ・ 「学習の窓」には目標に沿ったポイントが書かれており、学習の深まりに有効である。 ・ QRコードは、各ページに設けられており、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、自主的・自発的な学習を促すとともに、個に応じた指導に対して有効である。 ・ 「書写ブック」は、紙の耐久性や切り離れた後の管理に課題がある。 ・ 目次の文字が小さく、詰め込みすぎている。 ・ 「楷書と行書と使い分け」で区切っているが「1学年と2学年の区別」(p.66)「2学年と3学年の区別」(p.92)がわかりにくい。 ・ 「文字の使い分け」(p.96)で提示した明朝体の「は」は、2、3画目が連続しており違和感がある。下部掲載の「永」で比較した方が明朝体とゴシック体の使い分けを学ぶのに効果的である。 ・ 年賀状の例(p.118)に日付がないのは、はがきの基本形式と異なり、指導上不都合である。 ・ 「私の好きな言葉」(p.105)で例として示した伊藤美誠の筆跡は、文字を正しく整えて書く指導を行う書写学習の資料としてそぐわない。 ・ 動画は、斜めからの撮影であり、全体の形が確認しにくい。

	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙面の構成がすっきりしており、使いやすい。 ・ (学校) 印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式や材料などが適切である。 ・ 「書写ブック」の点画が変化している部分は、赤で色を変えていて、わかりやすい。 ・ (学校) 「速さを比べてみよう」(pp. 52～53)の構成や「全国文字マップ」(pp. 92～95)の解説等は、やや粗雑な印象を受ける。 ・ 「楷書と行書の使い分け」のイラスト(p. 87)は、パンフレットではなく、リーフレットである。
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学習の進め方」(p. 36)毛筆が硬筆による書写の能力の基礎を養うという根幹を押さえている。 ・ 「書写ブック」が付いており、毛筆で学習したことを、硬筆で繰り返し練習することができ、文字を正しく整えて書く力を高められる。また、学習内容を確実に身に付けることができる。 ・ (学校) 国語科や他教科、道徳、日常生活と関連付けながら、書写の能力を育成することができる内容となっている。

種目（ 社会・地理的分野 全 4 者）

発行者名	1. 東京書籍
<p>各単元の学習を3段階の問いで構造化し、細かいステップで課題を解決していくことができ、思考・判断した内容を、適切に表現する力を身に付けられるようになっている。また、様々な思考ツールが紹介され（p.31等）、対話的な学びが効果的に実践できるようになっている。しかし、項目の説明文の中には、生徒の確実な理解のための配慮が足りないものが見られる。</p>	
発行者名	2. 教育出版
<p>「学習課題」、「確認」、「表現」（p.11等）が各ページに記載され、毎時間、表現活動ができるように配慮されており、1単位時間ごとの学習内容を確実に定着させることができる。しかし、単元全体を貫く問いの工夫が足りず、単元を見通した問題解決的な学習の設定が難しい点がある。また、資料の中には生徒の理解につながる配慮が足りないものがある（p.20等）。</p>	
発行者名	3. 帝国書院
<p>「章の問い」「節の問い」の単元を貫く問いや学習課題（p.2等）を設け、生徒が問題解決的な学習の見通しをもつとともに、「確認しよう」「説明しよう」（p.3等）で振り返り活動が行えるので、自主的・自発的な学習を促し、学びを深めることができる。また、教師が取捨選択して活用できる資料が多く掲載されているので、多面的・多角的な思考を促す効果的な指導を行うことができる。</p>	
発行者名	4. 日本文教出版
<p>1単位時間ごとの学習課題と「見方・考え方」（p.2等）が明記され、何を、どのように学ぶのかを明確にできる。また、「アクティビティ」（p.81等）では、思考ツールが適宜紹介され、学びを深めることができる。しかし、話し合う活動の設定が少なく、各ページに掲載されている資料が不十分なため、調べまとめる技能を身に付けることが困難である。</p>	

発行者名		東京書籍
観点		
1 各教科 共通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 日本の略地図の描き方 (p.30) は、詳細に分かりやすく解説されている。 (市民) 防災・減災の取組 (pp.164~167) やアイヌ民族の文化 (p.268) について掲載されており、防災や安全についての意識や多文化共生の重要性を意識できるものとなっている。 「日本の諸地域」において、地域の特色をとらえる視点 (p.184) が整理され、各地域をとらえる効果的な視点が設定されている。 世界の略地図の正確な描き方のポイントが十分に押さえられていない。 (市民) 地球的課題については、SDGs との関連や各地域の特徴的な課題をとらえにくい内容となっている。 (学校) 領土問題について、歴史的にも国際法上も我が国の主張が正当であることが伺える記述がない。特に、北方領土について (pp.26~27)、「ロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けている」という記述はあるが、「返還を求めている」という記述がない。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体を貫く「探究課題」(p.7等) が、導入で的確に設定されているので、単元全体の学習に見通しをもたせ、生徒の主体的な学習を促すことができるように配慮されている。 各章の導入部 (p.6等) で、小学校社会科で学習した内容を用語や写真で振り返る活動が設けられ、小学校の学習から中学校の学習へと円滑に接続できる。 「みんなでチャレンジ」(p.31等) が適宜設定され、適切な思考ツールが紹介されているので、対話的な学びの実現がしやすくなっている。 時差や等高線の解説など、項目の説明文の中には、丁寧に解説されているが文章が長く、生徒の理解に配慮が足りない内容のものがある。また、ヨーロッパ地方に日本の位置が示されていないなど、細やかな配慮が不足している。 QRコードを活用しないと、他分野との関連がとらえにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 寒帯を1単位時間で設定するなど授業時数からみて適切な分量である。 日本の自然災害の対応・復旧では、自助・公助に関する内容が不足している。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 写真と地形図 (p.146) を並べたり、課題意識が高まる写真を掲載したりするなど、効果的な資料の配置が工夫されている。 本文にキャラクターが配置されておらず、学習に必要な情報に集中できる。 該当ページから直接QRコードを読み取ることができず、活用を図りにくい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 本文と資料で背景が色分けされており、区別しやすくなっている。 (学校) 特別支援教育の観点から、陰影などが極力控えられている。 淡い色づかいになっており、資料が読み取りにくい。 生徒氏名記入欄に学年・学級を記入する欄がない。
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> 各単元の学習を、単元全体を貫く問いである「探究課題」と、その解決を補助する問いである「探究のステップ」、1単位時間の学習のめあてである「学習課題」の3段階の問いで構造化し、細かいステップで課題を解決していくことで、思考・判断した内容を、適切に表現する力を身に付けられるようになっている。 まとめの活動において、「『先生』になって小学生に伝えよう」(p.194) や「『地球サミット』の参加者になって持続可能な地域像を考えよう」(p.206) などの課題が適宜示され、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や実生活へと結びやすいものとなっている。 各単元のまとめにおいては、社会科として大切にしたい言葉の整理が不十分であり、基礎的・基本的な内容の定着が図りにくい。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の学習の視点を歴史的背景にしていることは、第3学年修学旅行と関連させて深めることができる。 日本の略地図の描き方(p.27)では、東経135度の経線が強調されていないなど、ポイントが十分に押さえられていない。 (市民)SDGsは「地理の学習を始めるにあたって」(冒頭Ⅳ)に記述があるだけで、各単元の学習との結びつきが十分ではない。 「世界の諸地域」で取り上げる地球的課題について、北アメリカもオセアニアも多民族の共存の問題を取り上げており、他の課題設定が望ましい。 竹島や尖閣諸島について、日本の固有の領土であることの正当性について歴史的なことにはあまり触れられておらず、「解決すべき領有権の問題は存在していない」という明確な記述がない(pp.24~25)。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 「学習課題」、「確認」、「表現」(p.11等)が各ページに記載されるとともに、毎時間、表現活動ができるように配慮されており、1単位時間ごとの学習内容を確実に定着させることができる。 (学校)「地理の学習を始めるにあたって」(冒頭Ⅱ~Ⅲ)において、小学校社会科の振り返りと、中学校社会科を見通すことができ、小学校社会科との接続と関連を図ることができるように配慮されている。 単元を貫く問いの工夫が足りず、単元全体を見通した問題解決的な学習の設定が難しい。 時差を解説する図(p.20)において、太陽の光による明暗が区別しにくいなど、生徒の理解につながる配慮が足りないものがある。
	(2) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの学習についてロシアを見開き2ページ(1単位時間)で取り扱うよう設定しており、冷帯から寒帯にかけての学習が充実している。 言語活動等の工夫が少なく、学習のまとめの内容や表現の量が乏しい。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 用語解説(pp.282~287)は、用語や関連ページが太字で見やすい。また、巻末の写真資料が充実しているので関連付けて学習を深めやすい。 諸地域の学習では、地勢図が必ず掲載されており(p.50等)、地図帳を併用しなくとも地形的な情報を得ることができる。 日本の気候において、地図の都市と雨温図の都市が一致していない(p.157)。 QRコードが各章の最初のページにしか掲載されておらず、関連資料をすぐに検索することができない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 地図の色が薄く、読み取りづらい。 地勢図の黒の細字や河川名、平野名の青字や緑字は見にくい(p.50等)。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 「地理の窓」(p.19等)は、学びを掘り下げ、視点を変えたり視野を広げたりすることができる。 「特設ページ」(p.64等)は、地域づくりや多文化共生から社会参画や持続可能な社会などを考えられるものである。 (学校)学習課題は、やや易しい課題となっており、生徒の学習状況に応じた評価規準が設定しにくい。 学習のまとめと表現(p.46等)では、語句のチェックと学習内容の確認がほとんどであり、学習した内容について、考察・議論する力の育成という観点から不十分である。 (学校)資料を読み取る視点の提示が少なく、地理的技能を高める上での不十分さがある。 	

発行者名		帝国書院
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 世界の略地図の描き方 (p. 12) について、ポイントが的確に解説されている。 (市民) 巻頭や「未来に向けて」(p. 69 等)、「地域の在り方を考える」(p. 186 等) など、SDGs と関連させた内容が多く充実している。 (市民) 環境・防災・共生を主題とする題材を十分に取り扱っており、持続可能な社会について生徒が考えられるものになっている。 竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題が的確に取り上げられている。また、尖閣諸島についても我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも明記されている (pp. 20~21)。 日本の略地図の描き方 (p. 24) については、同緯度などポイントとなる内容が不足している。 (市民) 学習内容として、公害克服などについて北九州市の事例が十分に取り上げられておらず、シビックプライドを醸成する上で不十分である。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 「地理的分野の学習の全体像を見通そう」(巻頭7) により、日々の学習が教科や分野全体にどのように位置付けられているのかについて、生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができる。 「章の問い」「節の問い」の単元を貫く問いや学習課題 (p. 2 等) を設け、生徒が学習内容に見通しをもつとともに、「確認しよう」「説明しよう」(p. 3 等) で振り返り活動が行えるので、自主的・自発的な学習活動を促すことができる。 (学校) 巻末に用語解説や統計資料がなく、基礎的・基本的な内容を押さえる上で、配慮が不足している。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 教師が取捨選択して活用することができる資料が多く掲載されている。 (市民) 1 単位時間で扱う学習内容に差があり、授業時数からみて難しい部分がある。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> QRコードが様々な項目で設けられ、関連した内容を取得することができる。 諸地域の学習の冒頭においては、写真から地域を概観することができる「写真で眺める・・州(地方)」が掲載され (p. 48 等)、生徒の学びに向かう意欲を喚起することができるとともに、資料性が高く、授業での活用が可能である。 等高線の解説 (p. 136) などが図示され、分かりやすく記載されている。 文字数が多く、生徒の読み取る力による差が出やすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 色合いが鮮やかである。 小口部分を各単元で色付けし、ページ区分が分かりやすい。 紙の色が濃いため、字が太く暗い印象をうける。 地図中の国名が赤文字のみで見づらい (p. 50 等)。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域の学習における単元を貫く問いは、必ず「地域にどんな影響を与えたか」という形で掲載されており、何を考えるかが明確である。 諸地域の学習では、章の冒頭に「序説」を設け、学習の内容や方法を概観することで、生徒の主體的に学習に取り組む態度の醸成に資するものとなっている。 「声」(p. 42 等) や「地域のあり方を考える」(p. 186 等) のコーナーは、それぞれの地域における課題などを考えるきっかけとなり、地域の実情がとらえやすい。 比較写真が適宜用意され、相違点や共通点から地理的な特色をとらえやすい。また、豊富な資料の掲載により、多面的・多角的な思考を促す効果的な指導を行うことができる。 南アメリカ州の学習のまとめ (p. 119) や九州地方の学習のまとめ (p. 185) では、ほぼ完成された内容が掲載されていることから、生徒の活動を限定してしまうことが懸念される。 	

発行者名		日本文教出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 「世界の諸地域」で取り上げる地球的課題 (p. 43) については、各地域の特徴的なものが取り上げられている。 「日本の諸地域」において、近畿地方で歴史的背景を観点としている (p. 192) ことは、第3学年の修学旅行に関連させて深めることができるためよい。 竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題が的確に取り上げられている。また、尖閣諸島についても我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも明記されている。(pp. 18~19) 世界や日本の略地図の描き方 (p. 22) について、解説が難しくポイントがとらえづらい内容となっている。 (市民) SDGsについては、「日本の諸地域」のまとめでの記述程度 (p. 262) であり、内容的に不十分である。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間ごとの学習課題と「見方・考え方」(p. 2等) が明記され、何を、どのように学ぶのかを明確にできる。 「アクティビティ」(p. 81等) では、思考ツールが適宜紹介され、学びを深めることができる。 ページの下方に小学校や他分野との関連が記載され (p. 172, p. 174等)、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。 1単位時間ごとの問いはあるものの、単元全体を見通した問いの設定がないことや各時間の話し合い活動の設定が少ないため、問題解決的な学習を繰り返しながら思考を深めていくことへの配慮が不足している。 日本の地域的特色において、造山帯や地震の多い地域についての資料が掲載されておらず、特色をとらえる上での配慮が不足している。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 持続可能な社会について取り扱う内容 (pp. 66~67) や地域調査の学習 (pp. 118~137) など、授業時数から見て十分な内容が設定されている。 (市民) 防災・減災について、十分な内容が記載されている。 アフリカ州・南アメリカ州・オセアニア州が3単位時間、我が国の産業構造の取り扱いが1単位時間であることは、授業時数に照らして不十分である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> データへリンクできるQRコード(冒頭Ⅶ)や当該語句を主に取り扱うページが太字で記された索引(pp. 284~286)など、活用しやすい。 「日本の諸地域」の学習では、地域ごとに追究するテーマが示され(p. 163)、多面的・多角的に考察する上で効果的である。 (学校) 生徒が考えを書き込めるスペースが確保されている(p. 71等)。 写真や資料について、一部小さく活用しにくいものがある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 小口部分が各単元で色付けされており、ページ区分が分かりやすい。 グラフなどの諸資料では色使いや項目ごとの模様配慮がある。 地形資料が黒字になっており、読み取りにくい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 「スキルアップ」(p. 11等)や「地理+α」(p. 13等)などが適宜掲載され、地理的技能につなげたり、内容を深めたりできる。 「チャレンジ地理」(p. 94等)では、自ら調べたり、グループで議論したりする上で順序よく学習を進められるようになっており、説明し、議論する力を養うことができる。 単元を貫く問いについては、学習の結末が学習前に予測できてしまう部分がある。 話し合う活動の設定が少なく、各ページに掲載されている資料が少ないため、調べまとめる技能を身に付ける上で不十分である。 	

種目 (社会・歴史的分野 全 7 者)

発行者名	1. 東京書籍
<p>「単元を貫く問い」を設定し、その課題を追究するために毎時問いを設定する等、「問い」を軸にした単元の構造化を図り、課題解決的な学習をより充実させている。また、単元末では、「思考ツール」を用い、学習したことを多面的・多角的に考察、整理できるように工夫されている。(p. 214～p. 215) しかし、見開き1ページに「学習課題」「みんなでチャレンジ」「チェック」「トライ」「見方・考え方」等の学習活動や「歴史にアクセス」などコラムが掲載されるなど、1時間の授業で取り扱うには内容量が多い。(p. 111)</p>	
発行者名	2. 教育出版
<p>導入部分で、「歴史的な見方・考え方」について平易な言葉でわかりやすく解説したり、(p. 14～15) 小学校、他教科、他分野との関連をマークで示したり、いつの時代を学習しているのかが一目でわかる「時代スケール」をタイトルの上につけたりするなど、生徒が使いやすい教科書のつくりとなっている。</p> <p>しかし、各章末の「学習のまとめと表現」(p. 205) は、知識を確認するものが多く、思考力・判断力を問うたり、知識の概念化(知識をさらに深めるもの)を図ったりするものになっていない。</p>	
発行者名	3. 帝国書院
<p>単元ごとの課題を探究したり解決したりする問いと、一単位時間の問いが解決に向けて段階的に設定されており、課題解決的な学習が行いやすい。また、「多面的・多角的に考えてみよう」(p. 144～p. 145) というトピックや各章のまとめにおいては、多面的・多角的に考察を行えるよう学習活動や問いの工夫がなされている。しかし、歴史的な見方・考え方が、導入ページ(p. 12)にしか提示されておらず、歴史的な見方・考え方を働かせて学習を行うには、取り扱う量が少ない。</p>	
発行者名	4. 山川出版
<p>「・世紀の世界」というコラムの設定や国際関係の図式化(p. 214, p. 242等)、導入の世界地図等、世界とのつながりから日本の歴史をとらえやすい。高校との接続を意識した学習内容となっているが、反面、海船互市新令や神仏分離令、公武合体等高校で取り上げられる内容や資料が散見されたり、文章量が多かったりと生徒にはやや難しい内容になっている。また、単元を貫く問いや歴史的な見方・考え方が設定されておらず、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現する上でやや不十分である。</p>	
発行者名	5. 日本文教出版
<p>1時間ごとに、「歴史的な見方・考え方」を設定し、その中で「差異」「比較」等のキーワードを提示することで、歴史的な見方・考え方を働かせた課題解決的な学習活動が常にできるように仕組んでいる。また、「アクティビティ」では、資料を読み取り、比較、考察しながら各時代の特色をとらえることができる。(例：p. 53, p. 105等) さらに、「地域を調べる」では、北九州市が掲載されておりシビックプライドが醸成できる。しかし、単元を貫く問いの設定では、主体的に課題を発見する導入の工夫が見えづらい。</p>	
発行者名	6. 育鵬社
<p>各章に「歴史のターニングポイント」や「博物館のレイアウト」などの学習活動が仕組まれており、時代の転換を様々な立場や意見から、選択・判断したり、議論したりする力を育成することができる。(p. 64, 98, 150, 210等) しかし、「黄禍論」や「聖断」といった用語が散見され、中学生の内容としてはやや難しい表現が見られた。また、歴史的な見方・考え方が明示されておらず、かつ、単元を貫く問いと学習のまとめに一貫性が見られないため、見方・考え方を働かせた課題の追究や解決を図りづらい。</p>	
発行者名	7. 学び舎
<p>民衆や男女、様々な階層や立場から活躍した人々を資料やコラムなど、豊富に取り上げており、歴史的事象を多面的・多角的に考察することができる。(p. 131) また、各時代の営みに関する題材においては、女性の生きる姿を具体的に描いている。しかし、アブ・フレイラ遺跡や後期倭寇の記載などの中学生には難しい内容も散見される。また、A4判と縦長く、持ち運びに不便で使いづらい。また、歴史的な見方・考え方、単元を貫く問いについても表記されておらず見方・考え方を働かせた課題の追究を図りづらい。</p>	

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容となっている。 学習指導要領に示す内容が過不足なく取り扱われており、生徒の発達の段階に適切している。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 他分野及び他教科に関連を示すマークが充実している。また、1年生には、学習課題が平易な表現で書かれており、発達段階に応じた配慮がみられる。 (学校) 各単元に「思考ツール」が設定されており、多面的・多角的に考察したことを書いてまとめたり、伝えたりすることで言語活動の充実を図りやすくなっている。 (学校) 「資料から発見！」では、各時代の特徴的な絵画資料とその他の様々な資料を読み取るための段階的な問いがあり、生徒の自主的・自発的な学習を促すことができる。 (学校) 見開き2ページに、「学習課題」「みんなでチャレンジ」「チェック」「トライ」「見方・考え方」「歴史にアクセス」等の活動が多く、すべてを一単位時間で取り扱うには多い。(例：pp. 34～35、pp. 170～171、pp. 214～pp. 215等) 発展的な学習である「もっと歴史」は、読み物だけでなく問いや学習活動が混在しているため、やや生徒への負担が多い。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、調べ学習の時間を6時間取得しても全130時間(予備5時間)となり授業時数から見ても適切である。 単元及び学習内容に偏りはなく、全体的に調和がとれている。 近現代では、為政者の立場からの記述がやや多くなり、多面的・多角的に学習しづらい面がある。(戦前、戦後、水平社等)
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を追究するにあたって、資料、注、本文が効果的に関連づけられており、学習を進める上で活用しやすい。(p. 86、p. 190、p. 258等) (学校) 単元や一時間の授業ごとに、「まとめの活動」が設定されており、自分の考えを再構成する場面が設定される等学習の深まりに有効である。 (市民) 小学校で取り扱った歴史上の人物を改めてトピックとして取り上げているため、小中での関連が図りやすい。 巻末の年表に年号とできごと以外のことが多く書かれており見づらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> (学校) ユニバーサルデザインフォントが利用されており、視認性は良い。 (学校) カラーの部分、落ち着いた配色であるが、ややくすんだ印象を受ける。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な見方・考え方について丁寧な解説があり、また、随所に歴史的な見方・考え方を働かせた資料の読み取りやまとめ、振り返りが設定されている。 「単元を貫く問い」を設定し、その課題を追究するために毎時の問いを設定する等、「問い」を軸にした単元の構造化が行われており、ていねいに課題解決を図ることができる。 「基礎・基本の確認」と「要約・説明」という2段階で言語活動の充実を図るよう工夫されている。また、字数やキーワード等の支援があり、記述の苦手な生徒でも取り組みやすい。(p. 85) (学校) 各単元に、Xチャート等の多様な思考ツールを用いた単元の課題解決の場面が設定されており、思考力・判断力・表現力の育成に適している。(p. 60、p. 96他) (学校) 単元最後の「まとめの活動」には、「トライ」や「みんなでチャレンジ」等が設定されており、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断する力、説明する力を養うことができるものとなっている。(例：p. 60、p. 96、p. 146等) 本編で文化学習に取り組んだ後に、一つの資料を深く読み解くトピックが用意され、文化を学ぶ面白さや、奥深さを感じ取れる構成になっていることで、我が国の伝統や文化を尊重する態度を養うことができる。 	

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 「もっと歴史」や「歴史にアクセス」に SDG s の視点や現代的な諸課題の解決について具体的な資料が明示されたり、人権、環境等の視点がマークとしてつけられたりする等、よりよい社会の実現に向けた考察ができるよう配慮されている。• 「読み取る」「考える」「まとめる」等の思考力や表現力を育成する問いが示されているが、1 単位の学習に対して活動内容が多い。• 各ページに設定されている学習課題が、「どのように」「どのような」という問いの設定が多いため、知識の概念化を図るには、教師が意図的に活動や問いを仕組まなければならない。 |
|--|

発行者名		教育出版
観点		
1 各教科 共通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標及び内容に準拠したものとなっており、難易度も適切である。 学習指導要領の内容について、過不足なくまとめられている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 「小学校マーク」や地理・公民的分野に関連する項目が、分かりやすく明記されており、系統的・発展的な指導が行えるように配慮されている。 「学習のまとめと表現」については、自分の言葉で表現する「書く」活動は多いが、意見交換や練合い等の題材は少なく、「対話的」という観点からは、やや不十分である。 問題解決的な学習のページは用意されているが、キーワード等の記載がなく、記述や説明の苦手な生徒には難しい。(pp. 205~206)
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 一文が短く簡潔に書かれており、かつ一単位時間の文章量も適切である。 (学校) 予備時間の設定がないため、教師が生徒の実態に応じて弾力的に指導を行う時数が限られる。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 各ページのタイトル部に「時代スケール」が示されているので、生徒が学習する際にどの時代の学習をしているのか、理解しやすい。 適切な資料が適切な位置、分量で掲載されており、また、重要文化財、国宝等のアイコンが見やすく設定されているため、文化財を尊重し、また、過去と現在をつなげやすい。 各章末のまとめの3ページ目に時代の特色と前時代の特色とを比較して考察する問いを設定したり、次の時代の扉ページと隣合わせで配置したりする等、時代の転換を捉えやすくしている。 デジタルコンテンツ「まなびリンク」が用意されているものの、データベース等へのリンク集に過ぎない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> (学校) ユニバーサルフォントの使用や行間が適切で、非常に見やすい。 資料の説明文の文字頭が揃っていないところがあり、読みづらい部分もある。(p. 173の5、p. 175の7)
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の教科書に掲載されている人物を小学校のアイコンで表示されており、小学校の歴史学習とのつながりが強く意識できる。 導入の部分では、歴史学習の要となる「歴史的な見方・考え方」が具体的で、かつ、平易な言葉で解説されていることから、歴史学習に必要な視点を意識させやすい。 見開き2ページの中に、「歴史の技」や「読み解こう」等が設けられており、資料を読み取る力や資料活用のスキルを身につけ、歴史事象を考察しやすくなっている。(p. 171) (学校) 古代ローマや市民革命期のヨーロッパ等の民主主義の来歴についての資料が充実している。さらに、「歴史学習の終わりに」では、SDGsについて取り上げ、主体的に現代的課題について自分たちに何ができるのかを考えて終わるような工夫が見られる。 各ページに学習課題の記載はあるが、単元を貫く問い(探究課題)の設定でないため、教師が意図しなければ、単元を通しての課題解決が図りにくくなり、生徒が大きな歴史の流れをとらえにくくなる場合がある。 各章末に設定されている「学習のまとめ」が知識・理解に関するまとめが多く、各時代の特色を多面的・多角的に考察したり、他時代との比較をしたりするものにはなっていない側面がみられる。 	

観 点		発行者名 帝 国 書 院
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領と照らし合わせても、内容の範囲は適切であり、資料や文章の難易度も適切である。 ・ 学習指導要領に示す内容が過不足なく取り扱われており、内容の程度も生徒の発達段階に応じている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「小学校」や「地理」「公民」といった他分野、「SDG s」との関連が示されている。 ・ (学校) 各単元や学習課題のまとめで自分の言葉で説明する場面や、「タイムトラベル」や「多面的・多角的に考えてみよう」等の課題探究の場面があり、言語活動が充実している。 ・ 言語活動に関する課題では「書き出そう」「説明しよう」が多く、対話を促すような題材や課題は少ない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の分量は授業時数から見て適切である。 ・ 為政者だけでなく、民衆の視点や経済、文化等多くの視点から時代や事象の考察ができ、多面的・多角的に学習を進められる構成になっている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料が豊富に掲載されているため、教科書の資料だけで十分に多面的・多角的に課題を追究することができる。 ・ SDG s のマークがコラムにあり、歴史学習の中でも現代的課題を意識するように工夫されている。 ・ 巻末の年表では、図、資料をいれており、当時の仕組み等がわかりやすい。 ・ (学校) 本文中の内容以上の情報が詰め込まれ、余白が少ないページが散見されるため、情報量が多いと感じる。(p. 224 第二次世界大戦参戦国)
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 隣接する図やグラフが、はっきりと異なる色で配色され、見やすい。 ・ (学校) ユニバーサルデザインフォントが使用されており、文字は非常に読みやすい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 単元を貫く問い（「章の問い」「節の問い」「学習課題」）、言語活動を備えた学習の振り返り（「章の学習を振り返ろう」「節の問いを振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」）等を設定しているので、段階的に学習課題を追究する学習活動を行うことができる。 ・ 「章の問い」「節の問い」「学習課題」の設定が、具体的でわかりやすく、若年教員が「めあて」を考える際の手がかりとすることができる。 ・ (学校) 「主体的な学び」を実現するために、紙面全体にわたる大きなイラストから各時代を概観する「タイムトラベル」がある。 ・ (学校) 「技能をみがく」コーナーが段階的に 12 テーマ設定されており、歴史に関する情報を調べ、まとめる技能が身につくようになっている。 ・ (学校) (市民) 人権に関するコラムが 17 か所も設けられており、人権意識を高めることにつながると考えられる。 ・ (学校) 「多面的・多角的に考えてみよう」というコラムが設けてあり、複数の立場や意見を踏まえて歴史的な事象について考察する力を養うことができる。(pp. 144～145, pp. 188～189, pp. 230～231) ・ 歴史的な見方・考え方のページが冒頭 (p. 12) のみ掲載である。子どもが意識して歴史的見方・考え方を働かせたり、教師が意識して指導したりするには取り扱う量が少ない。 ・ 課題や問いが具体的ではあるが、一問一答の体になっていることは否めず、生徒の多面的・多角的な考察を促すとは言い切れない。ゆえに、生徒がいくつかの選択肢の中から公正に何かを選択するという活動にはいたりにくい。 	

観 点		発行者名 山 川 出 版 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 世界史も充実しており、日本がどのような歩みを経て現在に至ったかを、世界と日本の関わりからわかりやすく理解でき、教科の目標達成に結び付く内容になっている。 (学校) 受領、天慶の乱、海船互市新令、神仏分離令、公武合体等、高等学校で取り上げられる事象が取り上げられ、中学生の発達段階では難しい内容になっている。(p. 52、p. 65、p. 132、p. 169、p. 180 等)
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 各ページの「ステップアップ」や、章末のまとめの課題は、端的でわかりやすく、多面的・多角的に考察が可能な内容であり、生徒のまとめのバリエーションが増え、言語活動が行いやすいといえる。 (学校) 文化財の二次元コードからNHK for Schoolのページに移動することで、文化財に関する情報を動画で視聴することができ、生徒の自主的・自発的な学習が促されるように工夫されている。(p. 98 等) 発展的な学習「歴史にアプローチ」は、生徒の身近なテーマ等が設定されており、興味を持って学習することのできる内容である。そのため、歴史の学習が苦手な生徒の意欲・関心を引き出せる内容になっている。(p. 76、p. 200) 他分野・他教科との関連性や小学校の学習内容との関連が示されておらず、系統的・発展的な指導を行うための配慮に欠ける。 資料の読み取りの手がかりとして、注目すべきポイントが記載されているが、質問内容が生徒の発達段階よりも難しいものが多い。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は時数内に収まっている。 (学校) 学習内容や文章量がやや多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 史料や系譜、絵や写真等資料を豊富に配置している。また、大きく見やすく掲載した図版には、発問を付け注目すべき部分を示唆している。 生徒が苦手な歴史的分野でのレポートの作成や課外での学習についての記述が豊富であり、使いやすい。 「歴史を考えよう」「歴史へのアプローチ」「地域からのアプローチ」等では、取り上げた美術作品や史跡等から、課題を話し合い考察しながら歴史を学ぶことができるようにしている。 本文の文末が言い切り調で、文章表現が硬く、「幕府の勸告と調停」のように使用されている語句も中学生にとってはやや難解なものが多い。(p. 84) 資料の難易度が高く、授業での活用が困難なものがある。(p. 72 下地中分図、p. 105 ルターの95 提題 等) 巻末に年表がないため、全体の歴史を振り返る時に活用しづらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 図版が大きく地図やグラフはカラーユニバーサルデザインに配慮され、読み取りやすい作図となっている。 (学校) フォントが小さく、振り仮名も薄く読みづらい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の特色や時代の転換点をとらえるのに、各章末の「まとめ」に推移や因果関係、差異等に着目させる発問が工夫されている。 国際関係が図式化されており、各国の関係や勢力を比較しやすい。(p. 214、p. 242 等) 世界とのつながりをイメージしながら、日本の歴史を捉えやすい。 多くの海外の出来事が掲載されている「・世紀の世界」や「歴史を考えよう」「歴史へのアプローチ」の内容は難易度がやや高めではあるが、関心のある生徒にとっては学びへの探求心を高めるものである。 文化の学習ページだけにとどまらず、文化財の写真や資料がふんだんに使われており、我が国の歴史に愛着を持てるよう工夫がされている。 「身近な地域を調べよう」や「地域からのアプローチ」で、地域の歴史を展開や文化財保護の取 	

り組み等を通して、歴史を学ぶことの現代的な意味を考えさせることができる。(p. 46、p. 58、p. 68、p. 150、p. 205、p. 250、p. 276)

- 単元を貫く問いが設定されていないので、生徒が見通しをもって課題を追究したり、大きな時代の流れを理解したりしにくい。
- (学校) 各章末のまとめに因果関係や推移、差異に着目させる発問が用意されているが、あくまで学習内容の整理にとどまっており、時代の特色を自分の言葉で表現するような問いは設定されていない。
- 課題について話し合い、考察しながら学ぶページとして「歴史を考えよう」のコーナーが設けられているが、資料から読み取れることについて意見交換をするような内容が多く、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断するような学習が少ない。(p. 56、p. 134)

観 点		発行者名 日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領と照らし合わせても、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図れる内容となっており、資料や文章の難易度も適切である。 ヒントの数、ステップの数、文字数等が豊富で、学習課題や本文の内容は、その学年の発達段階に適応したものになっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 小学校の学習内容や他分野との関連をページ下部に示している。 (学校) 資料を基に選択・判断しながら時代の転換期を捉えることができる「歴史にチャレンジ」や「アクティビティ」を設けており、言語活動の充実を図っている。 基本用語解説が本文ページ内にあり、生徒の学習補助に役立つ。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 内容が精選され、予備時数が20時間と十分に配当されて、生徒の実態に即して弾力的に授業計画を立てたり、評価に時間を費やしたりしやすい。 見開き2ページで1授業時間を原則として構成している。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 現行とは異なり、帝国議会に関する学習と不平等条約改正に関する学習が別単位時間の学習として再編される等1単位時間の学習として、まとまりをもたせた構成となっている。(pp.200~203) (学校) 巻末の年表は、写真資料や学習単元も明記されているので、自学自習に使いやすい。 単元のまとめには、答えのページが示してあり、生徒が自学自習を行うのに使いやすい。 各ページの最後にある「深めよう」や「確認」には、ヒントやキーワードがあまり用意されておらず、記述の苦手な生徒は取組みにくいところがある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 歴史的な文化作品や遺産の写真等の図版が大きく掲載されている。 隣り合う色をはっきりと違いの分かる配色をしており、色覚特性の生徒への配慮がなされている。(p.168 アメリカ合衆国の領土の拡大の地図) (学校) ユニバーサルデザインフォントが使用されており、行間も適切で見やすい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 1単位時間ごとに、学習課題のすぐ下に「見方・考え方」の欄を設け、さらに「比較」「差異」「推移」「つながり」等視点を掲示しているため、歴史的な見方・考え方を働かせやすい。 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を通して、「時代の特色」を捉えられるように、第2~6編では、「見通す(導入ページ)」→「考察する(本文)」→「考察する(特設)」→「ふりかえる(まとめページ)」という構成がされている。 (学校) 各編の導入ページに「めあて」として単元を貫く問いが設定されており、各時代の学習に対して生徒が見通しをもつことができる 生徒が基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着できるように、見開き2ページの中で、「学習課題」(一単位時間で学ぶこと)や「見方・考え方」(どの視点や方法に着目するのか)、「深めよう」(学習課題を深める問い)、「確認」(学習課題に対応する問い)が設けられている。 我が国の歴史の背景となるような世界の歴史を理解するため、各編・章の導入ページに世界地図が設けられている。 「地域調べ」では、北九州市の公害克服について2ページにわたって取り上げられており、北九州市の生徒のシビックプライドを醸成するうえで大変有効である。 (学校) 時代の特色をとらえることをねらいとした「アクティビティ」が設けられており、情報を読み取り、比較し、考察する力を育む活動が設定されている。(例:p.53文字の比較、p.105法の比較等) (学校) コラムとして「先人に学ぶ」のコーナーを設け、さらに、生活や文化の発展に寄与した人を取り上げる等、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物等を尊重しようとする大切さについての自覚が深められるようになっている。 	

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ (市民) 各時代の人々の営みに関する題材において、女性の生きる姿を具体的に描くことに力点を置いている。・ (学校) 単元の学習課題があらかじめ設定されており、主体的に課題を発見できるような導入の工夫があまりない。・ 世界の歴史の内容が用意されているが、特に古代から中世においては単独で構成されているものが多く、日本の歴史との関連や影響が理解しづらい。・ 各ページでのまとめが「説明しよう」という説明的知識を確認することが多く、複数の立場からのから広く深く思考したり、選択・判断したりする内容になっていない。 |
|--|

観 点		発行者名	育 鵬 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領と照らし合わせ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図れる内容となっており、資料や文章の難易度も適切である。 (学校)「黄禍論」や「聖断」といった用語等中学校の内容としてはやや詳細で、生徒の発達段階に合わない。 	
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 一単位時間の学習内容を確認するための設問があり、学習内容をまとめたり、「ターニングポイント」のトピックでは、議論が行いやすいテーマを設定したりと、「書く」や「話す」等の言語活動が充実している。 「歴史ビュー」や歴史学習の幅を広げ豊かにする「歴史ズームイン」、歴史を動かした人物を紹介した「人物クローズアップ」、「歴史ズームイン」や「このころ世界は」等、豊富なコラムで、生徒の興味・関心を高め、自主的・自発的な学習を促している。 1 単位時間の学習課題を解決する上で必要となる歴史的な見方・考え方に気づかせる支援がなく、また、各単元のまとめページにおいて、説明を記述させる際、キーワードや例が少ないため、記述の苦手な生徒に対する配慮が足りない。 	
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は授業時数から見て適切である。 授業時数から見て内容はバランスが取れている。 活動、トピックも時数としてカウントしているため、予備時間が設定されておらず、教師が生徒の実態に応じた柔軟な指導が行いにくい。 	
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵や写真、図等が、本文と関連を持たせて用意されている。本文、説明文、資料等は、学習内容と関連があり、有効に使用することができる。 写真や絵画資料等、歴史資料の読み取りに丁寧な解説があり、生徒の興味関心を高めることができる。 見開き2ページが1 授業時間と設定されており、その構成は共通しているが、資料が本文部分にまでかかっているページがあり見づらい。(例：p. 97、113、119) 	
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷が鮮明である。 (学校) フォントが小さく、行間が狭いため読みづらい。 	
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の課題に対して主体的に考えることができるように、過去・現在・未来という時間軸（「タテ軸」）の視点をもって考えることができるテーマを「歴史ズームイン」等で設けている。 日本の大きな歴史の流れで構成された各章に「このころの世界は」のトピックが設けてあり、日本の時代の転換と世界の歴史の関連がつかみやすい。 文化の学習では、代表的な作品だけにとどまらず、関連する作品や活躍した人物が多く取り入れられ、日本の文化を広く学ぶことができる。 各章に1 つずつ「歴史のターニングポイント」や博物館のレイアウトを考える活動が設けられており、時代の転換の様子を複数の立場や意見を踏まえて、選択・判断したり、議論したりする力を養うことができる。(p. 64、98、150、210、252、286) 身近な地域の歴史について調べる「地域の歴史を調べよう」や偉人の足跡を紹介した「人物クローズアップ」、各地域の文化遺産を紹介している「歴史ビュー」等を設け、郷土の歴史に対する興味・関心を引き出したり、郷土を愛する態度を養ったりすることができる。 領土問題を取り扱った「歴史ズームイン」における、近隣諸国との領土に関する説明が法的根拠に基づいており、生徒の視点からも理解しやすい。(pp. 266～267) 各時代に、同時代を生きた外国人が、日本や日本人をどう見ていたのかを紹介し、国際理解を深めることができるように工夫している。 (市民)「献身」「公共」「勇気」「勤勉」等の美德を体現した人物の生き方や、各時代を代表する15人の女性たちの生き方を掲示している。 		

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 各章のまとめのページの最後に、その時代の特色をまとめる課題が設定されているが、「虫の目で見ると」のページに「この時代は・・・の時代！」とすでにまとめが示されているため、大きな歴史の流れを思考させづらい。• 単元を示された導入に示された課題と、学習のまとめ、振り返りとの間に一貫性がないため、単元を貫いて課題解決が図れない。• 歴史的な見方・考え方を働かせるでは、その内容についての解説や使用例はなく、本文で唐突に用いられているため、継続して見方・考え方を働かせることが難しい。• 歴史的な事象や、伝統と文化等の学習が単発的であり、推移や変化を継続的に学習する構成になっていない。 |
|--|

発行者名		学 び 舎
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の内容と整合性が図られており、教科の目標達成に結びつく内容になっている。 (学校) アブ・フレイラ遺跡や倭寇(後期倭寇)の記載等、中学生にとっては難しいと思われる内容があり、生徒の発達段階に即していない。(p.14p.92等)
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習やインタビューの聞き取り方や、討論の方法が丁寧に解説されており、言語活動の取り掛かりとして優れている。 (学校) 学習課題の設定や課題意識の育成、学習内容の定着を図るために、章の冒頭に「章の扉」、章末に「章をふりかえる」、部末に「学習のまとめ」、特設ページとして「歴史を体験する」を設けている。 他教科や他分野、小学校との関連を図る工夫や配慮が見えづらい。 (学校) 重要語句が一目で認識できず、語句解説も少ない等、学習補助となる手だてとなるものが少ない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数から見て、全体の分量、内容は適切である。 ドイツ帝国やハンガリーの独立に1時間、市民革命に4時間、第2次世界大戦敗戦までに15時間等、学習内容の時数に偏りが見られる。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> A3サイズでタイトルや図、資料が豊富にあり、学習が深まるよう工夫されている。(p.100他) (市民) 写真や絵画資料等、生徒の興味や関心を引くものが多い。特に見開き左上の導入の資料とタイトルは生徒の学習意欲を高めるように工夫されている。(p.216) 図版は豊富にあるが、本文の関連する箇所に図版番号が付されていない。 発展的な学習内容の提示はやや分かりにくい。 巻末の年表が縦書きに羅列してあるため、時代区分等の認識がしづらい。また、時代区分の仕方が専門的で難しい。 各章の導入の資料は、様々な事象や特徴を取り上げているが、網羅的であり、単元を貫く問いの設定には向かない。また設定してある問いも抒情的であり、生徒が学ぶべき内容が明確にとらえにくい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷が鮮明で、白紙面と文字のコントラストが、とても見やすい。 (学校・市民) A4判と縦長く、持ち運びに不便であるとともに、ノートや資料集等と一緒に机に置くと手狭である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 各章の初めに、その時代の地図を用いたさまざまな地域の様子が示されており、またどの章でも同じ地図が用いられており、歴史的な事象を推移や関連で捉えることができる。 為政者だけでなく、民衆や男女等、さまざまな階層や立場から活躍した人を取り上げており、歴史的な事象を多面的・多角的に考察できる。 各章のまとめが充実しており、史料を読み、対話や討論することで公正に選択・判断する力、説明する力、議論する力を養う工夫がされている。(pp.178~181) (市民) 各時代の人々の営みに関する題材において、女性の生きる姿を具体的に描くことに力点を置いている。 歴史的な見方・考え方を働かせる資料等が掲載されているが、資料を読み取るための視点がない。 各部のまとめのページに、グループ活動等を通して深められるような課題を設定しているが、議論する上で根拠となる資料が不十分で議論が深まらないものが多い。 1単位時間のまとめとしての課題や活動が示されておらず、学習を振り返る活動ができるように配慮されていない。各部を貫く問いが、その時代の特色をとらえられるような問いになっておらず、章の学習課題等もなく、学習に見通しをもたせにくい。 	

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">• 時代ごとの文化の特色についての記載がわかりづらく、代表的な事例を取り上げて特色を考察させることが難しい。(P. 44、P. 50)• 東アジアに関する内容が細かい部分が多い。(pp. 56～57、pp. 72～73、pp. 184～185 等) |
|---|

種目 (社会科・公民的分野 全 6 者)

発行者名	1. 東京書籍
<p>体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した学習がすすめられるようになっている。全体で60か所程度に及ぶところに「見方・考え方マーク」がついており、社会的事象の意味・意義を社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察する力を養うことができる。SDGsについて教科書の冒頭部分で取り上げ、各章ごとに考えることができるようになっている。SDGsの問題を取り上げることで、現実社会の課題により主体的に取り組む生徒の態度を育成することができるように工夫されている。</p>	
発行者名	2. 教育出版
<p>SDGsの17の目標を掲載し、個人や社会の様々な『つながり』に目を向けることの大切さを学ぶことができる。「SDGs未来都市」を形成する市民を育てることに資する内容構成となっている。各章の初めに学習の見通しを示し、学習する事柄の価値づけを行っており、主体的に社会と関わろうとする態度の育成や周囲と協力し合うことの大切さが自覚できるような内容構成となっている。また、各單元には、「見×考のマーク」(p.33、p.41等)で見方・考え方を働かせる問いが設定されており、多角的・多角的に考察する力や公正に判断する力等が段階的に養われる構成・内容となっている。毎時間、振り返りながら学習できるよさもある(p.15、p.17)。</p>	
発行者名	3. 帝国書院
<p>写真資料、統計、グラフ、イラストなど豊富に準備されており、導入で生徒の関心を喚起し、資料をもとに考える活動ができるように工夫されている(p.3、p.7等)。様々な資料を活用して、読み取ったり議論したりする力を伸ばすことが期待できる。また、生徒も自分の意見を表明したり議論したりできるように、題材に身近な課題を取り上げたり、賛成・反対で意見を表したりできるように配慮されている(p.33、p.187)。一方で、議論はしやすいが、現代社会の課題について議論するだけでなく、異なる立場を設定して意見を調整したり合意形成を図ったりするような学習活動が充実できると良い。</p>	
発行者名	4. 日本文教出版
<p>各單元で「シンキングツール」(フリーカード法やクラゲチャートなど)(p.33、p.77等)が示されており、課題解決や思考の深まりに資する技能を身につけることができるように工夫されている。マンガを提示して生徒の興味・関心を喚起しつつ、学習の目的や意義を生徒が自覚できる構成になっている(p.6、p.7、p.34、p.35等)が、発達段階に応じているか危惧される。学習活動では、教師が、意図をもってシンキングツールを活用しなければならない。</p>	
発行者名	5. 自由社
<p>「アクティブに深めよう」では、主に書く活動を中心に資料に基づいて、多面的・多角的に考察する力や公正に判断する力、説明する力、議論する力が養われるように構成・内容を工夫している。また、「ここがポイント!」では、現代の社会的事象に関して考察する際、生徒が考える視点を明確に持てるような構成になっている。一方で、章の導入や終末で、現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究、解決する活動が十分設定されていない。</p>	
発行者名	6. 育鵬社
<p>「政治の入り口」「経済の入り口」など、大単元の各導入では、主体的に社会に関わるために必要な態度や協力の大切さを明確に説明して、生徒にはっきりとそれを伝える構成になっている。毎時間、「つかむ」「調べる」「まとめる」活動ができるように教材配列がしてあり、資料をもとに自分の判断や考えを表現する活動ができるように工夫されている。一方で、現代社会の見方・考え方を働かせる学習やSDGsの理念に象徴されるような国際協力や国際協調を扱う学習については、教師が追加の学習や教材を準備しなければ、深い学びへ導くことが難しいことが危惧される。</p>	

観 点		発行者名 東京書籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容となっている。 生徒の発達段階に適応している。 学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等及び各学年相互の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるような構成になっている。(QRコード・小学校とのつながり) 言語活動の充実に向けて、内容が配慮されている。 各ページ右下の「トライ」の部分で学習内容を生徒の言葉で表現する活動が位置付けられており、言語活動が活発に行われる内容となっている。 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習が設定されており、生徒の興味・関心を生かし、発展的な学習が促されるような内容となっている。「学習課題」で一単位時間の課題が明確に示されており、生徒の主体的な問題解決的な学習を行うことができるように構成されている。 QRコードの活用により、個に応じた学習を進めることができる。 取り上げている内容が安全面に配慮した内容になっている(思考ツール、ロールプレイング)。 学習指導要領に示す内容及び取扱いに示す事項を超えた内容になっていない。内容を逸脱したり、生徒の負担が過重になったりしていない。 QRコードの移動先が東京書籍のHPとなっているので、同社の教科書を使用していなければ、他教科・分野との関連付けができない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 標準時数と予備時数が含まれており、柔軟なカリキュラムをつくることができるなど、全体の分量は、授業時数からみて適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 各領域及び分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、学習課題、説明文、注、資料、写真、図、グラフなどは、学習を進めるうえで、関連をもたせるものとなっており、学習の深まりに有効に働くよう配慮されている。資料が豊富で見やすく、コラムも充実しており、深い学びにつなげることができるように工夫されている。一単位時間の学習が効果的に深めることができるよう、適切に図や資料が配置されている。過不足は感じられない。レイアウトが学習の深まりに有効に働くように配置されている。 発展的な学習内容に関しては、それ以外のものと区別されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、すべての生徒の色覚特性に適応するデザインとなっており、ユニバーサルデザインフォントが採用され、文字の大きさ、字体、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。

<p>2 社会科 の 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で9か所にスキルアップのコラムが設けられており、公民の基礎的な技能を育成するとともに学びを深めることができるように工夫されている。 ・ 全体で60か所程度に及ぶところに「見方・考え方マーク」がついており、社会的事象の意味・意義を社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察する力を養うことができる工夫がある。 ・ SDGsについて教科書の冒頭部分で取り上げ、各章ごとに考えることができるようになっている。SDGsの問題を取り上げることで、現実社会の課題により主体的に取り組む生徒の態度を育成することができるように工夫されている。 ・ (市民) 日本国憲法の優れた点として、地方自治が挙げられる。確実に位置づけられた内容構成など、人権、民主主義についても教材としてはよい内容だと思う。 ・ (学校) 生徒が興味・関心をもって学習できるように、社会生活との関連を重視した構成である。その結果、民主的な国家及び社会の形成者として必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することができる内容となっている。 ・ (学校) 限られた授業時数の中で、すべての内容を取り扱うのが難しい。
--	--

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結びつく内容となっている。 生徒の発達段階に適応している。 指導要領の内容に沿った程度範囲で1章から6章までバランスよく時数が配当されている。領域および分野、内容を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等及び各学年相互の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるような構成になっている。 言語活動の充実について内容が配慮されている。 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習がされており、生徒の興味・関心を生かし、発展的な学習が促されるような内容となっている。 本文の横に語句の説明があるなど、個に応じた指導への配慮がされている。 取り上げている内容が安全面に配慮した内容になっている(裁判員裁判について学ぶ際に、模擬裁判が行える 等) 学習指導要領に示す内容及び取扱いに示す事項を超えた内容になっていない。内容を逸脱したり、生徒の負担が過重になったりしていない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 合計100時間程度で1章から6章までバランスよく時数が配当されているなど、全体の分量は、授業時数からみて適切である。 学習指導要領の内容及び、内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 各領域及び、分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、学習課題、説明文、注、資料、写真、図、グラフなどは、学習を進めるうえで、関連をもたせるものとなっており、学習の深まりに有効に働くよう配慮されている。写真や図、新聞記事などの資料が豊富で見やすく、コラムも充実している。思考ツールについての説明のコラムもあり、生徒が自主的に思考ツールを使いやすくなっている。 発展的な学習内容に関しては、それ以外のものと区別されている。 判読しやすい配色となっており、グラフも点線などが使われておらず、見やすいものとなっている レイアウトが学習の深まりに有効に働くように配置されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、カラーやフォントにはユニバーサルデザインが採用され、文字の大きさ、字体、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。公民的分野の教科書は原則1年の使用であるが、ハードカバーで3年間の使用に耐えるような丈夫さがある。

<p>2</p> <p>社会科の選定の観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民的分野の改正の要点に沿った内容に配慮してつくられている。 ・ 現代の社会的事象について情報を調べたりまとめたりする活動が多く、知識や技能の習得につながるように工夫されている。 ・ 各ページの右下に「確認！」があり、学習活動の基盤となる知識をおさえることができるようになっている。(苦手な生徒でも、基礎がおさえやすい) ・ 読み物資料が中心ではあるが、SDGs、LGBT、感染症等の最新の問題をしっかりと取り上げ、広い視野を持ち、国際的な関わりや個人と社会との関わりへの理解を深めながら、調べまとめる技能が身につく構成・内容となっている。 ・ 各章の初めに学習の見通しを示し、学習する事柄の価値づけを行っている点から主体的に社会と関わろうとする態度の育成や周囲と協力し合うことの大切さが自覚できるような構成・内容となっている。 ・ 思考ツールを活用する場面や各章の振り返りで見方・考え方を働かせ考えることができるような工夫によって、広い視野を持ち、国際的な関わりや個人と社会との関わりへの理解を深めながら、調べまとめる技能が身につく構成・内容となっている。 ・ ロールプレイングや複数の立場の対立関係を用いるなど、多角的・多面的に考察する力や公正に判断する力、説明する力、議論する力が段階的に養われる構成・内容となっている。 ・ 各章に見方・考え方の視点を具体的に分かりやすく明記しており、章末では課題を解決するための視点が示され、次章へのつながりをもたせる内容となっている。 ・ 「公民の窓」や「公民の技」「クリップ」などの様々な学習コラムが設けられていることによって、生徒の興味・関心の高まりに即応させて学習を深めることができるものとなっている。 ・ 各章の初めに学習の見通しを示し、学習する事柄の価値づけを行っている点(各章のはじめ)から主体的に社会と関わろうとする態度の育成や周囲と協力し合うことの大切さが自覚できるような構成・内容となっている。 ・ コラムなどに、現代社会の課題についてはSDGsにかかわる課題を多く取り上げていることで、持続可能な社会をつくる態度の育成につながるように工夫されている。本市がSDGs未来都市であることから、その担い手である子どもたちに適している。 ・ 各ページにSDGsの視点が示され、現代社会における解決すべき課題が把握しやすい。毎時間、振り返りながらで学習できるよさがある。 ・ グローバル化やIT化などの現代社会の社会問題や社会的課題に対して学習内容を踏まえた考察が章末で行えるようになってきている。また、多面的・多角的な考察が行えるような資料や図が用いられている。 ・ 各章や各節、一単位時間ごとに学習課題が設定されていることで、社会的な見方・考え方を働かせて課題を追究し考察することで公民的資質を養うことができるようになってきている。その際に必要となる資料が適切に配置されている。 ・ それぞれの単位には、「見×考」のマークの提示があり、見方・考え方を働かせる問いが設定されていることから多角的・多面的に考察する力や公正に判断する力、説明する力、議論する力が段階的に養われる構成・内容となっている。 ・ (市民) SDGs 17の目標を掲載し、社会や個人の様々な『つながり』に目を向けることの大切さを学ぶことができるところがよい。 ・ (市民) 解説で登場する生徒の服装や言葉遣いがジェンダーフリーな描かれ方をしていて、多様性を大切にしている意味でよいと思う。 ・ (学校) よりよい社会の形成に向けて、解決すべき課題を探究するような紙面となっている。自分の考えをまとめる学習では、3分野の関連を図り、習得した知識を生かして学習できる内容になっている。 ・ 発展的学習課題が文章で説明する活動が多いので、理解が視覚優位な生徒には少し難解なものに感じられるので、並行して図式されているとわかりやすい。教師が他の資料を準備する必要がある。
---------------------------	---

発行者名		帝国書院
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容となっている。 生徒の発達段階に適応している。 学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等及び各学年相互の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるような構成になっている。(小学校との関連が明記) 言語活動の充実について内容が配慮されている。 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習がされており、生徒の興味・関心を生かし、発展的な学習が促されるような内容となっている。章ごと、節ごと、時間ごとに学習課題が設定されていることで、生徒の主體的な探究活動が期待できる。 1単位時間で取り扱うべきページの下部に関連のある既習事項が掲載されており、復習することができるとともに、より深化させて学習することができる。 1単位時間や章ごとに学習課題について整理をすることができるようになっており、個に応じた言語活動の充実が図られている。 振り返り活動が毎時間設定されているため、内容の理解に配慮してある。 確認しよう、説明しようの活動を通じて振り返りができるように配慮されている。 実生活に沿うようなイラストを有効に活用するなど、安全な調査方法を提示してある。屋外調査をしなくてよい。教科書で完結できる。 学習指導要領に示す内容及び取扱いに示す事項を超えた内容になっていない。内容を逸脱したり、生徒の負担が過重になったりしていない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数からみて適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 各領域及び分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。 ページ数が約30ページ少なく、教科書全体が軽量化されている。内容がコンパクトにまとめられている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、学習課題、説明文、注、資料、写真、図、グラフなどは、学習を進めるうえで、関連をもたせるものとなっており、学習の深まりに有効に働くよう配慮されている。 発展的な学習内容に関しては、それ以外のものと区別されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、カラーやフォントにはユニバーサルデザインが採用され、文字の大きさ、字体、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。 特別支援教育の観点から、すべての生徒にとって見やすい配色やフォントでテキストがつけられていて、表現も中学生にとってわかりやすく作られている。 教科書全体が軽量化されている。

<p>2 社 会 科 の 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料が豊富に掲載されていて、資料を用いて考える活動が設定されている。社会的な事象について調べまとめる技能を育むための工夫がされている。 ・ 毎時間ごとに学習課題が設定され、振り返りとして「説明しよう」の活動があるため、現代社会の課題について説明したり判断したりする力が養うことができる。 ・ 思考ツールを活用する場面や各章の振り返りで見方・考え方を働かせ、考えることができる工夫によって、広い視野を持ち、国際的な関わりや個人と社会との関わりへの理解を深めながら、調べまとめる技能が身につく構成・内容となっている。(議論したり自分の意見を表明したりしやすい活動が準備されている。Yes/No、賛成・反対など) ・ 話し合い活動が身近な話題で議論をしやすいが、現代社会に見られる課題を扱った他者理解・相互尊重、提案、哲学的な問いにまで至っていない。 ・ (学校)「章の問い」「節の問い」1単位時間の「学習課題」が示されることにより、生徒が見通しをもって学習にのぞむことができるような紙面構成である。また、章・節ごとに学習を振り返る活動が設定され、生徒の資質・能力を確実に育むことができるような工夫があり、教師も活用しやすい。 ・ (学校) 資料の読み取りが毎時間ごとに設定されている学習課題の解決にとって結びつかないものもあり、毎時間ごとの学習での視点がぼやけてしまう点が危惧される。 ・ 現代社会の課題について主体的にかかわろうとする態度の育成について、章末の文章だけでは具体的な活動が若干少ない。 ・ 資料の読み取りが毎時間ごとに設定されているものの、学習課題の解決と結びつかないものもあり、学習に一貫性がないところがある。 ・ 教科書全体でどのような資質・能力を育てたいのか、明確に伝わりにくいところがある。 ・ 議論はしやすいが、現代社会の課題について議論するだけでなく、異なる立場を設定して意見を調整したり合意形成を図ったりするような学習活動が充実できるとよい。 ・ 現代社会に見られる課題について、公正に判断するよう記述に終始し、説明の仕方や、議論するための方法、内容が若干少ない。 ・ 公民独自の見方や考え方を示唆する項目が少なく、視点がぼやけてしまう点が危惧される。 また、「確認しよう」・「説明しよう」の活動が各自の学習課題の解決に直結しているかどうか判断しにくい箇所もみられた。
--	--

発行者名		日本文教出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容となっている。 生徒の発達段階に適応している。 学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等及び、各学年相互の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるような構成になっている。 各ページの下部に関連する他分野の分野名と既習事項を想起させるような発問がなされており、関連性をもたせて学ぶことができるようになっている。 言語活動の充実について内容が配慮されている。 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習がされており、生徒の興味・関心を生かし、発展的な学習が促されるような内容となっている。 章・節・時間ごとに学習課題が設定されており、末尾で「確認」することで課題に対する考察の振り返りができるようなど、個に応じた指導への配慮がなされている。 教科書全体を通じて新しい時代を担う主権者を育成するという目的のもと、内容が編成されている。すべての内容に見方・考え方のコーナーが設定され、生徒が深い学びが行えるように配慮されている。 毎時間の学習課題について個で学習内容を深める問いが用意されている。 「確かめよう」「資料活用」のコーナーがあり、個に応じて学習内容を定着させる工夫がみられる。 思考ツールを重視した構成により、教室内での活動を促すなど安全面への配慮がされている。 学習指導要領に示す内容及び取扱いに示す事項を超えた内容になっていない。内容を逸脱したり、生徒の負担が過重になったりしていない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数からみて適切である。 学習指導要領の内容及び、内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 各領域および、分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、学習課題、説明文、注、資料、写真、図、グラフなどは、学習を進める上で、関連をもたせるものとなっており、学習の深まりに有効に働くよう配慮されている。 発展的な学習内容に関しては、それ以外のものと区別されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮して、再生紙が使われているほか、植物性のインクが使われている。特別支援教育の観点から、すべての生徒に見やすいフォント、配色を行っている。印刷は鮮明であり、カラーやフォントにはユニバーサルデザインが採用され、文字の大きさ、字体、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。 UDフォントやカラーユニバーサルデザインの視点が充実している。 製本も複数年の使用に耐えうるものとなっている。

<p>2 社会科 の選 定の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「見方・考え方」を意識できるようにキーワードとして提示するなど、学習問題を解決していく過程において資質・能力が育成できるような工夫がされている。また、豊富な資料を使い、調べる活動を通じて技能の習得を目指す工夫がされている。 ・ (学校) 振り返りや説明する活動を通じて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力等の育成を目指している。また、学習課題に対して現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究し解決する活動を掲載し、資質・能力を育成する内容となっている。 ・ p. 16、p. 60、p. 86 では図や資料、新聞などの読み取り方が示されており、情報リテラシーの涵養に効果的である。また、資料を活用させて多面的・多角的な考察力を身につけることも可能である。 ・ 各所に「シンキングツール」が示されており、課題解決や思考の深まりに資する技能を身につけることができるように工夫されている。汎用的能力の育成につながる。 ・ 教科書全体を通して現代社会の課題について主体的に判断し、表現する構成になっているため、主体的に現代社会の課題に取り組むことができる。 ・ 「アクティビティ」のコーナーを活用すれば、学習課題に沿って考察することができ、主体的な学習活動を展開することが可能であるとともに、他者と協議することで対話的かつ深い学びにつなげることができる。 ・ (市民) 人権思想のあゆみがきちんと示され、日本国憲法で守られていることがよくわかる。 ・ (学校) 章の導入部分では、イラストが多く、発達段階に応じているか危惧される。 ・ 各章の導入とまとめの見方・考え方を捉えさせる資料の掲載量が十分でない (p. 126) 等、マンガの導入がありその意図や理解をする視点を含めて説明しているものの、学習の深まりに十分につながらない懸念もある。 ・ 情報スキルアップやアクティビティ、シンキングツールの活用を通じて、多角的・多面的に考察する力や公正に判断する力、説明する力、議論する力が段階的に養われる構成・内容となっている。ただし、なぜ、それを使うのか (シンキングツール等)、使いこなせないものもある。他社と比較すると充実しているが量的に多いとも言える。教師側が意図をもって活用の仕方を判断しなければならない。
--	---

発行者名		自由社
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容となっている。 生徒の発達段階に適応している。 学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 「アクティブに深めよう」など言語活動に資する記載がある。 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を促す内容となっている。 教科書内において小学校や地理的分野などとの関連を図るような具体的な例示は十分でない 重要語句の設定が曖昧であるため、学習内容を確実に個に応じた身に付けるまでには至っていない。 体験活動に資する例示が十分でなく、安全面への配慮が十分であるか判断できない。 より広い視野から知識の定着を図るような構成であるため、生徒の実態によっては、負担過重となる恐れもある。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数からみて適切である。 学習指導要領の内容及び、内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 分野によっては問題ないが、取り上げている事項が偏りがある。特定の個所の説明が詳細すぎたり、余分な表現が多かったりしているように感じる部分がある。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習内容に関しては、それ以外のものと区別されている。 学習の深まりに有効に働く写真資料は各ページに提示されているが、一方で、グラフなどによる具体的な数値などの資料が少ないため、客観性に欠いている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。 文字が大きく、資料も必要最小限であるため、見やすい紙面構成となっている。 文字が大きく、間隔も広くとられているので読みやすい。 全体的にページ数が多く分厚い

<p>2 社 会 科 の 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各章の「学習のまとめと発展」において、広い視野で国際的な関わりや、個人・社会との関わりについて調べたことをもとに表現する活動を通して、調べまとめる技能が身につく構成・内容となっている。 ・ 現代社会の社会的事象に関する情報を効果的に調べ、まとめるための資料が充実している。 ・ 民主政治の意義、国民生活の向上と経済活動とのかかわりが捉えることのできる内容となっている。 ・ 資料を活用する活動が設定されていて、技能の習得を図る工夫がされている。 ・ 「アクティブに深めよう」では、主に書く活動を中心に資料に基づいて、多面的・多角的に考察する力や公正に判断する力、説明する力、議論する力が養われるように構成・内容を工夫している。 ・ 「ここがポイント！」では、現代の社会的事象に関して考察する際、生徒が考える視点を明確に持てるような構成になっている。 ・ 各章に設けられている「もっと知りたい」は、主体的に社会とかかわろうとする態度の育成や周囲と協力し合うことの大切さが自覚できるような構成・内容となっている。 ・ (市民) 憲法9条の解釈の説明 (p. 84) は、詳細で分かりやすい。現在の議論を簡潔に記述し投げかけることで、生徒が議論することができるような内容となっている。 ・ (学校) 現代社会の課題解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養える内容となっている。 ・ 社会的事象に対して考察を行うにあたり、グラフなどの客観性を示す資料が少ないため、多面的・多角的に考察し、客観的に社会的事象と向き合う学習活動が行いづらいところがある。 ・ 課題を解決するための学習目標が設定されているが、本時の学習を振り返るような構成になっていない点がある。 ・ 資料が単純で見やすいが、生徒が興味をもって見方・考え方を働かせるような資料が少ない。 ・ 現代社会における社会的事象の見方・考え方の視点が明確に伝わりにくい。 ・ 章の導入や終末で、現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究、解決する活動が十分設定されていない。 ・ 公民独自の見方・考え方を働かせ、深い学びへと導き資質・能力を育むことを重視した内容・構成とは言い難い。 ・ (市民) 憲法の取り上げ方に偏りが見られる傾向がある (p. 55、p. 59)。 ・ (学校) 「学習の発展」は、記述式となっているため、生徒の実態によっては取組が難しい内容となっている。
--	---

発行者名		育 鵬 社
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結びつく内容となっている。 生徒の発達段階に適切している。 領域及び分野、内容を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実に向けて内容が配慮されている。 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習がされており、生徒の興味・関心を生かし、発展的な学習が促されるような内容となっている。 「やってみよう」の設定により、学習内容の確実な定着を図るように配慮している。 ポスターセッションやディベートなどの体験活動が設定されているため、安全に学習できるような配慮がある。 発展的な学習内容が適切である。 各分野等との関連や系統性について十分に配慮した紙面になっていると言ひ難い。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数からみて適切である。 学習指導要領の内容及び、内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 各領域及び、分野の内容に偏りがなく、調和がとれている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、学習課題、説明文、注、資料、写真、図、グラフなどは、学習を進めるうえで、関連をもたせるものとなっており、学習の深まりに有効に働くよう配慮されている。 発展的な学習内容に関しては、それ以外のものと区別されている。 様々な地域、生徒の実態に応じて、取り上げる際の配慮が必要になる。「学習を深めよう」では、「子どもの貧困と子ども食堂」などセンシティブなものが取り上げられており、公平かつ多面的・多角的な視点で取り扱うための配慮が必要である。(p.157 子ども食堂、無料学習塾、ひとり親家庭の表現で「余裕がない」という記述)
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。 再生紙や、植物性のインクなど環境に配慮された作りになっている。 特別支援教育の観点から、すべての生徒に見やすいフォントや配色になっている。

<p>2 社会科 の選 定の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料に外国との比較を多く取り入れることによって、国際的な関わりや個人・社会との関わりについて、調べまとめる技能が身につく構成・内容となっている。 ・ 現代社会の社会的事象に関する情報を効果的に調べ、まとめるための資料が提示されている。 ・ 社会的事象を社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察することができるような資料の配置となっている。 ・ 主に資料を読み取って自分の意見を書く活動を通して、多面的・多角的に考察する力や公正に判断する力、説明する力、議論する力が養われる構成・内容となっている。 ・ 現代社会に見られる課題をもとに、説明、議論する書面が充実し、公正に判断する力を高めるような工夫がある。 ・ (学校)「政治の入り口」(導入。P.76)「経済の入り口」などにおいて、主体的に社会と関わろうとする態度の育成や周囲と協力し合うことの大切さが自覚できるような導入の工夫が行われている。 ・ 毎時間、つかむ、調べる、まとめる活動ができるように教材配列がしてあり、資料を基に自分の判断や考えを表現する活動ができるように工夫されている。 ・ 現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究し、解決する内容になっている。 ・ 巻頭ページや「国際社会のこれから」では、SDG s の取組を調べるようなコーナーがあるものの、一貫してSDG s の視点を踏まえた内容構成にはなっていない。 ・ 各章のまとめでは、導入の見方・考え方、課題に対するまとめの内容が十分でない。 ・ 話し合い活動につながるような記載が不十分である。 ・ 現代社会の見方・考え方の具体が、十分伝わるような紙面でないため、教師によっては、深い学びへ導くことが難しいと危惧される。 ・ (市民)生徒が自由に討論することが難しいような内容構成となっているところがある。 ・ (市民)憲法9条を取り扱う際、自衛隊と自衛権の説明が多いなど、一部内容に偏りが見られる。 ・ (学校)全体的に文章の分量が多く、情報過多となっている。
--	--

種目（ 地図 全 2 者）

発行者名	1. 東京書籍
<p>基礎的な資料から発展的な学習に対応する資料まで教科書の補足資料となる写真・グラフ等が豊富に掲載されていて、生徒の発達段階に応じて活用できる内容となっている。本市の重点施策である「SDGs」を大きく取り上げたり（pp.7～8）、主な世界文化遺産（p.22）を掲載したりしており、生徒の興味・関心を高め、社会科の授業以外でも活用できる内容となっている。多くの資料が示されているが、取り扱う時間を考慮すると、精選が必要である。日本の鳥瞰図は、色使いが工夫され、とても見やすくなっている（p.145）。しかし、世界の鳥瞰図では、文字が見えにくい面（p.49、73等）や陸高と水深の表示が初めのページ（p.4）にしか示されておらず、読み取りやすさの面で配慮が不足している。</p>	

発行者名	2. 帝国書院
<p>学習指導要領に示す領域又は分野の内容に関する基礎的な資料から発展的な学習に対応する資料まであり、内容は不足することなく充実している。「社会的な見方・考え方」を働かせることができる「地図活用」の設問が数多く掲載されており（p.76等）、調べまとめる技能を高めながら、生徒が主体的に取り組むことができる。さらに、随所に二次元コードを配し、学習を深める学習動画等へとリンクするようにし、地理的特色を大観できるようになっている（p.19等）。統計資料では、見やすい字体や上位や下位の国を色別表示にするなど見やすい。また、タイトル等は、決まった位置にあり、陸高と水深の表示がどのページにもあるので活用しやすい。しかし、断面図のA-B間の線が表記されておらず、読み取る作業に時間がかかる（p.87）。A4の大判化にすることで地図や地図上の文字などの情報がとても見やすくなっているが、持ち運びの面で不便である。</p>	

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科学学習の目標達成のために工夫された地図はもとより、基礎的な資料から発展的な学習に対応する資料まで教科書の補足資料となる写真・グラフ等が豊富に掲載されている。 ・ 学習指導要領に沿った内容を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計資料において、各国の「人口増加率」や「日本との貿易」に関する情報が示されており日本との比較などの参考となる。(pp.169～170) ・ 本市の重点施策である「SDGs」を大きく取り上げ、分かりやすく明記されており、社会科の授業だけでなく、他教科でも活用できる内容となっている。 ・ 「世界全体」には、豊富な資料と写真が掲載され、生徒の興味・関心を高める内容になっている。(pp.9～28) ・ 世界の鳥瞰図の掲載が地域によってばらついている。また、山脈などと文字が重なり、読み取りにくい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの資料が示されているが、取り扱う時間数を考慮すると、精選が必要である。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域の位置図が示されており、特に世界の諸地域ではその位置図から関連する周辺地域のページがわかるため検索しやすくなっている。(p.46) ・ 各地域の基本資料において、「A—B」の断面図が大きくはっきりと示されているため、その地域における高低の特徴をつかみやすくなっている。 ・ 陸高と水深の表示が初めのページにしか示されておらず、読み取りにくい。(p.4)
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真資料が多く、大きく掲載されており、見やすい。 ・ (学校)教科書と同じサイズのため、持ち運びや管理がしやすい。 ・ (学校)地図の色合いが淡く、文字と重なって読み取りにくい。
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・ (市民)本市の重点施策である「SDGs」を取り上げ、現代社会に見られる課題をつかみやすくしている。(pp.7～8) ・ 世界と日本との結びつきにおいて、在留外国人の変化や産業の地域間の結びつきについてまとめられており、日本全体の地域的特色が大観できる内容になっている。(p.163) ・ 世界の「一般図」のページには多くの国旗が掲載されている。 ・ 資料などは最新のものが掲載されており、適切に出所、出典が明示された内容になっている。 ・ 歴史関連ページが充実しており、歴史学習においても資料を活用できるようになっている(p.95)。しかし、地図上に歴史に関する事項表記が少ない。 ・ 掲載されている資料に、キャラクターの問いが記載され、生徒の興味・関心が高まり、社会的な見方・考え方を働かせるための工夫がある(p.8等)。しかし、地図活用に対する問いがなく、地図の読み取る力を高める場面が少ない。

観 点		発行者名 帝国書院
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示す領域又は分野の内容に関する基礎的な資料から発展的な学習に対応する資料まであり、内容は不足することなく充実しており、生徒の発達段階にも適応している。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 世界は州ごとに「一般図」→「鳥瞰図」→「資料図」、日本は地方ごとに「一般図」→「拡大図」→「資料図」の配列で、学習しやすい構成となっている。 「地図活用」の設問が約130問あり、生徒が主体的に学習に取り組むことができる (p.8)。 重要な歴史地名・事項が充実しており、歴史の授業で活用しやすい。(p.48等) 州の鳥瞰図が充実しており、自然・文化・産業等の情報をイラストで盛り込み視覚に訴えるものとなっている。 「北九州工業地帯の変化」が取り上げられており、自分たちの住む地域の変化をとらえやすくしている (p.88) 「統計資料」では、見やすい字体を使い、濃淡を付けて表示しているので、国ごとの並びが分かりやすい。また、統計の上位や下位の国には色別の表示があり、調べやすい (p167等)。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は授業時数から見て適切であり、地域ごとの分量に大きな差はない。資料は、州や地方の特色が現れるようなものが厳選されており、適切に理解できるように選定されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図に日本の同緯度の地点や対蹠点が同尺度で記載され、日本と他地域との比較がしやすい。(p.3, 41等) 「さくいんの引き方」が大きく記載され見やすくなっている。(p.174) タイトルやインデックス、陸高と水深等が各ページの決まった位置にあり、活用しやすくなっている。 断面図のA-B間の線がないため、読み取る作業に時間がかかる。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 地図の色使いと都市名(文字)表記に工夫があり、密集地では特に明確で読み取りやすい。(p.97, 98) (市民・学校)重量もあまり変わることなく、A4の大判化にすることで地図や地図上の文字などの情報が見やすくなっている。しかし、大きすぎて持ち運びの面で不便である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> (学校)「社会的な見方・考え方」を働かせることができる「地図活用」の設問が数多く掲載されており、資料活用能力を主体的に身に付けられるようになっている (p.22等)。 景観写真と地図との対比ができるように示されており、地図を読み取る力が身につくようになっている。(p.113等) (学校)二次元コードから、学習動画サイト等を活用することで、より具体的に地理的特色を大観できるようになっている。(p.19等) 日本の諸地域では地方ごとに防災に関する内容が取り上げられており、地形と結び付けて学ぶことができるようになっている。(p.88, 149等) 人口、資源・エネルギーと産業の地域間の結びつきについて、世界と日本を比較して掲載することで、より日本全体としての地理的特色が大観できる内容になっている。(p.145, 158等) 世界の「一般図」のページには多くの国旗が掲載されている。 資料などは最新のものが掲載されており、適切に出所、出典が明示された内容になっている。 	

種目 (数学 全 7 者)

発行者名	1. 東京書籍
<p>「深い学び」のページ(3年生 p115 等)では、数学の問題発見・解決と、学習の流れにつながりがあることで分かりやすく、問題解決的な学習を行いやすい。言語活動については、「深い学び」のページでは「話し合う活動」などの言語活動(3年生 p116 等)が設定してある。数学的な見方・考え方はキャラクターなどの吹き出し(3年生 p116 等)で示しているが、他の問題解決などの場面でも活用できるような工夫があまりない。</p>	
発行者名	2. 大日本図書
<p>数学的な見方・考え方についてまとめたページが巻頭(3年生 p9)にあり、当該学年で働かせたい数学的な見方・考え方が分かりやすく示してある。しかし、具体的に本文中のどこで働かせているのか分かりにくい。各学年の各章の利用の場面(3年生 p124 等)では、問題解決的な学習の流れが示されているが、話し合うなどの具体的な言語活動が示されていない。</p>	
発行者名	3. 学校図書
<p>章ごとに問題発見・解決、そして新たな問題発見の過程まで示された学習活動(3年生 p121 等)を設定されており、問題解決的な学習の充実につながる。また、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決する場面(3年生 p121 等)では、その場面で働かせている数学的な見方・考え方を端的にまとめた文と登場人物の吹き出しによる具体的なイメージが示してあり、分かりやすい。しかし、対話文を多数示されているため、生徒自らが考え、発見する場面が得られにくい。</p>	
発行者名	4. 教育出版
<p>数学的な見方・考え方を巻頭の「数学的な考え方」(3年生 p8~11)に具体的に分かりやすく、挿絵などのイメージも添えて紹介している。また、本文中にも「数学的な考え方」として、具体的な説明(3年生 p121 等)を加え、生徒が意識しやすいように取り上げている。言語活動については、充実を図ることができる場面設定「みんなで話しあおう」「みんなに説明しよう」(3年生 p125, 128 等)などの設定がある。</p>	
発行者名	5. 新興出版社啓林館
<p>本文中(3年生 p103 等)では、数学的な見方・考え方をどのように働かせて学習をしたのかが分かるように詳しく示しているため、学びを振り返りやすく生徒が意識しやすい。言語活動については、「話しあおう」「説明しよう」などが適度に設定(3年生 p102 等)してあり、取り組みやすいように内容の工夫やヒントになるものを示すなど充実している。各章の利用の場面(3年生 p111 等)では、数学の問題発見・解決の学習の流れにつながりがあり、分かりやすく示されており、問題解決的な学習を行いやすい。</p>	
発行者名	6. 数研出版
<p>働かせたい数学的な見方・考え方を本文中に登場する生徒の対話文(3年生 p102 等)で示されており、学習の進め方が分かりやすい。しかし、それらが数学的な見方・考え方であることは、記号などで示したり、補助説明したりしないため、生徒が意識しにくい。また、対話文が多いことにより、生徒自らが考え、発見する場面が得られにくい。話し合う活動や説明する活動など言語活動の充実につながる場面が少ない。</p>	
発行者名	7. 日本文教出版
<p>「学び合おう」では、問題解決的な学習の流れが分かりやすく示してあり、学習を進めやすい。また、話し合う活動や説明する活動など言語活動の設定もある。しかし、章ごとの設定ではないため、充実しているとまではいかない。巻頭(3年生 p6~7)に数学的な見方・考え方についての例を紹介しているが、紹介のみで整理されていないため分かりづらい。本文中(3年生 p95 等)では、端的に分かりやすく表示されているが、具体的に数学的な見方・考え方を働かせるイメージがわきにくい。</p>	

観 点		発行者名 東京書籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明したり、他者と伝えあったりする活動が設定してあるため、言語活動の充実につながる。(3年生 p116 等) 内容のまとまりごとに、学習目標や学習の大まかな流れが分かりやすく示されているため、生徒の自主的・自発的な学習につながる。(3年生 p96 等) 練習問題では、例題と類似した問題、発展問題、補充問題など個に応じた指導が行いやすいような工夫がある。 各学年の各章の導入では、問題解決的な学習が重視され、生徒の興味関心を活かす教材となっているが、取り組む教材の内容がやや難しいものが多い。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに、その単元を貫くめあてを設定しているため、単元内の学習をどのように進める必要があるのか分かりやすく、生徒が主体的に学習を進めることができる。 「深い学び」のページでは、数学の問題発見・解決の流れが分かりやすく示されているため、問題解決的な学習を行いやすい。(3年生 p115 等) 巻末には、「数学の自由研究」のページがあり、題材が領域ごとに設定してあり、自由研究を進める上でのレポートのまとめ方の例も分かりやすく、数学の学習をより深めることができる。 マイノートには、数学における大切にしたい学習の流れや数学的な見方・考え方の記述の例などを分かりやすく整理しているため、ノートづくりの参考だけでなく、学び方の参考にもなる。 巻末に「大切にしたい見方・考え方」のページを設け、「深い学びのページ」の学習で働かせた見方・考え方を振り返ることができるようにしているが、章末や領域ごとにあればもっと活用しやすい。 デジタルコンテンツ「D」は、動画やシミュレーション、他教科との連携できる教材が豊富あり、学習内容を理解したり、深めたりすることにつながるが、活用するには、QRコードを読み込むために、他のページを開く必要があり手間がかかる。(3年生 p106 等) 数学的な見方・考え方がキャラクターや生徒のイラストの吹き出しで示してあり、学習を進める上でのヒントにはなるが、見方・考え方として、生徒が他の問題解決などの場面でも活用できるような工夫があまりない。(3年生 p116 等) 	

発行者名		大 日 本 図 書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 章の導入ページには、これまでの学習とのつながりが書かれてあり、既習事項とのつながりをイメージしやすく、系統的な学習が行えるよう工夫している。 学習を進める上での活動が分かりやすく具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進めやすい。(3年生 p103 等) 「たしかめよう」の問題では、問題ごとに評価の観点と関連する学習を振り返るためのページが示されているため、主体的な学びにつながりやすい。 練習問題の横にプラスワン問題が示されている箇所が多く、習熟度に応じた対応が行いやすい。 学習ごとに「めあて」が明確に記載してあり、学習を進める上での方向性は分かりやすいが、教師が設定したい「めあて」と異なることもあるため、取扱いにくいことも考えられる。(3年生 p104 等) 利用の場面では、問題解決的な学習が重視され、生徒の興味関心を活かす教材となっているが、取り組む教材の内容が取扱いづらいものがある。(3年生 p69 等)
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 配当時数の目安が記号で示されているため、学習指導計画を立てやすい。 巻末の「学年のまとめ」は、切り離すことができ活用しやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切であるが、一部字の大きさが小さく読みにくい箇所がある。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 内容のまとめりごとの導入に設定している「かんがえよう」では、導入にふさわしい問いとなっているため、スムーズな学習につながる。(3年生 p118 等) 数学の日常生活とのつながりや数学の世界を広げる深めることができる読み物「MATHFUL」や「活用・探求」のページなど各章ごとに設定している。(3年生 pp173～174 等) 数学的な見方・考え方についてまとめたページが巻頭にあり、当該学年で働かせたい数学的な見方・考え方が分かりやすく示してあるが、具体的にどこで働かせているのか分かりにくい。 デジタルコンテンツ「WEB」は、動画やシミュレーション、社会との関連など、学習内容の理解や、社会との関連を学ぶことにつながるが、活用するには、巻頭のページを開きQRコードを読み込む必要があり手間がかかる。(3年生 p127 等) 1学年では、「素数」の学習が最初に設定してあるが、なじみのない数学用語などを含むため、「正の数・負の数」の始まりの方が生徒にとってよい。 	

発行者名		学 校 図 書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「ノートの使い方」や巻末の「表現する力を身につけよう」などのレポートの作成方法や発表のしかたなどの具体例があり言語活動の充実につながる。 各学年の各章の導入では、問題解決的な学習が重視され、生徒の興味関心を活かす教材であり、課題設定の難易度も適切なものになっている（3年生 p101 等） 補充的、発展的な内容が掲載されており、本文の学習と関連付けしながら、生徒の理解度や興味関心に応じて取り組めるように配慮されている。 章ごとに問題発見・解決、そして新たな問題発見の過程まで示された学習活動が設定しており、問題解決的な学習の充実につながる。（3年生 p121 等）
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 反復練習が必要な計算問題については「計算力を高めよう」のページを設定しており、習熟のために利用できる。 特に、基礎的な内容に十分指導時間がかけられるように構成されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 各学年の各章の導入に関連した内容の振り返りや、導入の課題は、挿絵の大きさや配置、配色の関係で読み取りづらいものが多い。（3年生 pp99～100 等）
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方・考え方を働かせ問題を解決する場面では、登場人物の対話文で数学的な見方・考え方を働かせている具体例とともに、今後の学習でも働かせることができるように分かりやすく提示してある。 基礎的、基本的な学習内容を確実に習得できるように、既習事項を適宜示し、適用問題を数多く掲載している。また、日常生活の事象を数学の問題として捉え、表現したり、処理したりできる内容になっている。 （学校）教科書のQRコードから、動点問題を動画で見ながらグラフを考えたり、気象データの資料サイトにアクセスできたりと、授業内でICTを活用するだけではなく、家庭での復習や自主学習として用いることができる。（3年生 p119 等） すべての「Q」の問題で数学的な見方・考え方の例が示されており、生徒の主体的活動の補助として活用することができる。（3年生 p121 等） 内容のまとめりごとに、学習を通して何ができるようになったのかについてまとめられている。そのわかったことを踏まえ、次の学習に向けた課題が示してあるが、生徒が考え発見する場面が得られにくい。（3年生 p118 等） 	

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> 各学年の各章の導入では、問題解決的な学習が重視され、生徒の興味関心を活かす教材となっており、取り扱いやすく、分かりやすい表記である。 (学校) 章の導入では関連する数学の歴史や社会とのつながりなどについて簡単に触れ、生徒の興味・関心につながるトピックスを掲載している。 言語活動の充実を図ることができる場面設定「みんなで話しあおう」「みんなに説明しよう」がある。(3年生 pp125, 128 等) 章の問題では、問題ごとに評価の観点と関連する学習を振り返るためのページが示されているため、主体的な学びにつながりやすい。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> 本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF) が盛り込まれているため、活用できる。 (学校) 各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。 章末問題では、基礎・基本と発展問題が明確に分かれていないため、習熟度に応じた取り扱いの工夫が必要。(3年生 pp130~131 等)
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 (学校) ページ右側の学習を補助する事柄などが書かれてあるスペースにより本文の数式や説明文の箇所にスペースが取れず、読み取りにくい場面がある。
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方・考え方を巻頭の「数学的な考え方」に具体的に分かりやすく紹介している場に加えて、本文中にも具体的な説明を加えてあり、生徒が意識しやすい。(3年生 p123 等) (学校) 1年生数学の広場に演算記号としての(+、-)の使い方と符号としての使い方を分かりやすく示してある。 「数学的な考え方のまとめ」では、どんな力が数学を学ぶことで身に付くのが分かるとともに、どんな見方・考え方で問題解決していけばよいかの手掛かりになる。(3年生 pp8~11 等) 章の前にレディネスチェックできる問題とポイント整理のページが設定されている。また、必要に応じて問題に巻末の「学びマップ」との関連ページの記載があり、解くためのヒントとなったり、復習の機会を広げたりするなど主体的な学びにもつながる。(3年生 p134 等) 「学びマップ」では、前学年の学習も含めた系統的に学習を進めることや振り返ったりすることに活用できるが、内容ごとの境界がわかりにくく読み取りにくい。 デジタルコンテンツ「まなびリンク」は、動画やシミュレーション、社会との関連など、学習内容の理解や、社会との関連を学ぶことにつながるが、活用するには、巻頭のページを開きQRコードを読み込む必要があり手間がかかる。(3年生 p122 等) 1学年では、「素数」の学習が最初に設定してあるが、なじみのない数学用語などを含むため、「正の数・負の数」の始まりの方が生徒にとってよい。

観 点		発行者名	新 興 出 版 社 啓 林 館
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。 	
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の各章の導入では、問題解決的な学習が重視され、生徒の興味関心を活かす教材であり、取り組みやすい内容である。(3年生 pp90～91 等) 「話しあおう」「説明しよう」など言語活動の充実を図ることができる場面設定が充実している。(3年生 p115 等) 各章の利用の学習では、問題解決の過程を体得できるように問題解決的な学習の進め方を step で分かりやすく示している。(3年生 p111 等) 章末問題では、問題ごとに習熟度が確認できる評価の観点及び、関連ページが示してあり、学習を行いやすい工夫がある。(3年生 pp116～117 等) 	
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。 基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。 	
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連を持たせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 巻末から始まる「自分から学ぼう編」は、学習の確認ができるセルフチェックシートがあり計画的に学習を進めやすい工夫がある。 (学校) 巻末の付録がないため、付録を活用した数学的活動が少なくなる。 	
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 	
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方・考え方を必要に応じて、例題の中に「考え方」として示したり、キャラクターの吹き出しに示したりしている。また、学習の中で働かせた数学的な見方・考え方を各ページの下段に示していたり、巻末の章ごとの「学びのあしあと」にも各章で大切にしたい数学的な見方・考え方を示したりするなど、数学的な見方・考え方に関わる記載が充実しており、体得できるような工夫がある。(3年生 p106 等) デジタルコンテンツは、動画やシミュレーション以外にも補充問題が設定しており、各章ごとにコンテンツが充実している。他教科との連携できる教材が豊富あり、学習内容を理解したり深めたりすることにつながり、本文中の関連ページごとにすぐに活用できるようにQRコードが掲載してある。また、章末問題を解くためのヒントとなる考え方と答えを確認することができ、授業以外の場面での学習が行いやすいようになっている。(3年生 p91 等) 巻末の「学びをいかそう」は、章ごとに日常生活や社会、他の教科と数学との関わりを感じたり、学習をさらに深めたりすることのできる題材であり、詳しい解説もあり、数学のよさを感じながら主体的に学習が進められる工夫がある。 章末の「学びを身につけよう」では発展的な問題を設定しているが、この問題に働かせたい数学的な見方・考え方に関わることを「考え方」やキャラクターの吹き出しに示すなどの工夫があるとよい。(3年生 p118 等) 		

発行者名		数 研 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適切している。 学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 新しい学習内容に関連する既習事項を取り扱い、系統性を意識しながら意欲をもって学ぶことができるようになっている。(3年生 p100 等) 各章の導入場面では、その学習に関連した内容ではあるが、次のページからの学習内容との結びつきが強い内容となっていないため、取り扱いに注意が必要。 話し合う活動や説明する活動など言語活動の充実につながる場面が少ない。 (学校) 本文中、人物キャラクターが対話形式で多数登場し、問題解決のためのヒントが書かれていることも多くある。その反面、生徒自らが考え発見する場面が得られにくい。(3年生 p102 等) 授業以外などの学習としての巻末の「チャレンジ編」では、必要に応じてヒントとなる「考え方」や解き方の例が示している点は使いやすいが、解答はあるが解説がなく使いにくい面もある。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 「探求ノート」は課題が書いてあるページとその課題のワークシートが離れたページにあるため使いにくい。 巻末に「学びの自己評価」があり、学びを振り返ることができるチェック項目があるが、自分で評価を行うには難しい内容のことが多い。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 全体的にカラーユニバーサルデザインに配慮され、鮮明で見やすく、見分けやすい色使いであり、適度に枠囲みで示しているため、学習の理解も進みやすい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 別冊「探求ノート」で取り扱っている題材は、日常生活に関わるものが多く、数学と社会とのつながりが感じられるものであり、数学的活動を通して解決を目指す内容となっている。 働かせたい数学的な見方・考え方を本文中に登場する生徒の対話文で示しており、学習の進め方が分かりやすい。しかし、それらが数学的な見方・考え方であることは、記号などで示されたり、補助説明などの記載があつたりしないため生徒が意識しにくい。(3年生 p98 等) デジタルコンテンツ「Link」は、動画やシミュレーション以外にも、補充問題が設定してあり、各章ごとにコンテンツが充実している。しかし、活用するには、巻頭のページを開き QR コードを読み込む必要があり手間がかかる。(3年生 p105 等) 巻末に「数学旅行」のページに日常生活や社会とのつながりを感じることのできる内容や数学の楽しさ感じることができる内容のトピックスが充実しているが、学習との関連がわかりにくいため、学習した内容を深めたりする活動と関連をもたせにくい。 	

発行者名		日 本 文 教 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結び付く内容になっている。 内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る前に1ページを用いて既習内容の復習が取り入れられており、既習内容を活用するという教科の特性を考えられた配置である。生徒のつまずきも減少することが期待される。(3年生 p87 等) 言語活動の充実を図ることができる場面設定「考えよう」「話し合おう」「説明できるかな」がある。特に「話し合おう」の場面では、考えるためのヒントとして対話形式の挿絵があるため取り組みやすい。(3年生 pp90～92 等) 「学び合おう」では、問題解決的な学習の流れが分かりやすく示してあり、学習を進めやすい。また、話し合う活動や説明する活動など言語活動の設定もある。しかし、章ごとの設定ではないため充実しているとまではいかない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連を持たせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 巻末に「図形のまとめ」として、各学年で学んだ内容をまとめているので、いつでも見返しやすく、学習時に便利である。 本文中の問題の横に必要な応じて巻末の補充問題を示すページや問題番号が示されているため、使いやすい。 (学校) 学習ごとに「めあて」と「まとめ」が明確に記載してあり、学習を進める上での方向性は分かりやすいが、教師が設定したい「めあて」と異なることもあるため、取扱いにくいことも考えられる。(3年生 pp104～105 等)
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 挿絵や説明図がシンプルで分かりやすい、また、例題や問題などの番号なども分かりやすくストレスなく学ぶことができる。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方・考え方を巻頭の「数学的な考え方」に分かりやすく紹介している場に加えて、本文中にも具体的な説明を加え、生徒が意識しやすいように取り上げられている。(3年生 pp6～7 等) 「数学のたんけん」として、学習内容に関連した発展的な内容を紹介しており、生徒の興味・関心を高めるのに有効であると考えられる。(3年生 p120 等) 本文中の「話し合おう」「深めよう」の場面では、話し合うための視点や考えを深めるためのヒントなどが、「大切な見方・考え方」の項目に書かれており、取り組みやすく、数学的な見方・考え方を生徒が意識することにもつながりやすい。(3年生 p115 等) デジタルコンテンツ「WEB」は、動画やシミュレーション以外にも練習問題が設定してあり、各章ごとにコンテンツが充実している。しかし、活用するには巻頭のページを開き QR コードを読み込む必要があり手間がかかる。(3年生 p88 等) 巻末にレポートの書き方の例が具体的に分かりやすく示してあるが、実際にレポートにまとめるなどの課題の設定がなく活用しにくい。 	

種目 (理科 全 5 者)

発行者名	1. 東京書籍
<p>各単元の最初に既習内容とこれからの学習内容が図入りで示されるなど、各節の導入部分に工夫がみられ、生徒が主体的に、学習に取り組めるようになっている。(1年 p.12) 教科書の中に、話し合い活動を促すような表記がなされるとともに、「話す」活動だけでなく「書く」活動の表記も多くあり、言語活動に配慮されている。(1年 pp.19~20) また、教科書の記載は、節ごとに問題発見から、振り返りまで示されており、思考の流れが明確に記載されている。(1年 pp.16~20) しかし、教科書の形状でA4 スリム判が採用されており、教科書を机の上に開いたときに自然に閉じやすく使いにくいところがある。</p>	
発行者名	2. 大日本図書
<p>各単元の最初や側注に既習内容とこれからの学習内容が図入りで記載され、系統的な学習ができるようになっている。(1年 pp.10~11) 巻末の「探究の進め方」で、課題解決学習の流れについて紹介されており、問題発見から考察・推論・発表までの流れを具体的な課題をもとに示され、学習の流れが明確に記載されている。(1年 pp.23~24) また、生徒にとって身近な存在である「いのちのたび博物館」や「エコタウン」等が記載されており、北九州市民としてのシビックプライドの視点を生徒に意識させることができる。しかし、読み物資料の分量が多いため、ページ数がやや多く、重くなっている。</p>	
発行者名	3. 学校図書
<p>QRコードから、単元のまとめや基礎問題を確認することができるので、家庭学習の習慣づくりにも、役立つことが予想される。(1年 p.11) 単元末問題「学びを日常にいかしたら」では、読解力問題が取り入れられており、思考力・判断力・表現力の育成に配慮されている。(1年 pp.62~63) また、各学年でSDGsとの関連が分かりやすいように取り上げられている。しかし、各単元の最初に既習内容の振り返りや課題解決学習の内容につなげる工夫に欠けるため、生徒の疑問に根差した学習を促すことができない。また、挿絵や資料が多く、本文と読み物資料の区分けが一見して分かりにくい。</p>	
発行者名	4. 教育出版
<p>重要語句が朱色で示されており、赤シートで消すことができるなど工夫がなされており、家庭学習する際に使いやすい。(1年 p.19) また、「禁止」「注意」「指示」「廃液処理」の記載が分かりやすく、安全面の配慮がなされている。(1年 p.28) ただ、探究を重視した構成になっているものの、生徒の自由な発想が生かせる工夫がなされていない。また、単元末問題では、知識・理解を問うものが多く、思考力・判断力・表現力の育成への配慮が欠ける。</p>	
発行者名	5. 新興出版社啓林館
<p>「探Qシート」が付属され、問題解決的な学習を進めながら、言語に関する能力の育成を図る内容になっているとともに、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。(1年 p.13) また、実験・観察の指示は、探究の過程に沿って分かりやすく説明されており、見開き2ページ以内にまとめられているので理解しやすい。(1年 pp.19~20) しかし、全体的に写真や図が豊富に掲載されているものの、雑多な配置となっており、分かりにくい。また、「深めるラボ」などのトピックの種類が多いのは良いが、「発展学習」と「他教科との関連」の区別がつきにくいところがある。</p>	

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 内容の範囲及び程度は適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の最初に既習内容とこれからの学習内容が図入りで記載されている。 他教科の学習事項とのつながりが明確で、多面的な理解が促される。 教科書の中に、話し合い活動を促すような表記がなされるとともに、「話す」活動だけでなく「書く」活動の表記も多くあり、言語活動に配慮されている。 「レッツスタート！」による各節導入で、主体的に学習に取り組める。 (学校) 密度や質量パーセント濃度、溶解度など、つまずきやすい内容では例題をあげて、丁寧に記述している。 「学んだことをつなげよう」は、日常生活と結びつけて、思考力を深めることに効果的である。 (学校) 多彩なコラムで日常生活や日本のもつ科学技術に触れており、学びが広がる。 本文以外の部分は単語の途中で改行しないようになっており、特別な支援を要する生徒にとっても学習しやすいよう配慮されている。 観察・実験を安全に行うための注意がマークで示されており、わかりやすい反面、なぜその注意が必要なのか、理由が書かれていない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 各分野、領域及び内容に偏りがなく、全体の分量は授業時数から見て適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 実験の説明が学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 ペーパークラフトで、地学分野で必要な、且つ現代の生徒が苦手な空間認識能力を育てられる。 全体的に、図や写真が効果的に使用され、本文の情報量が多い。 実験において、「結果の見方」「考察のポイント」が丁寧に記載されており、思考力・表現力の育成が期待できる。 科学史で漫画が採用されているのが、わかりやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 表紙・単元の始まりにおける写真に迫力があり、興味・関心が引き出される。 軽い用紙を採用しており、軽量化がなされ、扱いやすい。 (学校) A4スリム判が採用されているが、自然に閉じやすい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 学習内容を深める本・内容と関連する本について、「科学の本棚」で紹介されている。 QRコードを読み取って、インターネットを活用する方法は、デジタルネイティブの中学生にとって、興味・関心が高まることが考えられる。 巻頭部に思考の流れや科学の有用性についてのページがあり、学習の動機づけに繋がる。 「活用」で深い学びにつながる問題が設定されている。 (市民・学校) 巻末資料「理科の学習を深めよう」でいのちのたび博物館などが紹介されており、博物館との関連が図られている。 巻頭部に探究の過程に直結した言語活動が示されているが、具体性がなく、生徒にはわかりにくいと思われる。 (市民) 各学年でSDGsとの関連は図られているが、明確に示されている箇所が少ない。 	

発行者名		大日本図書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 内容の範囲及び程度は適切である。 天体の取扱いで、学習指導要領で示されているエネルギーとの関連性の説明が乏しい。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 各単元の最初や側注に既習内容とこれからの学習内容が図入りで記載され、系統的な指導ができる。 文章が簡潔で且つ話し合い活動を促すような表記がされ、言語活動の充実に配慮されている。 観察・実験を行う上での配慮事項が、理由とともに明確に表記されている。 一年生の教科書の巻頭で、安全に実験が行えるよう理科室のきまりをイラストを用いて示しており、分かりやすい。事故の防止及び使用薬品の管理や廃棄について十分配慮されている。 巻末の「探究の進め方」で、課題解決学習の流れについて紹介されている。問題発見から考察・推論、発表までの流れを具体的な課題をもとに示しており、本文にもそのように重視されている。 「くらしの中の理科」が随所にあり、興味関心を高めるのに効果的である。 巻末資料が充実している。(薬品や数値の取り扱いなど) 単元末にまとめのページで学習の定着を図り、さらに、読解力問題が取り入れられており、思考力・判断力・表現力の育成に配慮されている。 他教科とのつながり、職業との関わり等が随所に盛り込まれ、学習事項がより深まるように工夫されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 読み物資料の分量が多いため、ページ数がやや多く、重い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育やキャリア教育を関連づけた内容が記載されている。 実験の説明が学習の深まりに有効に働くように配慮されている。 発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別され、発展的な学習内容であることが明示されており、記述もわかりやすい。 (学校) 観察実験の「結果から考えよう」と「結果の例」が別ページになっていることで、生徒自らの思考を遮らない。 観察・実験の内容(方法等)について、1ページにまとめられているが、フォントが小さい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 1年と2・3年の文字の大きさを変えるなどの配慮が適切である。 従来のB5判でノートとも重ねて持ち運びやすい。 写真・図共にカラーユニバーサルデザインを踏まえた配色が工夫され、見やすい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会にする方法の例として、本市の水素エネルギーの研究があげられている。 (市民・学校) 巻末の「行ってみよう! 科学館・博物館」で、生徒にとって身近な存在である『福岡市科学館、福岡県青少年科学館、北九州市いのちのたび博物館』の三ヶ所やエコタウンの写真が掲載されている。 (市民) 発電を見開きで長所・短所・しくみが書かれていてとても見やすかった。 QRコードは目次に紹介されているだけで、ウェブサイトの活用に乏しい。 (市民) 各学年でSDGsとの関連は図られているが、明確に示されている箇所が少ない。 	

発行者名		学校図書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 内容の範囲及び程度は適切である。 基本事項を重視して扱っている。(発展的な内容が少ない。)
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> (学校)「学びの交換アイデアボード」が最後のページにあることで、話し合い活動がしやすいように、配慮されている。 (学校) QRコードから、単元のまとめや基礎問題を確認することができるので、家庭学習の習慣づくりにも、役立つことが予想される。 単元末問題「学びを日常にいかしたら」では、読解力問題が取り入れられており、思考力・判断力・表現力の育成に配慮されている。 探究の方法を身につけさせるために、実験毎にページを割き丁寧に探究の過程を押さえている。 各単元の最初に既習内容の振り返りや問題解決学習の内容につながる工夫に欠けるため、生徒の疑問に根差した学習を促すことができない。 ホワイトボードの活用方法が示されていない。 他者が、問題解決学習ができるように工夫した記述があるのに対し、導入部でいきなり本文に入るため、自主的な学習を促すことができない。 内容が詳しく書かれすぎること、要点が分かりにくく生徒の思考を妨げるおそれがある。 理科の学習内容と職業との関連が、巻頭折込にまとめて紹介されているため、学習事項とのつながりを実感しにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> QR教材を構築することで、ページ数を減らし、大幅に軽量化している。 必要なところを端的に学習する時間構成になっているが、学習の定着を図ることができない。 第1学年の生物分野の分量が少なく、全体的に余白が多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> (学校)「Can-Do List」という自己チェックシートで、章の目標が示され、評価との関連が明確化されている。 配信型授業支援サービス「センセイエール」で、板書例・指導案・ワークシート用データ等が配信される。 実験における全てが写真で示されているため、実験によって得られる感動や驚きを奪ってしまうように感じる。 会話文で進む箇所は、一文が長い。 挿絵や資料が多く、本文と読み物資料の区分けが一見して分かりにくい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 紙の材質が、他者と比べて良くない。 新版AB変形判(縦B5横A4)はノートやワーク教材等と重ねて持ち運びにくい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> QRコードを読み取って、インターネットを活用する方法は、デジタルネイティブの中学生には、興味・関心が高まることが考えられる。 (市民)各学年でSDGsとの関連が分かりやすいように取り上げられている。 	

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 内容の範囲及び程度は適切である。 基礎的・基本的な内容を細かに記述している。 (学校) 発展 (高校での学習事項) のトピックが多い。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 巻末に「理科で使う算数・数学のページ」「試葉の扱い」等、特集されている。 (学校) 重要語句が朱色で書かれており赤シートで消すことで自学しやすい。 「禁止」「注意」「指示」「廃液処理」に分けられた安全面の配慮がよい。 「ハローサイエンス」で日常生活や社会で既習内容がどのように関連しているのかがわかり、思考が深まる。 章頭に「学習前の私」、章末に「学習後の私」が設定されており、単元毎の自己の学びを振り返ることができる。 小学校での既習事項を確認できるように、「思い出そう」を随所に配置している。 各単元の最初に既習内容と今後の学習内容が図入りで記載されていない。 生徒が疑問から探究できるように構成されているが、見方・考え方を自由に働かせる構成になっていない。 単元末問題では、知識・理解を問うものが多く、思考力・判断力・表現力の育成への配慮に欠ける。 他教科との関連は少ない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ページ数が多く、AB変形判の大判サイズであるため、重く扱いにくい。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 星座早見表など、生徒が興味をもつ付録が添付してある。 全体的に基礎・基本的な内容を重視しており、図や写真が大きくシンプルである。(図や写真は最低限の量。) 見開きの初出漢字、重要語句にはふりがながつけられている。 側注をなくしたことで、シンプルな見開きレイアウトとなっている。 実験の目的・準備・方法・結果・考察までが見開きでとらえやすい。結果を中に書き込むことも可能になっている。レポート例として、次ページに示されているものもある。 (学校) 各学年、巻末に切り離し可能なカードがついているが、保管スペースの配慮はなく、教室内に散乱したり、紛失したりするように感じる。(特に二年生の教科書の原子のモデルカード) 1行当たりの文字数が多くなり、読みにくさを感じることもある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 1年と2・3年の文字の大きさを変えるなどの配慮が適切である。 新版AB変形判(縦B5横A4)はノートやワーク教材等と丁合ができない。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 他者と比べて単元の並びが異なっているため、理科室が少ない場合等、使い勝手が悪くなることが考えられるが、小規模校の場合は、分野が重なることで観察、実験の準備がしやすいことも考えられる。 (市民) 各学年でSDGsとの関連は図られているが、明確に示されている箇所が少ない。 ICTを活用する箇所が少なく目立たない。 (市民) 自然破壊やウミガメなど載せているが、プラスチックの良さが目立つ。 	

発行者名		新 興 出 版 社 啓 林 館
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 内容の範囲及び程度は適切である。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 「深めるラボ」により、高校理科との関連が図られている。 (学校)「探Qシート」が付属され、問題解決的な学習を進めながら、言語に関する能力の育成を図る配慮なされている。 実験・観察の指示は、探究の過程に沿ってわかりやすく説明されている。見開き2ページ以内にまとめられているので、理解しやすい。 ICTを活用し、個の学びに配慮されている。 章末・単元末・巻末問題の中に、学習内容を確認できるポイントや問題、全国学力・学習状況調査を意識した問題が記載されている。 粒子モデルやイオンモデルを教科書に書き込む箇所があり、理解を深める工夫がある。 (学校) 実社会・実生活と学習内容との関連性がわかりやすく紹介されている。 探究の方法を身につけさせるために実験毎にページを割り、丁寧に探究の過程を押さえている。 「話し合ってみよう」「考えてみよう」「表現してみよう」が設けられ、理科の見方・考え方を重視して思考力・表現力を育成する配慮がなされている。 各単元の最初に既習内容とこれからの学習内容が図入りで記載されていない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 写真の選定が生徒の興味を引くものであり、かつダイナミックで授業の導入に使いやすい。横長のレイアウトを効果的に使っている。 総ページ数を現行の教科書に比べ一割程度削減し、軽量化に努めている。 (学校) 写真が豊富だが、雑多な感じがあり、わかりづらい。 「深めるラボ」などトピックの種類が多いのはよいが、「発展学習」と「他教科との関連」の区別が付きにくい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。 新版 AB 変形判（縦B5横A4）は、ノートやワーク教材等と重ねて持ち運びにくい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> (市民) 各学年でSDGsとの関連は図られているが、明確に示されている箇所が少ない。 	

種目（音楽・一般 全2者）

発行者名	1. 教育出版
<p>学習指導要領の教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。資料が多いため、音楽科の専門的指導について研究を深めている教員には向いている。（1年生 pp. 38～43 等）しかし、生徒の実態に応じて指導する事項を取捨選択する必要があるため、経験の浅い教員には、難しいと思われる。また、創作の活動は、音楽的知識が豊富な生徒には楽しく学習できるが、本市の生徒の実態を考えると、難易度が高いことが考えられる。（1年生 pp. 32～35 等）</p>	

発行者名	2. 教育芸術社
<p>指導事項の焦点化がなされ（1年生 pp. 8～9 等）本市の生徒にとり見やすく分かりやすいものである。経験の浅い教員を抱えている本市の実態においても、効率的に指導することができる。また、創作の活動は、（1年生 pp. 21～23 等）分かりやすく丁寧に説明が記載されていることから、生徒が抵抗感なく取り組むことができ、教員が指導しやすい内容である。写真も美しく、印刷が鮮明であり、文字や楽譜がすっきりしていて見やすい。他教科との関連を意識した掲載や、生活と音楽をつなぐような資料が（1年生 p. 66 等）提示されている。</p>	

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。 ・ 全般を通して、発展的な学習の記載が多く、本市の生徒の実態に沿っていない。 ・ 1年生導入期において、本市生徒の興味関心を高めるには適していない。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本とアジアの声による様々な表現では、声に視点をあてた表記がなされており、指導しやすい。 ・ 音楽的特徴をとらえやすい楽曲が掲載されている。 ・ 「君が代」のページでは、さざれ石の写真が掲載されており、生徒が歌詞の内容をイメージしやすい。 ・ 知的理解が重視されており、生徒の心情面に寄り添っていない。 ・ 資料も多く、様々な知識を得ることができるが、生徒の思考の過程に沿っていない。また、指導するときの焦点化が難しい。 ・ 創作の活動は、知識が豊富な生徒は楽しく学習できるが、本市の実態を考えるとやや難しい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気が付いたことや感じ取ったことを書き込める欄が多くある。 ・ 各学年表紙裏にある(口絵①)唱歌のページは、美しい写真とともに丁寧な解説が加わり、近代日本の心を大切に扱っていることが伺われる。 ・ 巻末の折り込みページは、机に広げると使いづらく、破損しやすい。 ・ 鑑賞領域に器楽の内容が入ることがあり、整理されていない。 ・ QRコードが関連ページに掲載されると使いやすい。 ・ 「比べてみよう」で比較対象となる楽曲が見開きにないため、資料を見比べる際に手間取る。 ・ 「学びのユニット」の「学びの手がかりとなるヒント」は、学習指導要領通りの文言ではないので分かりにくい。 ・ 教材を使用しているときに「音楽を形づくっている要素」を意識しにくい。「学びの手がかりとなるヒント」が掲載されている(pp.4~5)が、そこに戻らないと学習のポイントが分からない。 ・ 鑑賞教材においては、解説の情報量が多く、ポイントがしぼりづらい。 ・ (学校) ページによっては、五線譜がつまり音符が小さくて見づらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表記が改良されているところが多く、9か年を見通した積み重ねの授業ができていない地域での使用は大変有効であると考えられる。 ・ 専門的な資料が多いが、本市の生徒の実態を考えるとそぐわない。 ・ 民謡の紹介として掲載している地図には県境がなく、社会科と関連させて指導する場合は、活用しづらい。(1年 pp.30~31) 	

発行者名		教育芸術社
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的特徴のとらえやすい楽曲が選曲されている。 指導すべき事項の焦点が絞られており、使いやすい。 目次のあとの学習内容を示す系統図は、生徒にとって学習内容を理解しやすい。また、指導者にとっても学習内容や指導事項の関連を把握しやすい。 世界の諸民族の音楽の紹介では、我が国の伝統音楽や伝統楽器などと比較することで、より理解を深めることができる。 他教科との関連を意識した掲載がある。 (学校) リズムゲーム、リズムアンサンブル等掲載されていることから、生徒がリズムについて興味関心を高めることができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして配分されている。また、分量は適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 1年の教材で「越天楽」が掲載されている。小学校6年生で学習する「越天楽今様」を導入として雅楽の学習に入ることができる。 QRコードの掲載数は少ないが、タブレット等を利用した発展学習ができる内容になっている。 音楽を形づくっている要素がどの題材にもまとめられており使いやすい。 「アジアの諸民族の音楽」は、各国の音楽の特徴を想起しやすい内容である。また、地図とともに演奏している写真やその説明が詳細に示されており、分かりやすい。 デジタル教科書については、指導者用は、音源や範奏・範唱などの資料が豊富であり、経験年数の少ない教員に使いやすい。 (市民) 魅力的な曲が多い。 生徒の考えを書き込むスペースが少ない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 表紙の絵は、生徒には受け入れられやすいと思われる。 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間、楽譜は見やすいものとなっている。 製本は適切である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 1年教科書の裏表紙に、「私たちが受け継ぐ 郷土の祭りや芸能」小倉祇園太鼓、福岡県北九州市として、詳細に掲載されている。 鑑賞の活動において、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切な教材を選択することができる内容になっている。 「心の歌」、「歌い継ごう日本の歌」、我が国や郷土の伝統音楽では、生徒が親しみのもてる教材を取り上げたり、実際に唄ったり語ったりする活動を通して、愛着を育む内容となっている。 資料も適切で使いやすい。本市の実態に沿っている。 	

種目（音楽・器楽 全2者）

発行者名	1. 教育出版
<p>学習指導要領の教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。奏法の解説は丁寧であるが（1年生 pp. 18~23 等）生徒に興味関心を持たせたり、生徒の心情に即したりした掲載の仕方であるとはいえないため、問題解決的な学習に結び付けにくい。また、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるような個に応じた指導への配慮が足りず、難易度も高いことが考えられる。（1年生 pp. 4~16 等）</p>	

発行者名	2. 教育芸術社
<p>学習内容と教材が精選され、初歩的な内容から発展へと配列されている。（1年生 pp. 16~31 等）学習内容を系統立てて整理した掲載や音楽を形づくっている要素を明示した掲載があるため、（1年生 pp. 8~9 等）音楽の見方・考え方を働かせるための授業を構成しやすい。技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されているため、生徒は抵抗感なく取り組むことができ、教員が指導しやすい内容である。（1年生 p. 19 等）</p>	

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> 音楽科の目標及び内容を指導する上で問題はない。 容易に取り組める曲から難易度が高い曲まで、思いや意図をもって表現できるようになっている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> 楽器ごとに特徴・奏法・楽曲などがまとめられている。そのため、系統的に学習することが可能である。 「何が同じで、何が違う」では、同じ種属の3つの楽器について共通性と固有性を考えたり話し合ったりすることができる。 奏法に関する記載が、生徒が自らの力で課題を解決する資料としては、不足している。 (p.4) ソプラノリコーダーとアルトリコーダーを「運指の共通の音」として掲載するのは、楽譜に抵抗感のある生徒や音感が育っていない生徒にとっては混乱することが懸念される。 インデックスタイプの運指の表記に統一感がなく、分かりにくい。 (学校) 楽曲の選曲や並びから考えると、技能の習得という感が否めない。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 オリジナルの練習曲が多く、音楽経験の少ない生徒にとっては、自分が正しく演奏できているかどうか自己判断しにくい。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ソプラノリコーダーの掲載が充実されたことにより、リコーダーの活用幅が広がる。 楽器の演奏には、活躍中の演奏家が採用されており、興味を高める工夫がされている。それぞれの奏者からのメッセージも記されており、心情面にも迫る内容となっている。 目次ページにあるQRコードに模範演奏や動画が豊富に収録されているが、個人で繰り返し学ぶためには、関連ページにQRコードがあると、より使いやすい。 巻末の口絵③④のギター&キーボードコード表のギターのポジションが写真で掲載されているが、どの弦のどのフレットを抑えているのか見づらい。押さえ方を図で示した方が分かりやすい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明である。 情報量が多いページと少ないページの差が大きい。 裏表紙に「色覚の個人差を問わず」と明記しているが、黄なりの紙に印字されているため、見づらい生徒もいることが考えられる。
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> 「太鼓」では祭りでの太鼓演奏の例として小倉祇園太鼓が掲載されており、地域への愛着心を育てることができる。 我が国や郷土の伝統音楽で使われる楽器については、演奏者からのメッセージを通して、その楽器の魅力に迫ることができる。 音楽を苦手とする生徒にとっては、知識・技能を身に付けさせる内容が多く、生徒の思考に即していない。 楽器によって、取り扱いページに偏りがある。

発行者名		教育芸術社
観点		
1 各教科 共通 の選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・ 生徒の興味・関心を高め、多様な音楽体験ができるよう学習内容と教材が精選され配列されている。 ・ 各楽器の演奏では、初歩的な内容から発展へと示されているところがよい。 ・ 楽曲が豊富なので、生徒の発達段階や実情に合わせて選択することができる。 ・ 目次のあとの学習内容を示す系統図は、生徒にとって学習内容を理解しやすい。また、指導者にとっても学習内容や指導事項の関連を把握しやすい。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容を整理した部分 (pp. 8~9) では、内容を系統立てて整理している。また、それぞれの内容に、音楽を形づくっている要素を重点ポイントとして挙げていることから、系統的な指導ができる。 ・ アルトリコーダーとソプラノリコーダーの共通運指で音の高さの紹介がある。また、1音のみの分かりやすい表記 (p. 19) は混乱することなく、楽器の面白さに気づききっかけにもなる。 ・ 新出のアルトリコーダーの運指がインデックスのようにまとめて掲載されているため (p. 29) 練習するときに確認するのが容易である。 ・ (学校) 和楽器の曲には、Jポップやアニメ等、生徒が親しみやすい曲が多く、取り組みやすい。 ・ 生徒が思いや意図を整理するための記述欄は、創作分野に限られている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分量は適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋楽器 (リコーダー、ギター)、邦楽器 (箏、三味線等) とまとめてあるので使いやすい。 ・ ソプラノリコーダーの掲載が充実されたことにより、リコーダーの活用が広がる。 ・ 楽器の演奏には、活躍中の演奏家が採用されており、興味を高める工夫がされている。またそれぞれの奏者からのメッセージも語りかけるように記されており、心情面にも迫る内容となっている。 ・ 楽器の図鑑は、鑑賞の授業で使いやすい。 ・ (学校) 邦楽と洋楽の掲載曲のバランスがよく、楽曲の選択の幅が広がる。 ・ (市民) 魅力的な曲が多い。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏会や郷土の祭りの様子などの写真と合わせて提示することで、それぞれの楽器の演奏と生活や社会の関連を想起できるようになっている。 ・ 各楽曲に、音楽を形づくっている要素をポイントとして挙げることで、音楽的な見方・考え方を働かせながら学習に取り組むことができるようになっている。 ・ 音楽を通して音楽文化と豊かに関わることができるよう、幅広い学習の工夫も見据え、適切な教材を用意している。 ・ 技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている。 ・ 学習指導要領に即して、和楽器の記述も充実している。 ・ 我が国や郷土の伝統音楽で使われる楽器については、演奏者からのメッセージを通して、音や音楽に思いをこめて演奏することの大切さが伝えられている。 	

種目（美術 全 3 者）

発行者名	1. 開隆堂出版
<p>全ての題材で「学習のポイント」が示されており、生徒が学習のねらいを捉えやすく、教科の目標を達成しやすい。また、他教科との関連がページ下部に示されており（1学年 p. 10 等）、教科横断的な視点によるカリキュラムを組み立てやすい。しかし、各ページにおいて表現と鑑賞の内容を相互に関連させるような具体的な表示がない。また、鑑賞活動において生徒の個々の感じ方を限定してしまう作品の解説（1学年 p. 2 等）が散見される。</p>	
発行者名	2. 光村図書出版
<p>全ての題材に鑑賞活動を設定し、表現中心の題材でも表現と鑑賞を一体的に学べる構成（1学年 p. 10 等）になっているので、生徒が造形的な見方・考え方を働かせ、自分の思いを深め、表現していくことができる。また、「みんなの工夫」の紹介（1学年 p. 12 等）による制作過程が分かりやすく、主体的な制作が促されるように配慮されている。他者と比べ教科書のサイズがやや小さめである。しかし、写真図版等の構成が工夫されており、小ささを感じさせない。</p>	
発行者名	3. 日本文教出版
<p>表現と鑑賞が重なり合うような見出し（1学年 p. 12 等）になっているため、それらを関連付けて学ぶ重要性が伝わりやすい。また、「造形的な視点」（1学年 p. 12 等）に示した問いが随所にあるため、生徒が授業のねらいをとらえやすく、造形的な見方・考え方を働かせながら学習しやすい。しかし、問いの内容には、生徒が自ら造形的な視点に気付くことを妨げたり、画一的な見方や表現の仕方に導いたりする可能性があるものが多い。</p>	

観 点		発行者名 開 隆 堂 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 全ての題材で、「学習のポイント」が示されているため、生徒が学習のねらいを捉えやすく、教科の目標が達成しやすい。 学習指導要領に基づいた領域を不足なく取り上げ、絵画・彫刻、デザイン・工芸の題材がバランスよく構成されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの地図」や各領域の解説を設けることにより、表現と鑑賞を相互に関連させることの重要性を示し、学習の意義を意識させる内容になっている。 協働や協力をして活動する題材を多く取り上げ、生徒同士のコミュニケーションや言語活動が深められるように発問が工夫されている。 他教科との関連がページ下部に多く示されており、教科横断的な視点による教育内容を組み立てやすく、カリキュラム・マネジメントを充実させながら、学校が目指す資質・能力の育成や取組を全教職員が共有することに繋げやすい。 (学校) 色相環に色の名前が記されておらず、授業で取り扱いにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 1年67ページ、2・3年123ページ、総頁数190ページと分量は三者のうち最も多く、幅広い題材の中から、生徒の発達段階や学校、地域の実態に応じたカリキュラムを編成しやすい。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの地図」では美術の領域が丁寧に分類され、生徒と作品との出合わせ方の方法が記載されており、学習内容の概要を理解しやすい。 「学習のポイント」や「作者のことば」が示されていることにより、話し合い活動を通じて主体的・対話的で深い学びへと繋げ、発想や構想を広げて主題を生み出すことができるような内容になっている。 (学校) QRコードがついているが、リンク先の内容が充実していない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> A4ワイド版(通常のA4より、約2cm大きく)、製本は堅牢、紙の質は良好で、開いたときに使いやすく、発色が鮮やかである。 色相環を少数派色覚者にもわかりやすいものにするなど、カラーユニバーサルデザインに配慮し、紙面の配色が工夫されている。 (学校) 単語や文節が途中で改行されないようにし、文章は意味のまとまりごとに読みやすく工夫されている。 数多くの写真資料が指導に活用できるが、他社と比べ、やや不鮮明な写真がある。 2・3年生の表紙の色みが強すぎる。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 表現及び鑑賞の幅広い活動において、「学習のポイント」や「目標」を通じて造形的な見方・考え方を働かせながら造形的な視点について理解し、生活や社会の中の美術や美術文化に豊かに関わる内容になっている。 発想や構想に関わる作品や作者等に関わることば、また、鑑賞作品に解説や作者の情報、時代背景などの説明が丁寧にされている。 3者の中で、3年間を通じて、鑑賞に親しむことができるように創意工夫された題材数が最も多い。表現活動と関連付けながら、「美術用語」や「学びの資料」などにより、生徒が多様な視点から効率よく造形を豊かにとらえ実感することができる。 (学校) 注意が必要な箇所には「！」のマークが細やかに配慮され、安全指導が徹底できている。 見方を限定している作品の解説が、生徒の鑑賞活動における妨げになる可能性がある。 各ページにおいて表現と鑑賞の内容が相互に関連するように示されておらず、紙面の構成上不十分である。 	

観 点		発行者名 光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領の領域を不足なく取り上げ、発達の段階に応じて系統的に構成している。 ・ 各題材の目標を明確にし、発想や構想、技能、鑑賞に関する資質・能力を身に付けられるような内容になっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんなの工夫」の紹介（1学年 p.12 等）による制作過程が分かりやすく、主体的な制作が促されるように配慮されている。 ・ 図画工作から美術へ、1 学年から 2・3 学年の学習への展開が考慮されており、既習事項を生かしながら発展的な学習ができる。 ・ 作品を鑑賞し、対話が生まれるような発問が表現の頁にも記載されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間授業時数に即して、地域や学校の実情に合わせて指導計画が立てられるよう工夫されている。 ・ 題材の分量としての不足はないが、2・3 学年の題材数が他者と比べ少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ QR コードの脇に内容の文字情報の説明があり、360 度動画も 21 本と関連資料を通しての主体的学習を促しやすい。 ・ (学校) トレーシングペーパーを綴じこみ、描きこみができることで、より実感的に理解でき、学びを深めていくことができる。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白地をうまく活用し、写真のトリミングなどもうまく、すっきりとした見やすいレイアウトになっている。 ・ 内容よりも紙質に気をとられる恐れがあるが、掲載作品に合わせた異なる材質の紙に印刷している頁があり、作品に対する興味・関心が深まりやすい。 ・ 印刷加工のバリエーションが豊富であり、教科書に触れたときの手触りの違いを味わうことができる。 ・ (学校) 構成が工夫されており、写真図版等の小ささを感じさせないが、他の 2 者と比べ、教科書幅が約 2 cm 小さい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての題材に鑑賞活動を設定し、表現中心の題材でも表現と鑑賞を一体的に学べる構成（1 学年 p.10 等）になっているので、生徒が造形的な見方・考え方を働かせ、自分の思いを深め、表現していくことができる。 ・ 造形的な視点をもとに日常生活におけるデザインなどの働きを見つめ直すことができるように配慮されており、社会の中の美術文化と豊かに関わることができる。 ・ 造形的な視点について、作品とともに作者の言葉を掲載し、イメージと形や色の関連を示すことで、教科書を使用する生徒が制作したり、鑑賞したりするときのヒントになり、効果的にその資質・能力を育成することができると思う。 ・ (市民) 美術になじみの無い生徒に親しみをもたせる工夫や題材毎の制作の過程について段階を追って興味を広げる工夫がある。 ・ 生徒と先生のキャラクターに吹き出しをつけ、考えを述べ合う様子を紹介することで、多様な見方や感じ方を促す効果がある。 ・ 言語活動に特化した（2・3 年 p.76・77 ウェビングマップ、曼荼羅チャート、ベン図、ワールドカフェの紹介）頁で、表現意図を言葉に表したり、人に伝えたり、受け入れたりする活動を充実できる。 ・ 作品の発想を広げ構想を練るための具体的な手立てが示されているため、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるような内容になっている。 ・ 「北斎」と「ゴッホ」や「絵巻物」と「漫画の表現」など、比べて学習できるようにしたり、「鑑賞」の学習の中に「問い」を盛り込んだりすることで、主体的・対話的な深い学びが実現できる。 	

観 点		発行者名 日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された領域を不足なく網羅し、3分冊で構成されている。 ・ 美術科の目標達成に結びつくように、内容項目について発達段階に応じて作品が選定されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者などハンデのある人のためのデザインや、ICT、漫画を活用した題材、キャリア教育の視点から俳優やアニメーション作品の紹介などがある。美術を社会や生活と結びつけながら、より身近に感じることができる。 ・ 題材を系統立てて設定しており、学年毎の節目を大切にしながら、3年間の美術での学びを積み上げることができる。 ・ 言語活動の場面や制作過程、作者の言葉、アイデアスケッチの紹介、対話が生まれるような発問があることで、思いを伝え合う活動が充実できる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間授業時数に即して、地域や学校の実情に合わせて題材を選択し、指導計画を立てられるよう、工夫されている。 ・ 学びを支える巻末資料が充実している。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見出しの表現と鑑賞が重なり合うような表示になっているので、関連付けて考えていくことの重要性が分かりやすい。 ・ 写真ではその魅力が伝わりづらい作品について、QRコードのリンク動画でその面白さが伝わるような仕掛けがある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高精細印刷を用いて色味や細部の再現にこだわっているため、画像が鮮明であり、鑑賞体験への配慮が工夫されている。 ・ 2・3学年では、教科書は比較的軽く、持ち運びやすい。 ・ 紙の質が若干厚めであることからやや広げにくい。 ・ (学校) 図版や文章が多く掲載されているが、雑然とした配置で、余白が小さいため全体的なまとまりに欠けている。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 身の回りのものから、環境・空間・祭りなど、幅広く例示を扱っており、生活や社会に結びつけた題材が多いので、親しみやすく、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができる内容になっている。 ・ 一つの題材に対して、様々な作品展開が紹介されている。生徒の実態に合わせた制作ができる工夫がある。 ・ 「造形的な視点」(1学年 p.12 等) に示した問いが随所にあるため、生徒が授業のねらいをとらえやすく、造形的な見方・考え方を働かせながら学習活動しやすい。 ・ それぞれの職業で美術を生かしている人たちを扱うことなどで、学びが将来どのような場面で生かされるのかが伝わりやすく、美術がこれからの人生や生活に大きく関わってくることが分かりやすい。 ・ 「作者の言葉」やアーティストの発想方法紹介などにより、作品の主題や工夫したポイントが分かり、発想・構想を深め、生徒が主題を生み出しやすい流れができている。 ・ 「造形的な視点」により事前に見方を限定することで、既習事項を生かしくくなり、画一的な見方や表現の仕方につながる可能性がある。 ・ デザインや工芸の題材においてはより多くの他者を対象とすることで、生徒が社会性や客観性を意識できるようにすることが望ましいが、2・3学年の題材設定には、自己に向けた制作内容がみられる。 	

種目（保健体育 全 4 者）

発行者名	1. 東京書籍
<p>「教科書の使い方」(口絵9)、「保健体育の学習方法」(pp.2~3)が説明されており、授業を進めやすくなっている。また、他教科との関連がマーク等で示されており、横断的な学習が進めやすくなっている。(p.10)しかし、目次の体育分野・保健分野の記載順が学習指導要領と逆であったり、保健分野の章立てが逆になったりしているため、系統立てた指導が行いにくい面が見られる。</p>	
発行者名	2. 大日本図書
<p>校種間(p.3)、教科間(p.4)、家庭・地域との連携(p.9)が取りやすく工夫しており、系統性のある指導ができる内容になっている。また、1単位時間の授業の流れや保健体育の学び方に関する記述やイラストがわかりやすい(口絵15)。重要な語句(キーワード)のまとめが、見開きの最後に提示されている(p.7)。できれば、導入部の探求意欲のきっかけづくりとして、開きの左上配置が良いと考える。また、SDGsに関する記述がない。</p>	
発行者名	3. 大修館書店
<p>日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践することができる内容になっている(pp.7.9~10)。また、SDGsに関する取扱いが充実している(口絵7~8)。しかし、心肺蘇生法の流れがわかりにくく(p.110)、災害と環境についての内容が少ない(p.168~169)。また、性の多様性についての取扱いが特に見られない。</p>	
発行者名	4. 学研教育みらい
<p>学習内容をキーワードごとに再整理して教科等横断的な関連をし、カリキュラムマネジメントにつながる工夫がしてある(p.190~191)。また、オリンピック、パラリンピックの内容に関する資料がまとめられており、わかりやすく(p.144~149)、他者と比較してSDGsに関する取扱いも特に充実している(p.142~143.148.189)。(市民)性の多様性について、LGBTの言葉の解説が脚注記載に留まっており、用語のおさえのみで完結している部分がある(p.43)。</p>	

観 点	発行者名 東京書籍	
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の範囲は適切である。 ・ 単元ごとの内容の掘り下げ方が適切である。 ・ ストレスへの対処に関して、多様化するストレスの現状に応じた対処法にもう少し幅を持たせてもよいと感じた。青少年期のストレスは、現在、大人のそれと変わらない部分もあるため、もう少し掘り下げてもよいと感じた。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文と資料のバランスが良い。 ・ 各章末に資料ページを設けており発展的な学習を行う上で非常に詳しく掲載されている。 ・ ストレスの対処法や応急手当の方法など紙面だけでは足りない部分をコンテンツにつなげるなどの工夫がなされている ・ 他教科との関連が詳しく記されている。 ・ 章末資料が充実しており、健康についての課題解決につながる内容が多い。 ・ 「見つける」「課題の解決」「広げる」が1時間の授業の流れでわかりやすく配置されている。 ・ デジタルコンテンツというインターネットを使った学習ができ、予習・復習が行いやすい工夫がされている。 ・ 「活用する」は、対話的な学習に取り組みやすく、深い学びにつなげやすい配慮がされている。 ・ 「広げる」は、学習した内容をもとに自分の生活を振り返り、つなげていく工夫がされている。 ・ マークの種類が多すぎて、わかりづらい面がある。 ・ 目次の体育分野・保健分野の記載順が学習指導要領と逆であるためややわかりにくい面がある。 ・ 保健分野の章立てが逆になったりしているため、系統立てた指導が行いにくい面が見られる。 ・ 学習の流れを示すラインに沿って、「見つける」「課題の解決」「活用する」「広げる」の4つのステップの配置が分かりにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分量は、適切である。 ・ やや文字の分量が多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットコンテンツとの連携・活用が、明確になっている。今後、現場では、タブレット端末などの使用が広がりを見せるため、対応が工夫されている。 ・ 指示マークなどが、統一されどの単元も、学習を進めやすい工夫がされている。 ・ 各章によってタグの色分けがはっきりと行われ、表題の文字を大きく同色であらわすなどの工夫がなされている。 ・ 学習のまとめが授業の振り返りとして活用できる。 ・ 心肺蘇生法の手順が縦と横に読んでいくために少しわかりにくい。 ・ ページ内に空白の部分が多く感じる。 ・ アンケート結果など、調査年末掲載があり、資料の信憑性に欠けている。(例えば、p.28 資料1 p.29 資料2) ・ 比較的新しい資料が多いが、2007年と古いものもある。 ・ 保健分野の2年生3章、4章、3年生5章、6章の配列が逆になっているため系統立てた指導につながりにくい。 ・ データに、地域の偏りがある。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校) 実習における説明では、写真や図と文字説明が分離している部分が多いため、少し分り辛いと感じた。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字サイズや写真などの配置、見やすさが丁度よい。 ・ 色合いが全体的に落ち着いている。 ・ 章ごとの色合いが統一され、落ち着いていて見やすい。 ・ イラスト、文字の大きさ、字体、行間など、見やすくわかりやすい。 ・ 適度に余白を入れ、すっきりとした印象で見やすい。 ・ 写真やデータが多くわかりやすい。 ・ 「課題の解決」「広げる」等の学習の柱となる文字については、もう少し目立つ色合いのほうが良い。 ・ 色合いは落ち着いているがその分インパクトに欠ける。 ・ 口絵の写真が、興味を引く内容に見えない。 ・ 文字が強調されているが、目立たない語句がある。
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> ・ 他教科との関連が示されており、横断的な学習が進めやすくなっている。 ・ 自他の健康に関する課題を発見し、よりよい解決に向けて取り組む思考力、判断力、表現力等を育成することができる内容になっている。 ・ 応急手当の内容が充実している。 ・ 「教科書の使い方」「保健体育の学習方法」が説明されており、授業を進めやすくなっている。 ・ 章のはじめに小学校・中学校・高校で学習することが明記されており、系統性のある指導ができる内容になっている。 ・ (市民) 性の多様性については、p. 44 に記載がある。 ・ (学校) ストレスへの対処について、イラストや言葉でわかりやすく説明している。 ・ 男子の生殖機能の発達、女子の生殖機能の発達と大きな文字で見出しとなっており、性の多様性について、触れているがもう少し掘り下げたほうがよい。 ・ オリンピック、パラリンピックの内容についての記述が少ない。 ・ SDG sに関する記述が少ない。

観 点 / 発行者名	大 日 本 図 書
(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の範囲は適切である。 ・ 資料の分量が豊富で、特に章末資料は学習内容を広げて知識を深められるように工夫されている。 ・ がん教育については、生活習慣との関りについて、もう少し掘り下げる必要がある。 ・ スポーツの多様なかわり方については、もう少し掘り下げてもいい感じである。 ・ 性情報などへの対処では、より具体的な SNS 上のトラブルや危険度を明示した方がよい。
(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「つかもう」「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」「活用して深めよう」がわかりやすく配置している。 ・ 目次や口絵1で3年間の履修内容が系統的に整理されていてわかりやすい。 ・ 「トピックス」が生徒の知識をより広め、深める内容になっていて非常に良い。 ・ 引用されているデータが新しいものが多い。 ・ それぞれの単元で「主体的・対話的で深い学び」を促すように紙面構成に配慮されている。 ・ 各章末のまとめに「重要な言葉」の説明が示されており、学習内容の整理がしやすくなっている。 ・ 本文ページと資料ページの明確な区別や読みやすい位置での改行など、特別支援教育やユニバーサルデザインに配慮している。 ・ (学校) 他教科との横断的な繋がりがよい。 ・ 学習活動の内容については、1 単位授業内で収まらない活動・作業量があると感じた。 ・ 言語活動の能力の育成を図る活動が、話し合いや対話だけになっている。
(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分量は、適切である。 ・ 災害に関する学習部分は、もう少し取り扱い範囲を深めたり、広げたりが必要と感じる。毎年の、全国の被災状況から、喫緊の課題や避難に対する知識の習得が必要と感じている。 ・ 使われている語句や、文章表現が難しい。 ・ 資料が充実している分、本文が少ない。
(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文中の語句説明が、本文の下部にまとめてあるのが、見やすくよい。 ・ 各章の「学習のまとめ」として〈重要な言葉〉がまとめられており非常に丁寧でわかりやすい。 ・ トピックスの内容が充実しており、授業を発展させる内容となっている。 ・ 応急手当、心肺蘇生法が見開きページになっており、わかりやすい。 ・ 保健体育の見方・考え方を働かせて深い学びにつながるようになっている。 ・ 「WEB」や「AR」などデジタルコンテンツが充実しているが、現時点では活用しづらい。 ・ 写真・資料と本文のバランスから見ると、文章の部分がやや少ない感じがする。 ・ 重要な語句(キーワード)のまとめが、見開きの最後に提示されている。できれば、導入部の探求意欲のきっかけづくりとして、見開きの左上配置がいいと考える。 ・ 章末に学習した内容を振り返る(まとめ)問題が「WEB」上にあり、手軽に取り組みにくい。

	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真・資料の配置、文字サイズなど丁度良い。 ・ レイアウトもよく考えられコンパクトにまとめられており、ページ数が少なくなっている。 ・ 左ページに本文、右ページに資料と、レイアウトがわかりやすい。 ・ 色鮮やかで色使いも適切で目を引くデザインになっている。 ・ 口絵の写真が鮮明で、生徒の興味や関心を引き出す内容になっている。 ・ 多彩な色合いで構成されていて、見やすい。 ・ 色合いが全体的に落ち着いている。 ・ 文字間が狭く、漢字が多く使われているため、目で見ても理解するには配慮が足りない。 ・ 写真や資料等の色使いが、馴染めない。コントラストがきつい感じがする。 ・ 本文と資料が見開きページで完全に分かれ整理されているが授業を進めていく流れの中では参照にしにくい。 ・ 余白が多いページがある。
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> ・ 校種間、教科間、家庭・地域との連携が図りやすく工夫しており、系統性のある指導ができる内容になっている。 ・ 1 単位時間の授業の流れや保健体育の学び方に関する記述やイラストがわかりやすい。 ・ オリンピック、パラリンピックの内容に関する記述や写真がわかりやすく、系統立てて理解することができる。 ・ 自然災害について、わかりやすく、丁寧に説明しており、実践に役立つ資料となっている。 ・ (市民) 性の多様性について、「個性や能力を大切にする」側中記載 (p. 38) がある。 ・ 感染症についての内容が少なく、感染経路についての記述がない。 ・ SDG s に関する記述がない。

発行者名		大 修 館 書 店
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の範囲は適切である。 ・ 本文と資料の割合・バランスが悪い。資料が多すぎる。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「章のまとめ」の問題では「知識・技能の確認問題」や「思考・判断・表現の問題」と表記しており、観点別評価を考慮した構成になっている。 ・ コラムや事例などで時代の流れにあった内容を採用している。 ・ クローズアップ「学びを広げよう、深めよう」は、道徳等と関連付ける内容になっている。 ・ 資料の中に吹き出しのコメントや、思考のヒントとなる記載があるため、生徒の思考が高まるよう工夫されている。 ・ 分野と体育分野を学年ごとに分類してあってわかりやすい。 ・ 生徒が学習内容を確実に身につけることができるように、学習のまとめとして章末問題が十分に確保され、観点別でわかりやすくなっている。 ・ 重要な語句（キーワード）のまとめが、開きの右上に提示されている。できれば、導入部の探求意欲のきっかけづくりとして、開きの左上配置がいいと考える。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分量は、適切である。 ・ 資料が比較的新しいものが多く、わかりやすい。 ・ 単元によって、本文が少ないように感じたが、資料をふんだんに盛り込み、資料から読み取ることができるようになっている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ イラストや写真、資料が多く取り入れられており、見やすく、授業を進めていく流れに沿って使いやすい。 ・ 章のまとめ資料がわかりやすく、学んだことを振り返る内容になっている。 ・ 「課題をつかむ」「きょうの学習」「学習のまとめ」が同じ場所に配置されていて、見やすく扱いやすい。 ・ 章末問題等が別にあるため、見開き2ページを1単位時間で完結する構成内に、記述できる課題はワークなどを併用するため不要と感じる。ワークを使用しない場合は、有効である。 ・ 資料によっては、使い方の方向性に制限がかかるものがあり、説明が行いにくい。 ・ 学習の流れである「課題をつかむ」⇒「まとめ」の間に、主体的な思考・判断・表現に結びつくような、調べたり活用したりといった柱が欲しい。 ・ 強調されている言葉が行をまたぐことが多く見受けられ、見にくい箇所がある。 ・ 見出しの言葉がわかりにくい。 (生殖にかかわる働きの成熟、欲求とその充足など) ・ 文字が少なく、写真が多く、内容を理解するのに、説明が不足している部分がある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真やイラストなど光沢が抑えられ目に優しい工夫がされている。 ・ 口絵の写真が鮮明で、生徒の興味関心を引き出す内容になっている。 ・ 資料や図、表、イラストがカラフルで見やすい。色合いも落ち着いた。 ・ イラストが多く、生徒の興味をひく内容になっている。 ・ (学校) UDフォントを使用しており、本文の文字の大きさが、適切である。 ・ 本文と資料・写真等の配置が、単元によって違うところがあるため、配置は、そろえた方がよい。 ・ 食物を提示する部分は、イラストよりも、出来る限り写真の方が伝わりやすい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文中の太文字はわかりやすいが、見出しの書体が印象に残りにくい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践することができる内容になっている。 ・ 感染症について、説明がわかりやすく、喫緊の課題であるマスクについてのコラムなどの記述もあり、授業で活用しやすくなっている。 ・ 「がんとその予防について」の記述が充実している。 ・ ストレスへの対処の技能に関する内容が充実している。 ・ 章のはじめに小学校・中学校・高校で学習することが明記されており、系統性のある指導ができる内容になっている。 ・ 応急手当の技能に関する内容が、写真と絵を効果的に示されており、具体的で指導しやすい内容になっている。 ・ SDG sに関する取扱いが充実している。 ・ (学校) 体育理論の資料やイラストがわかりやすく、内容が充実している。 ・ 心肺蘇生法の流れがわかりにくい。 ・ 免疫のしくみについてのイラストがわかりにくい。 ・ 災害と環境についての内容が少ない。 ・ 高等学校への移行について、考慮が少ない印象があった。 ・ (市民) 性の多様性についての取扱いが、特に見られない。

発行者名		学 研 教 育 み ら い
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の範囲は適切である。 ・ ストレスへの対処法については、多様化するストレスに、幅広く対処する提示が工夫されている。 ・ 性情報などへの対処では、より具体的な SNS 上のトラブルや危険度を明示してほしい。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「課題をつかむ」⇒「考える・調べる」⇒「まとめる・深める」といった一連の学習の流れが明確で、主体的に、思考・判断し、適切に振り返ることができる仕組みが良い。 ・ 「もっと広げる・深める」、「探求しようよ」が丁寧で豊富な内容になっている。 ・ イラストや資料、図・表が大きくなり、見やすくなっている。 ・ それぞれの単元で「主体的・対話的で深い学び」を促すように紙面構成に配慮されている。 ・ (学校)「章のまとめ」では観点別による自己評価と問題、課題などで構成されているが、1ページにまとめられており利用しやすい。 ・ (学校)文字のフォントが大きくなり、見やすくなっている。 ・ (学校)章末問題が少ない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分量は、適切である。 ・ やや分量が多いが、内容が充実している。 ・ 概ね適切な分量である。 ・ 「もっと広げる・深める」、「探求しようよ」が丁寧で豊富な内容になっているが授業の中ですべてを取り扱うには分量が多い感じがする。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文に関連して提示している資料や写真が、現在の社会生活の中で、より身近にあるものが多く使われていて良い。 ・ 見開きで1単位時間の授業の流れを考えた構成が、使用しやすい。 ・ イラストや資料などが豊富で、生徒の興味や関心を引き付けやすい。 ・ イラストや図表・グラフ等は学習を進める上で、関連をもたせるように配置され、活用しやすくなっている。 ・ 身近な事例が多く取り上げられており、興味をひく内容になっている。 ・ (学校)インターネットやデジタル教材にアクセスできるようになっているが、使い勝手が悪い。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字サイズや写真などの配置や色合いが落ち着いていて、見やすさが丁度よい。 ・ 文字などで強調される部分の太字や指示マーク等が明確でよい。 ・ ページの幅が広くなっており文字が大きく文字間も空いているため見やすい。 ・ 落ち着いた色合いで見やすく、注目させたい内容がしっかりと目に留まる色遣いになっている。 ・ イラストや資料等が多く、生徒の興味関心を促す内容になっている。 ・ ページ数が多く、重量感がある。 ・ 口絵の写真のインパクトがない。 ・ (学校)表紙、裏表紙が、保健体育と結び付きにくい印象である。

<p>2 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容をキーワードごとに再整理して教科等横断的な関連をし、カリキュラムマネジメントにつながる工夫がしてある。 ・ 「探求しようよ」の活用により、授業内容を深化・発展できるようになっている。 ・ オリンピック、パラリンピックの内容に関する資料がまとめられており、わかりやすい。 ・ 「最前線を知る」で最新の情報や、大切なポイントがわかる。 ・ 章のはじめに小学校・中学校・高校で学習することが明記されており、系統性のある指導ができる内容になっている。 ・ 他者と比較して、SDGsに関する取扱いが特に充実している。 ・ 感染症についての取り扱い内容に深みがない（もう少し掘り下げてほしい）。 ・ （市民）性の多様性について、LGBTの言葉の解説が脚注記載（p.43）に留まっている。用語のおさえのみで完結している。
--	--

種目（ 技術・家庭（技術分野）全 3 者）

発行者名	1. 東京書籍
<p>「技術の見方・考え方」の解説を図式化し、「社会からの要求」「安全性」「環境への負荷」「経済性」の4点から考える工夫がなされている。また、技術の「見方・考え方」について触れている（p. 36、100、168、216）。</p> <p>問題解決の過程が分かりやすく示されており、問題を解決する力を身に付けることができるように配慮されている（pp. 170～189）。「統合的な問題解決」のページがあり、学習を進めやすくなっている（p. 264）。</p> <p>プログラミングについて、「今すぐできる！プログラミング手帳」（p. 8）を掲載しており、プログラムのマニュアルとして活用できる。</p> <p>余白が少なく、1 ページ当たりの情報量が多すぎる。</p> <p>「情報の技術」（pp. 200～203）の内容が簡略化されている。</p>	

発行者名	2. 教育図書
<p>生活を工夫し創造する資質・能力を身につけられるように、基礎的・基本的な知識を精選し、身につけた知識や技能を使った実践的・体験的な課題解決学習を重視している（p. 74、116、182）。</p> <p>各内容の編末問題は、評価の3観点に対応した問題で、学習をふり返ることができるようになっている。</p> <p>「生物育成の技術」において、家畜として、乳牛、採卵鶏、ブタの飼育、水産生物としてアワビ、ヒラメ、マダイの育成を3例ずつ掲載しており実習例が豊富である。（p. 106）</p> <p>プログラミングについて選択できる事例が多数ある。</p> <p>「導入題材」と「本題材」の両方を各内容で実施すると、分量が多い。</p> <p>E編「夢をかなえる技術」は統合的な問題解決について記述された項目だと思われるが、題材を見ると各内容を統合したものになっていない。</p>	

発行者名	3. 開隆堂出版
<p>学習指導要領に示す内容項目を取り上げており、内容の程度も生徒の発達段階に適応している。また、基礎・基本の習得から応用・発展的な学習へと系統的に展開されている。</p> <p>学習指導要領に示される「技術の最適化」についての記載がそれぞれ十分にされている（p. 15、p. 52、p. 88、p. 99）。</p> <p>各内容について最初のページに、小学校や他教科とのつながりが、具体的な教科の単元や学年を記載し関連付けている。</p> <p>技術と社会・環境との関わりの理解を通して、生命や自然への敬意、環境安全に寄与する態度、他者や自然と共生する態度を養えるようにしている。（p. 143、pp. 151～153、p. 179、pp. 188～191）</p> <p>プログラミングについて巻末資料がプログラミング言語の基礎的な内容を理解しやすい言葉で編集されている。</p> <p>本文では情報セキュリティ、情報モラルの2つの内容に分け、それぞれ4 ページ、6 ページの合計10 ページで系統立ててまとめており、具体的な事例をもとに話し合いを促すよう構成されている。</p> <p>家畜の飼育、水産生物の育成の実習例が少ない（それぞれ1事例のみ）。</p>	

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結びつく内容になっている。 学習指導要領に示す内容項目を取り上げており、内容の程度も生徒の発達段階に適応しており、不足なく取り上げている。 ガイダンスにおいて、技術の歴史、現代の技術、未来の技術に関する資料等を掲載しており、生徒の興味関心を湧き立たせる内容になっている。また、3年間の学習内容の見通しがもてるような構成になっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> QRコードを読み取ることで、資料を表示することができる。 技術の「見方・考え方」の解説を図式化し、「社会からの要求」「安全性」「環境への負荷」「経済性」の4点から考える工夫がなされている。また、技術の「見方・考え方」について触れている（p.36、100、168、216）。 実習時の安全面等については、ガイダンスにすべての領域を網羅する事項が図を使用して説明されており、実習に安全に臨むことができる。 「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、技術分野の学習の流れについて説明するとともに、具体的な活動事例を記載している。 ガイダンスにおいて、技術分野の学習方法（p.2）、「最適化」（p.12）の記載が十分にされている。 各内容の最初のページに、小学校や他教科とのつながりについて、具体的な教科の単元や学年を記載し関連付けている。 各編の最終章には、持続可能な社会の構築に向けて、生徒が技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりするためのワークシートが掲載されている（p.83、135、195）。 「統合的な問題解決」のページがあり、学習を進めやすくなっている（p.264）。 社会で活躍する技術に携わる人を「技術の匠」として紹介し、開発に込めた意図などを対話的に読み取ることができるよう工夫されている（p.79、99、190）。 問題解決の過程が分かりやすく示されており、問題を解決する力を身につけることができるように配慮されている（pp.170～189）。 統合的な問題解決について、6事例あり、どの内容を統合して学ぶか具体を示している。 （市民）「情報の技術」におけるプログラミングの内容については、解説がしっかりしており、「プログラミングがどのようなものに応用できるか」等自分自身で様々な問題を解決できるよう配慮されている。 対話的な活動のページが少ない。 ガイダンスにおける安全指導について、加工学習に偏って紙面が割かれている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスの分量が適切で、学校事情や生徒の実態にも弾力的に対応できるように工夫されている。 各内容の範囲は、生徒の生活経験・生徒の実態に弾力的に対応できるように工夫されている。 各内容の分量は、時数、学期、学年配分などから見て偏りがなく適切である。 「情報の技術」pp.200～203の内容が簡略化されている。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 教科書内に使用されているマークに関する説明が丁寧である。 電気に関する基礎知識が資料として掲載されており、理科で未履修の場合、役立つ（p.149）。 プログラミングについて、「今すぐできる！プログラミング手帳」（p.8）を掲載しており、プログラムのマニュアルとして活用できる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ (市民) これからの課題である思考力育成の観点から、問題解決のカード (p. 39) は大変良い。 ・ 余白が少なく、1 ページ当たりの情報量が多い。 ・ 「TECH Lab」「技術のとびら」の内容が基礎的な学習内容か発展的な学習内容か明確ではない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明であり、資料の図や写真が見やすい。また、フォントサイズ等も適切である。 ・ 書体は全てユニバーサルデザインフォントを使用し、可読性を高めるように配慮されている。 ・ 印刷配色に淡いオレンジ、ピンク、グリーン、イエロー等を多用しているため、見にくさを感じる部分がある。
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生物育成の技術と環境との関わり」では、「材木を育てる技術」と「農業、林業、水産業の多面的機能」を取り上げることで、郷土の文化や環境に目を向け、持続可能な社会の構築に寄与する態度が養えるよう配慮されている (p. 134)。 ・ 「TECH Lab」において、作業の様子を大きな画像で掲載し、わかりやすく表現するよう工夫している (p. 50、p. 51)。 ・ 発電方法について社会・経済・環境の視点をおいたトレードオフの視点を示し、最適なエネルギーミックスについて考えることができるように工夫している (p. 144、p. 145)。 ・ 情報モラルについては、学習活動に応じて適宜「情報モラル」マークを付して注意を促している (pp. 211～212)。 ・ 生活や社会を支えるロボットの技術を取り上げ、技術を改良、応用していく「技術イノベーション」について考えることができるように配慮されている。 ・ (学校) p. ⑤～⑥これまでの内容や、他教科の学習などと連携し、SDGs に対応した例が掲載されている。 ・ プログラミングについて選択できる事例が多数ある。 ・ 動物の飼育、水産生物の育成の問題解決例の掲載が少ない (それぞれ 1 事例のみ)。

発行者名		教育図書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・ 学習指導要領に示す内容項目を取り上げており、内容の程度も生徒の発達段階に適応している。 ・ 「社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つの要素を学習しやすいように段階的な配列になっている。 ・ ガイダンスにおいて、「生活を支える技術」「技術による問題解決」について、ふれている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習時の安全面等については、ガイダンスにすべての領域を網羅する事項が図を使用して説明されており、実習に安全に臨むことができる。 ・ ページ右上には、作業内容等より詳しく見るためQRコードがつけられている。 ・ 各内容に関し、小学校や他教科とのつながりについて、左ページ右上に簡単な記載がある。 ・ 生活を工夫し創造する資質・能力を身につけられるように、基礎的・基本的な知識を精選し、身につけた知識や技能を使った実践的・体験的な課題解決学習を重視している (p. 74、116、182)。 ・ 社会で活躍する技術に携わる人を「技ビト」として紹介し、中学生に向けてのメッセージを記載している (p. 35、91、263)。 ・ 他教科や小学校との関連については、教科のみの記載である。 ・ E編「夢をかなえる技術」は統合的な問題解決について記述された項目だと思われるが、題材を見ると各内容を統合したものになっていない。 ・ ガイダンスにおける安全指導について、加工学習に偏って紙面が割かれている。 ・ 「技術の見方・考え方」について、明確な解説がない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示されている内容項目は、すべて取り扱っている。 ・ 「導入題材」と「本題材」の両方を各内容で実施すると、分量が多い。 ・ 内容ごとの分量や項目による配当時間に差がある。 ・ ガイダンスの量が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全面に関する記述が、内容ごとに丁寧に記載されている (p. 24、84、132、206)。 ・ 編末問題は、評価の3観点に対応した問題で、学習をふり返ることができるようになっている。 ・ 「見つける」、「学ぶ」、「ふり返る」で学習理解の確認ができる。 ・ 教科書本体と別冊のハンドブックに分けた構成となっている。 ・ (学校) 全体的に情報量(実習例)が多いため、活動中に過去の内容をフィードバックしたい場合、結び付けが難しい。 ・ 教科書内に使用されているマークに関する説明がないため、教師が説明する必要がある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は全ページカラー印刷であり、色の濃淡がはっきりして、色覚特性にも配慮されている。 ・ 印刷は明るく目にやさしい色合いで、文字の大きさも適当である。 ・ 本文の文字の大きさが見やすい。 ・ 資料の写真が小さく、細部が不鮮明である (p. 86、99)。 ・ 画像の解像度が低いところがある (p. 2 下部)。

<p>2 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の栽培、家畜の飼育、水産生物の育成や見学を行う際の心得が掲載されており、安全への配慮がなされている (p. 85)。 ・ 家畜として、乳牛、採卵鶏、ブタの飼育、水産生物としてアワビ、ヒラメ、マダイの育成を3例ずつ掲載しており実習例が豊富である (p. 106)。 ・ 自転車や蛍光灯、電池などの身近な製品の保守・点検の技術を取り上げ、技術を適切に評価し活用する能力の育成を目指している (pp. 144～145)。 ・ 様々な発電技術の特徴を示すことで、社会的・環境的・経済的な視点で技術を評価し、活用する能力を育成することを目指している (pp. 152～153)。 ・ 持続可能な社会と企業の成長について掲載しており、企業における持続可能な社会に配慮すべき3要素が理解できる (p. 182)。 ・ 3Dプリンタを掲載しており、材料の技術や加工の技術の進歩について考えることができる内容としている (p. 23)。 ・ プログラミングについて巻末資料がプログラミング言語の基礎的な内容を理解しやすい言葉で編集されている。 ・ D内容におけるアクティビティ図の説明が分散して表記されており、わかりにくい (p. 226、230)。
--	---

発行者名		開隆堂出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結びつく内容になっている。 学習指導要領に示す内容項目を取り上げており、内容の程度も生徒の発達段階に適応している。また、基礎・基本の習得から応用・発展的な学習へと系統的に展開されている。 各内容の範囲は、学習指導要領に適合していて、生徒の生活体験に十分配慮し、授業時数などの学校事情や生徒の実態にも弾力的に対応できるように工夫されている。 ガイダンスにおいて、技術の歴史、現代の技術に関する資料等を掲載するなど、「生活を支える技術」「技術による問題解決」「社会の発展と技術」についてわかりやすくふれている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」の解説表記があり、各内容における視点を明確にし、生徒が理解しやすい工夫がなされている。 技術分野の学習の流れについて説明するとともに、具体的な活動事例を漫画で分かりやすく記載している。 実習時の安全面等については、ガイダンスにすべての領域を網羅する事項が図を使用して説明されており、実習に安全に臨むことができる。また、チェックリストも記載されており、実習前の確認ができるように工夫がされている。 学習指導要領に示される「技術の最適化」についての記載がそれぞれ十分にされている(p.15、p.52、p.88、p.99)。 奇数ページ右上には、内容に関連した道具、計測機器等生徒の興味関心を高めるような写真や資料が掲載されている。 豊富な実習例があり、製作の流れをイメージできるよう試作段階や完成品について写真と共に掲載されている。 各内容について最初のページに、小学校や他教科とのつながりが、具体的な教科の単元や学年を記載し関連付けている。 「開発者に聞きました」のコラムにて、開発の意図や願いなどを取り上げている(p.9、p.173、p.247)。 統合的な問題解決に関する実習例が一事例である(p.256)。
	(5) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 各内容の範囲は、生徒の生活経験・生徒の実態に弾力的に対応できるように工夫されている。 内容は全体として系統的・発展的に組織されており、分量や配分は、偏りがなく授業時数や多様な指導計画などに対応できるように考慮している。
(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 表記は、見やすく整理され、配色にも気を配っている。 教科書内に使用されているマークに関する説明が丁寧で、マーク自体も簡素化されて見やすい。 レイアウトは見開きを有効に活用しており、本文および参考などの資料との区別が明確である。 どの実習例も、生徒の身近な例を複数挙げておりわかりやすい。また、技術の「見方・考え方」や「課題の設定」など流れに沿って記載されている。 各内容は、本文、図・イラスト・写真など、いずれも正確で、極めて分かりやすく丁寧に記述されている。 各題材にQRコードを記載されており、題材ごとに紐づけられているため、生徒がより主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 「導入」「基礎学習」「展開」「まとめ・評価」の流れで、系統的・発展的に組織されている。 写真やイラストは分かりやすく、必要な箇所では生徒目線で作業を進めてい 	

		るようなアングルで使用されている (p. 165、pp. 166～167、p. 177)。
	(6) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明であり、資料の図や写真が見やすい。また、フォントサイズ等も適切である。 ・ 印刷は全てカラー印刷で、カラーユニバーサルデザインを採用している。 ・ 用紙は薄くて丈夫であり、写真やイラストの色彩表現がよい。
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培ごよみに18種の草花、作物を掲載しており、それぞれの特徴をわかりやすく表記している (p. 118)。 ・ 生物育成の技術をAIやビッグデータの活用と関連付け、情報の技術との組み合わせの視点を合わせた構成を図っている (p. 137)。 ・ 電力を使わないアシストギアを取り上げ、開発者の思いとしてコラムを掲載し、職業の理解、職業観を育んでいる (p. 173)。 ・ 「身の回りにあるエネルギー変換の技術」では身近な電気機器の構造についてドライバーを取り上げており、興味を持って学習できるように工夫されている。 ・ 技術と社会・環境との関わりの理解を通して、生命や自然への敬意、環境安全に寄与する態度、他者や自然と共生する態度を養えるようにしている (p. 143、pp. 151～153、p. 179、pp. 188～191)。 ・ 製作においてトレードオフの視点を示し、最適化を図った設計を行うことができる内容構成となっている (p. 52)。 ・ 本文では情報セキュリティ、情報モラルの2つの内容に分け、それぞれ4ページ、6ページの合計10ページで系統立ててまとめており、具体的な事例をもとに話し合いを促すよう構成されている。 ・ プログラミングについて巻末資料がプログラミング言語の基礎的な内容を理解しやすい言葉で編集されている。 ・ 家畜の飼育、水産生物の育成の実習例が少ない (それぞれ1事例のみ)。

種目（技術・家庭（家庭分野）全 3 者）

発行者名	1. 東京書籍
<p>活動や実習例が充実しており、主体的に考え調べたり、友達と協働して検討したりする設定となっており、主体的・対話的で深い学びが実現できるようになっている。(p. 215, 262 等) また、題材の最初に「生活の営みに係る見方・考え方」がマークやイラストで解説されており、学習の過程で理解を深めることができる。また、手洗いの大切さ等、衛生面について科学的根拠に基づいて、理解ができるようにしている。</p>	
発行者名	2. 教育図書
<p>どの分野も実習例が多く、習熟度にも配慮されており、一人一人が課題を設定して実習できるようになっている。(pp. 124～129 等) また、問題解決型学習の定着を図るため、「学びを生かそう」と「生活の課題と実践」のどのテーマも 6 ステップで統一している。 紙質はしっかりしているが、全体的に重く、持ち運びに負担がかかる。</p>	
発行者名	3. 開隆堂出版
<p>アクティブ・ラーニングの学習技能が、「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」の 4 つに分類されており、自主的・自発的な学習が促されるように配慮している。(p. 23, 178, 109, 242 等) また、導入課題が身の回りのことを基にした課題であり、意欲的に取り組むきっかけになっている。(p. 28, 252 等) 黄系の色が濃いためページによっては、内容よりも色が目に留まりやすい。(p. 173)</p>	

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標達成に結びつく内容が網羅されている。 内容の程度は、生徒の発達段階に適応している。 学習指導要領に示す領域及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 小学校、他教科との関連が色分けやマーク等で示されて、コンテンツとしても見ることができ、各教科との関連を図り、系統的・発展的な指導ができる。 活動や実習例が充実しており、主体的に考え調べたり、友達と協働して検討したりする設定となっており、主体的・対話的で深い学びが実現できるようになっている。(p. 215, 262) (学校)「活動 危険探しチェック」は、話し合い活動など、言語活動の充実を図っている。(pp. 172～173) 本時の学習の導入に「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」が設定されており、体験的学習や問題解決的な学習が重視され、生徒の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるよう配慮されている。 個に応じた指導ができるように、自らの生活を振り返って課題を解決するための発問が随所に設定されている。 (市民・学校) 手洗いの大切さと衛生について、写真や科学的根拠に基づいて理解ができるように工夫している。(口絵 p. 3, pp. 54～55) 発展的な学習内容は発展マークが用いられ、区別できるようになっている。 災害に備えるための防災・減災に関する内容を充実させている。(pp. 174～177) また、各分野で、関わりのある内容は、防災マークで紹介している。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 各領域の内容は偏りが無い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 題材の最初に「生活の営みに係る見方・考え方」がマークやイラストで解説されており、学習の過程で理解を深めることができる。 実物大写真（1群と5群の1日分の摂取量）（幼児の発達）があり、生徒の興味関心を高める工夫がある。(pp. 36～39) (p. 226) (学校) 巻末付録の「防災・減災手帳」「子どもの視界体験眼鏡」は学習内容と関連しおり、生徒が活用しやすい。 学習内容の復習ページが、重要語句と課題形式になっており、学習した内容を自主学習で振り返ることができるよう工夫されている。 学習内容にそったイラストを各ページに載せているが、パラパラ漫画は、授業に集中できないことが危惧される。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、発色も適切である。 文字の大きさ・字体・ルビは、特別な支援を要する生徒にも配慮されている。 用紙は軽量にしているが、紙質が薄いので、ページをめくりづらい。

<p>2 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「プロに聞く」のコーナーの16人の専門家の話が、学習内容を深めるとともに、将来や社会とのつながりを感じられる内容となっている。 ・ 幼児の触れ合い体験前の安全・衛生に関する注意点がイラストで示されており、分かりやすい。(pp. 240～241) ・ (学校) 幼児との触れ合い体験が3パターン紹介されており、学校の実情に合わせた活用に配慮している。(pp. 242～247) ・ (学校) 家族や地域の高齢者との関わりでは、高齢者の体の特徴や関わり方の説明があり、高齢者との関わりが少ない生徒にとっても理解しやすい。(pp. 258～259) ・ (市民・学校) だし汁の取り方は、2種類について写真で分かりやすく示しているなど日本の食文化、和食についての内容が適当である。(p. 63, pp. 90～95) ・ (学校) 和服の文化、和式の住まいについての内容が充実している。(p. 164, pp. 112～115) ・ (学校) 「持続可能な食生活を目指して」では、カーボンフットプリント・マークやマヨネーズ容器の軽量化の取組など、身近な生活で実践されている例を取り扱っている。(pp. 98～99) ・ 旧の取扱い表示の記載があることで、実際に自分が持っている衣服の表示についても理解することができる。(p. 120) ・ 「中高生が被災時にできたこと」や「避難所や仮設住宅の暮らしの工夫」は、防災時の共助について、生徒が主体的に考えられるものとなっている。(pp. 176～177) ・ (学校) 金銭管理や消費者トラブルについて、生徒が具体的に考えることができるように配慮している。(pp. 190～193) ・ 調理実習例の分量は適量であるが、丁寧に解説された実習例が少ない。(pp. 67～69 など) ・ (学校) 蒸し料理は実習例が少なく、参考例として、小さく掲載されている。(p. 76)
--	---

発行者名		教育図書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 家庭分野の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、生徒の発達段階に適応している。 学習指導要領に示す領域及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 他教科や小学校、他の学習との関連を示すリンクマークを用いており、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 話し合いや思考を深める場面をコーナーとして位置付け、言語活動の充実を図っている。 問題解決型学習の定着を図るため、「学びを生かそう」と「生活の課題と実践」のどのテーマも6ステップで統一している。(pp. 286～287 など) どの分野も実習例が多く、習熟度にも配慮されており、一人一人が課題を設定して実習できるようになっている。(pp. 124～129) 「幼児のおやつ」では、安全面の配慮として、食物アレルギー及び食品事故への配慮をしている。(p. 48) (市民、学校) 安全・衛生に関する注意点が、イラストや写真とともに詳しく記載されている。(p. 59, 111, 口絵) 発展的な学習内容は発展マークが用いられ、区別できるようになっている。 (学校) 調理実習では、手順の写真を、段階を追って分かりやすく示している。(p. 125) A及びCの内容において、難しい文章があり、カリキュラム作成に工夫が必要である。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数からみて、分量は適切である。 学習内容が網羅されており、資料の情報量が豊富である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭や巻末の付録、年中行事と私たちの暮らしや食品シールは学習において活用しやすい。 学習の振り返りとして自主学習できるページがあったり、巻末に生活の実践と課題の例を紹介したりして発展的な学習の意欲を高める。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 内容ごとに配色を工夫している。 暖色系の色が濃いので、図表は、文字より色が先に目に留まる。(p. 97 など) 紙質はしっかりしているが、全体的に重く、持ち運びに負担がかかる。

<p>2 家 庭 分 野 の 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「先輩に聞こう」では、体験に基づいた話が学習内容を深めるとともに、将来について考える内容となっている。 ・ (学校) 年中行事の一覧ページがあり、伝統文化についての関心を高めるとともに、食生活の学習への意欲を高める資料となっている。(口絵3,4) ・ コミュニケーション・ツールの例は、視覚的に分かりやすい具体例が数多く紹介されている。(p.19) ・ 高齢者との関わりでは、高齢者や特別養護老人ホームの方の話が掲載されており、学びを深めることができる。(p.35) ・ 蒸し料理では、肉の調理、魚の調理、野菜の調理、間食、それぞれに実習例を挙げており、しっかりと取り扱っている。(p.129,137,143,149) ・ (学校)「だし」については、和食の基本として、様々なだしの材料や混合だしの取り方を取り扱っている。(p.155) ・ 和式の住まい方について、「日本の伝統的な住まい」の写真を用いて詳しく説明している。(pp.216～217) ・ 衣食住の生活すべてにおいて、災害時の対策を取り扱っている。(p.149,185, pp.229～231) ・ SDGsの17の目標について、生活と関連付けて自分の考えを記入する欄を設けるなど、題材を通して考えるように設定されている。(pp.238～239) ・ 多様化するキャッシュレス決済では、現在普及が進んでいるスマホ決済(タッチ決済, QRコード決済)が紹介されている。(p.251) ・ 基本的な衣服の補修の説明写真が小さく、分かりにくい。(pp.186～187) ・ 導入の「見つめる」の、吹き出しの内容は偏った個人の考えで、課題意識をもつことが難しい場合もある。 ・ 考えてみよう「自分にとって家族・家庭とはどのような存在か」は、生徒の個人的な背景を踏まえた上で慎重に取り扱わなければならない内容である。(p.15)
--	---

発行者名		開隆堂出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 家庭分野の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、生徒の発達段階に適切している。 学習指導要領に示す領域及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> リンクマークを表示し、小学校での学び、他教科、他分野の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。(p.112) アクティブ・ラーニングの学習技能が、「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」の4つに分類して示されており、自主的・自発的な学習が促されるように配慮している。(p.23.178.109.242) 「生活に生かそう」では、学んだ知識・技能を実生活に即して考えられるように配慮されており、個に応じた指導ができるように配慮されている。(p.41,213,221,243) 発展的な学習内容は発展マークが用いられ、区別できるようになっている。 導入課題が身の回りのことを基にした課題であり、意欲的に取り組むきっかけになっている。(p.28,252) 各題材の最後に、「持続可能な社会を目指して」の内容を取りあげている。また、SDGsと家庭生活のかかわりを主体的に考えられるように配慮した内容となっている。(pp.64~66,152~155) (市民)衛生面の手洗いについて、取り扱っているページが少ない。(p.113)
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 全体の分量は、授業時数から見て適切である。 各領域の内容は偏りが無い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 実物大の資料があり、分かりやすい。(pp.88~94) 実習の写真が大きく、調理手順に沿った写真があり、見通しをもって実習をすすめることができる。(p.132) 題材のはじめに、「・・・わたしの興味・関心」を配置して、学習の動機づけを図っているが、背景の写真と質問の組み合わせが有効に働かない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 軽くて薄い紙を使用しており、紙質が滑りやすい材質でページがめくりやすく、軽量化している。 「消費生活と環境」では行間の様式が適切でない。(pp.252,253,258,259) (学校)黄系の色が濃いため、ページによっては内容よりも色が目に留まる。(p.173)

<p>2 家 庭 分 野 の 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学校)「先輩からのエール」での18名の社会人の話が学習内容を深めるとともに、生徒が将来を考える参考となる内容となっている。 ・ (学校) 幼児とのふれ合い体験が5パターン紹介されており、学校の実情に合わせた活用に配慮している。(pp. 45～49) ・ 「多様な人々が暮らす地域」では、障がい者や外国人、LGBTについても取り上げて、共生について考える内容となっている。(pp. 58～59) ・ 「地域に暮らす高齢者」「高齢者とのかかわり」では、様々な高齢者を取り上げ、介助の仕方や関わり方について具体的に理解しやすい内容となっている。(pp. 60～63) ・ 「B衣食住の生活」では、中学生が身近に感じる資料から伝統文化を感じる資料まであり、考えの広がりを補助している。食品の概量や浴衣の着方、災害を意識した話し合い活動の内容など、生徒自身が実践しやすい内容となっている。 ・ (学校) 蒸す調理については、蒸し器の使い方を示したり、実習例を紙面1ページを使って取り上げたりしている。(p. 112, 132) ・ (学校) 和食や郷土料理、行事食について、資料を豊富に取り扱っており、日本の食文化についての理解を深める内容となっている。(pp. 108～109, pp. 140～145) ・ (学校) 調理実習例の「アレルギー物質を含む食材」を、色で網かけして、一目でわかるようにしている。 ・ (学校) 和服の文化について、ゆかたを取り扱っており、体験的な学習となっている。(pp. 166～169) ・ (学校) 各内容の最終ページに「持続可能な・生活」を位置付け、地域や社会に視野が広がるように配慮している。また、「SDGs とのかかわりについて話し合ってみよう」を設定し、また、対話的で深い学びとなるようにしている。 ・ (学校) 災害についての巻末資料は、災害時はもとより、今できる備えについても詳しい資料であり、実生活での実践に役立つ内容である。 ・ (学校) クレジットカードやキャッシュレス化について、具体的に説明しているので、分かりやすい。(pp. 238～239) ・ (学校) 蒸す調理に関する実習例が少ない。(p. 132, 139) ・ クーリング・オフとジャドママークの頁が別々になっており、関連付けることができない。(p. 235, 251) ・ 養子縁組、里親制度の取り扱いについては、家族関係が複雑化している現在、生徒のプライバシーを配慮する必要があるため、資料のみの記述の方がよい。(p. 24) ・ 食事摂取基準の学習の前に、五大栄養素の学習をした方が、「中学生に必要な栄養」のスムーズな理解につながる。(pp. 80～83)
--	---

種目（ 英語 全 6 者）

発行者名	1. 東京書籍
<p>小中接続に十分に配慮し、言語材料の配置が一新されている。目的・場面・状況が明確な言語活動が設定され（3年生 p.8）、SDGsに基づき、（3年生巻頭裏）文化や社会的な問題など幅広い題材を取り上げ、他教科の内容とも関連させながら、英語学習への意欲を高め、英語で理解し、思考力・表現力の向上につながよう工夫されている。しかし、指導時間を配当するページは増やさないようするため、A4判になっており、開本した際に、机上が狭くなる。また1ページの情報量が多く見づらい。</p>	

発行者名	2. 開隆堂出版
<p>単元導入では、マンガ形式で示すことで（3年 p.8）、英文が分からなくても、言語使用場面を理解することができる。特に「即興で、自分の考えや思いを話すこと」ができる力を育成するため、言語活動が段階的にバランスよく設定されている。（3年 p.14）協働的な表現活動のテーマが時期や生徒の実態に合わないものもあり、生徒にとっては現実味がなく意欲につながらないものもある。（3年 p.39）また語彙や例文のヒントが少なく、幅広い表現活動に繋がりにくい。</p>	

発行者名	3. 三省堂
<p>生徒にとって馴染みやすい国や題材が多く、自己表現が容易な話題が設定がされている。（3年 p.112）巻末の付録には、語彙や会話表現例などがジャンル別に豊富に示され、（3年 p.51）自主学習できるようになっている。しかし、新たな発見があるような題材がなく、文学作品のよさはあるが、（3年 p.122）オーソドックな内容が多い。当該言語材料のまとめは、文法事項や文構造のみの理解にとどまる記述で、言語材料使用場面が、本文などと関連付けておらず、活用場面が理解しにくい。（3年 p.82）</p>	

発行者名	4. 教育出版
<p>学習指導要領が示す内容及び内容の取扱いの事項を不足なく取り扱われている。全学年、SDGsに関する題材が掲載されているが、生徒が共感や想像が難しい内容で、表現内容が制限される可能性がある。（3年 p.102）文字が小さく見づらく、イラストの配色が濃く、重い印象があり、不鮮明に感じられる。（3年 p.24）</p>	

発行者名	5. 光村図書出版
<p>本文が3年間を通じたストーリー仕立てになっており、（3年 p.113）どんな英語表現が目的・場面・状況で使われているのか、（3年 p.40）生徒は理解しやすい。各学年各学期末に、5領域を統合した言語活動が設定されており、目標の達成を目指し、表現すべき内容や英語表現を工夫することで、思考力・判断力・表現力を養うことができる。（3年 p.94）（3年 p.120 帯教材）QRコードでの音声フォローがあるが、本文とイラストによるストーリー把握のためのアニメーションのみで、語句が含まれていない。身近な話題を多く扱っており、共感しやすい反面、話題に偏りがある印象がある。</p>	

発行者名	6. 新興出版社啓林館
<p>QRコードでの音声フォローが充実している。場面や状況の理解を助けるためのアニメーション映像はないが、語句と本文音声のみならず、文字で、英語と日本語での意味と両方表示され、（3年 p.8）自主学習を促し、大変活用できる。</p> <p>小学校英語との接続ページでは、小学校で学習した内容をふりかえることができる構成になっているが、言語材料配列などに学びを生かした工夫がない。特に can の取り扱いが最初の project（自己紹介）の後という点から、小学校の学びが生かされていない。（1年 p.56）</p>	

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領が示す内容及び内容の取扱いの事項を不足なく取り扱われており、生徒の発達段階に応じたものとなっている。 言語材料の配置が一新され、目的・場面・状況がきちんと設定された上での主体的で対話的な学習を行いやすくなっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 単元冒頭で1ページ全面を使って写真が掲載され、導入の言葉や学習目標が明示されている。 基礎的・基本的内容から、発展的な内容を表現できるように、各学期末には発信力を育成するための言語活動が設定されている。 SDGsなど今日的な課題も多く取り上げられているが、生徒の関心を高める題材が少なく、「やりとり」が制限される可能性がある。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして2、3年生は適切に配分されている。 1年生には多い。 1ページにおける文字の情報量が多く、特別な支援を要する生徒にとっては、混乱を招く恐れがある。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 写真、グラフ、表などを数多く取り入れ、英語を使って思考力、表現力を高める工夫がされ、巻末資料も充実している。 QRコードから本文や語彙の音源を聞くことができ、英文や英単語、映像も視聴可能である。生徒の自主学習への支援にも配慮されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、手書き文字に近いフォントが使用されている。 教科書の大きさはA4判で、机の上に置くには大きすぎる。(市民、教員)
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 3学年ではSDGsに基づき、文化や社会的な問題や現象について、他教科の内容とも関連させながら、英語で理解し、思考力・表現力の向上につなぐよう工夫されている。 小学校英語との学習内容との連携を図るよう、内容、ページ構成などが工夫されている。 単元冒頭には題材内容を示す大きな写真とともに単元目標が示され、単元末には目標が達成できたか、生徒が自らの学びを確認する工夫がされている。 基本文の反復練習は本文内容とつながったものになっており、学習の意味合いを感じながら行うことができる。 	

発行者名		開隆堂出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の学年内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げており、目標達成に結びつく内容になっている。 言語材料の配置が一新され、目的・場面・状況がきちんと設定された上での言語活動がしやすくなっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 単元導入では、マンガ形式で示すことで、英文が分からなくても、場面を理解することができる。 3年間を通じて「伝え合う能力」、「話し合える能力」、「発表・討論・交渉などを行う能力」を段階的に習得できるように、即興的にコミュニケーションを図る活動がバランスよく設定されている。 単元冒頭で1ページ全面を使って写真が掲載され、導入の言葉や学習目標が明示されている。 Our Project のテーマの内容が時期や生徒の実態に合わないものもあり、生徒にとっては現実味がなく意欲につながらないものもある。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 分量は適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 巻末のアクションカードは動詞が文字とイラストで表されているので苦手意識の強い生徒でも活動がしやすい。 QRコードから、教科書と同じイラストを見ながら、本文の音源を聞くことができる。 4技能5領域別の「できるようになったリスト」が巻末に掲載され、生徒自身が学習の軌跡がわかるようになっており、3年間の学習に見通しをもたせている。 文法の説明がシンプルで理解しやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、手書き文字に近いフォントが使用されている。 英語、日本語ともに全体的に文字が小さい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの視点に基づき、現在の生徒の興味関心を喚起する題材が豊富に配置されている。 小学校英語との接続において、段階的な書字学習や文字と音の関係の学習など初歩的なアプローチが設定されており、小学校外国語活動で蓄積した知識・能力を基盤に中学校英語へ移行することが可能である。 語彙や例文のヒントが少なく、幅広い表現活動に繋がりにくい。 	

発行者名		三省堂
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領が示す内容及び内容の取扱いの事項を不足なく取り扱われている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって馴染みやすい国や題材が多く、自己表現が容易な設定がされている。 書く活動では、予めクラスで協働的に行えるように活動が仕組まれており、自然な形でアクティブ・ラーニングを取り入れることができる。 言語材料使用場面と文法事項や文構造の説明が関連付けられておらず、活用場面が理解しにくい。 学期末言語活動の内容が一般的でなく、限定的で、全員の興味を喚起するものではない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 分量は適切である。 1 ページにおける文字の情報量が多く、特別な支援を要する生徒にとっては、混乱を招く恐れがある。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 巻末の付録には、語彙や会話表現などがジャンル別に豊富に示され、生徒が自ら学び、使うことができ、自主学習できるようになっている。 ページごとにQRコードがついており、本文・語彙の音声モデルが確認できるが、音声のみであり、文字と結びつけることが難しい。また、場面や状況の理解を助ける映像などは見ることができない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学、人権、共生などの現代的課題が取り扱われ、多様なものの見方や考え方について触れ、思考力や判断力を促す題材が扱われているが、新たな発見があるような題材がなく、オーソドックスな内容が多い。また取り扱った国の数が少ない。 言語活動の中で、たくさんの情報を与え、ステップを細かく示しすぎており、生徒の思考が広がらない可能性がある。 CAN・DO リストは裏表紙に1 ページのみで、当該学年しか掲載されておらず、学びの系統性は意識しづらい。 	

発行者名		教育出版
観点		
1 各教科 共通の 選定の 観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領が示す内容及び内容の取扱いの事項を不足なく取り扱われている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 単元末の文法のまとめが文字による解説で、理解しにくく、家庭学習がしづらい。 文法事項や文構造のみの理解にとどまる記述で、言語材料使用場面が、本文などと関連付けられておらず、活用場面が理解しにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 1学年当初の小学校英語の接続段階で、文字数が多く、英文を読ませる活動が多すぎる。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 英語の学び方のコツやルールが、各ページにミニコーナーとして掲載しており、活用しやすい。 巻末の付録が豊富であるが、表現を丸暗記することに重点がおかれ、即興的に表現する力を育成することに繋がらない。 巻末に3年間を見通した CAN-DO リストの内容が、学習内容との関連がわかりにくい。 単元末のまとめが本文とページが離れており、活用しにくい。 QRコードでの音声フォローが本文のみである。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 本文など英語表記の文字が小さく見づらい。 イラストの配色が濃く、重い印象があり、やや不鮮明である。
2 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> 目次の学習内容が整理され、見やすい。 SDGsなどの今日的課題を多く扱い、特定の分野に偏らずバランスよく充実しているが、身近な内容ではなく、共感や想像が難しい内容で、表現内容が制限される可能性がある。 単元末の内容理解の確認が要約文の適語補充となっており、当該言語材料を実際に活用できる力を育成するには及ばない。 中学校英語への導入単元が設定されているが、分量が少なく、小中連携単元としては不十分である。 	

観 点		発行者名 光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 目的・場面・状況がきちんと設定された上での言語活動がしやすくなっており、学年の生徒の発達の段階に適応している。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 本文が3年間を通じたストーリー仕立てになっており、生徒にとって日常的な目的・場面・状況の中でどのように英語を表現するのか、生徒が理解しやすいものとなっている。 文法事項が、言語の使用場面と意味・形を結びつけながら、習得できるように整理されており、生徒は理解しやすい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 分量は適当である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> リスニング問題は、絵や選択肢を効果的に用いることで、苦手な生徒にも取り組みやすい構成となっている。 单元ごとに「めあて」(扉のページ)、「Goal」(まとめの言語活動と振り返り)があり、单元ごと自分の学びの成果を確認できる。 「学び方ガイド」等を各学年で設け、英語でのコミュニケーションや英語の学び方や、単語集などのヒントが掲載されており、生徒の学習を促す資料として活用できる。 QRコードの音声は本文のみだが、ピクチャーカードを見ながら本文の音声を聞くことができ、アニメーションのように楽しみながら学習できるよう工夫されている。 (学校)音と文字の関係が、巻頭にまとめて掲載されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> イラストが落ち着いた配色で、優しく刺激が少ない。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 小学校英語との接続单元としてのLet's be friends!では既習表現を短時間で学習できるように端的にまとめている。 身近な話題を多く扱っており、共感しやすい反面、体験したことのない、題材や話題などもっと幅広く多方面から、題材を掲載したほうがよい。 CAN-DO リストは各学年巻末に掲載されているが、当該学年のみとなっており、3年間を通したものであるとよい。 	

観 点		発行者名 新興出版社啓林館
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に結びつく内容になっており、生徒の発達段階に応じたものとなっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 4技能5領域を示すマークが明示され、生徒が学習目標や身に付けるべき技能を意識ながら学習に臨むことができる。 単元冒頭で1ページ全面を使って写真が掲載され、導入の言葉や学習目標が明示されている。 練習のコーナーでは、言語材料使用場面が、本文などと関連付けられておらず、活用場面が理解しにくい。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 分量は適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> QRコードでの音声フォローが充実している。場面や状況の理解を助けるための映像はないが、語句と本文音声のみならず、文字で英語と日本語での意味と両方表示され、自律学習を促し、大変活用できる。 表紙に掲載されたQRコードから、全学年すべての語彙や本文を聞くことができる。 話題に関連する他の様々な情報が掲載されているが、日本語による記述であり、英語を読むことにつながらない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに色が統一されていて、見やすい。 全体的に文字が小さめで、やや不鮮明である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 小学校英語との接続ページでは、小学校で学習した内容を振り返ることができる構成になっているが、言語材料配列などに学びを生かした工夫がない。 生徒が表現活動を、自主的に進めるための表現や語彙の例示が少ない。 	

種目（ 特別の教科 道徳 全 7 者）

発行者名	1・東京書籍
<p>巻頭には、道徳科のオリエンテーションで使用できるページがあり、学習のやり方が分かりやすく示されている。また、考え、議論するために、生徒の主体的な活動を促す教具であるホワイトボードや心情円（3学年巻末等）も収録されている。主たる教材が28編、付録で7教材が収録されているが、新しい読み物教材や存命中の人物にかかわる題材（3学年 pp.36～41 等）が多い。一方で、文部科学省作成の読み物教材等が少なく、これまでの授業研究の良さが活かされにくい。</p>	
発行者名	2・教育出版
<p>生徒の理解を促すために挿絵や写真等を効果的に使用（3学年 pp.28～30 等）している。2学年の教材では、本市にゆかりのあるスポーツ選手を取り上げている（2学年 pp.26～29）。また、教材名の下に授業の導入になるような問いがあり、生徒の興味・関心を高めることができる（3学年 p.14 等）。しかし、話し合いを活発に行うための手引きの掲載が少なく、議論が深まりにくい可能性がある。問題解決的な学習についても、主体的な学習活動の手引きがないため、主体的な学習が進めにくい。</p>	
発行者名	3・光村図書出版
<p>1「考えよう」、2「見方を変えて」、3「つなげよう」（3学年 p.18 等）という流れで発問が設定され、主体的に考え、多面的・多角的な見方を引き出し、他教科や日常生活と関連させながら考えを深めることができる。また、巻末に、学びの記録を書く欄が設けられており、生徒が1時間ごとの振り返りを記録できるとともに、書き溜めた記録を読み返し、自己の成長を実感できる。新しい読み物教材が多く、生徒にとって読みやすい内容となっているが、これまでの授業研究の良さが活かされにくい。</p>	
発行者名	4・日本文教出版
<p>3年間で共通のテーマを設定し、系統的な指導ができる。また、『いじめ』と向き合う』ことについて重点を置き、直接的・間接的にいじめについて考えることで、多面的・多角的に学べるように構成されている（3学年 pp.24～43 等）。別冊「道徳ノート」は、教材ごとに構成されており、発問欄が空白になっている教材が多く、自由な授業展開が可能である。また、書くことにより自己を振り返ることができ、生徒の変容も把握しやすい。しかし、発問欄が空白になっている教材（3学年 p.2 等）が多いため、教員によっては活用に苦慮することも考えられる。</p>	
発行者名	5・学研教育みらい
<p>各教材の終わりに「深めよう」「クローズアップ」「クローズアッププラス」（3学年 p.13 等）が配置されており、多様な学習ができるようになっている。また、「22の鍵」や「様々なテーマで学ぼう」（3学年 pp.6～8 等）等、3年間を通して系統的に学習できる構成になっている。2学年の教材では、本市にゆかりのある俳優を取り上げている（2学年 pp.62～65）。各教材名の下に導入のためのキーフレーズがあるが、統一性がなく使用しづらい。また、欄外の「メモ欄」（3学年 p.11 等）の活用方法が分かりづらく、各教材に生徒が記述し、振り返りができる箇所が少ない。</p>	
発行者名	6・廣済堂あかつき
<p>各教材に「考える・話し合う」（3学年 p.9 等）が示され、内容理解や主発問につながる問いや、自分の事として考えるための1単位時間の学習の流れが示されている。教材の最後には、偉人や著名人の言葉を記載（3学年 p.9 等）しており、学習の中で活用できる。しかし、全体的にイラストや写真等の資料が少なく、教材によっては、内容量の多い読み物教材があり、内容理解が難しいものもある。また、見開きで始まらない教材（3学年 p.19 等）があり、教材に集中しにくい。</p>	
発行者名	7・日本教科書
<p>文科省作成の教材を多く取り入れており、授業研究の豊富な教材が多く、若年教員も参考にしやすい。「もっと知りたい」等のコラムを設け（3学年 p.21 等）、道徳的価値についてより深く考える工夫をしている。しかし、生徒が自己をみつめられるような発問が少なく、自分事として考えにくい。また、話し合い活動や体験的な学習、問題解決的な学習等の主体的な学習活動の工夫についての手引きとなるような記載が少なく、学習が進めにくい。</p>	

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 主たる教材が28教材、付録で7教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> いじめや生命尊重の題材では、2単位時間で実施することで、親しみやすい内容から深く考えさせる構成になっている。 巻頭に「道徳の授業はこんな時間に」が設定されており、話し合いの手順と教材が記載され、授業開きが行いやすい。 1学年の教材に、小中の関連を図った教材を用意したり、各学年の発達段階を考慮した配置をしたりするなど系統的に学習できる内容になっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 小さなホワイトボード「みんなで意見を書こう」や葛藤教材等で気持ちの変化を可視化したり確認したりできる「心情円」は、話すことが苦手な生徒でも自分の気持ちを伝えやすくなり、話し合い活動で活用しやすい。 学期ごとに「自分の学びをふり返ろう」がついており、生徒の自己評価や授業の評価にも活用できる。 生徒に考えさせたい内容(主題)が題名となっており、この教材で何を考えるかを生徒が把握しやすくなっている。 教材によっては、テーマを考える際の教材として漫画の一コマが掲載されており、生徒がより身近なテーマとして考えることができるようになっている。 新しい読み物教材や存命中の人物にかかわる題材が多いが、文科省作成の読み物教材等が少なく、これまでの授業研究の良さが活かされにくい。 「つぶやき」欄がどのように活用してよいか分かりづらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルフォントが採用されており、印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。 教材によっては、見開きで写真やイラストが掲載されており、インパクトがあり、より内容を把握しやすくなっている。 教材によっては、2段組み、3段組みのものがあり、文字が小さく、読みにくい箇所がある。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> 各教材で「考えよう」で道徳的価値に迫る発問と、「自分を見つめよう」で自己をみつめる発問が設定されており、人間としての生き方を考えられるようにしている。 各教科の関連が意識しやすいように、各教材にマークで示されており、デジタルコンテンツを使って他教科の関連部分の内容を教科書紙面で見ることができる。 各学年で2教材ずつ「ACTINON」を設定し、役割演技等の体験的な学習を通して、学習内容を自分事として捉え、考えを深めることができる内容になっている。 4～5月にいじめ問題対応ユニットを配置しており、いじめ問題について多面的・多角的に考えることができる内容になっている。 SDGsに関連付けられる内容が薄い。 	

発行者名		教育出版
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮しているといえる。 ・ 主たる教材が30教材、補充教材で5教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の理解を促すために、挿絵や写真等を効果的に使用している。 ・ 話し合い活動を活発に行うための手引きの掲載が少なく、議論が深まりにくい可能性がある。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5行ごとに行数が「1・・・5・・・」と示しており、数えやすい。 ・ ワークシートや振り返りシートなど生徒が記述するページが少ない。 ・ 言葉の注釈が少なく、生徒が教材を理解しづらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルフォントが採用されており、行間も広く、見やすい。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年の教材では、本市にゆかりのあるスポーツ選手を取り上げている。 ・ 教材名の下に授業の導入になるような問いがあり、生徒の興味関心を高めることができる。 ・ 「学びの道しるべ」では、授業を構成するための発問が示されており、若年教員にも使いやすい。 ・ (市民) 内容がわかりやすく読みやすい。都道府県にゆかりの人などが載せてあり親しみやすい。 ・ 巻末の「道徳の学びを振り返ろう」では、生徒の道徳科に関する成長の様子を見とりにくい。 ・ SDGsに関連付けられる内容が薄い。 	

発行者名		光村図書出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材が31教材、付録で4教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の定番教材が付録教材として設定されており、学び直しや自分の成長を振り返ることができるようになっている。 ・ 3学年ともに第1教材に「道徳の授業を始めよう!」、最終教材には「道徳の学びを振り返ろう」が設定されており、1年間の学びの見通しをもって取り組むことができるようになっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1「考えよう」、2「見方を変えて」、3「つなげよう」という流れで発問が設定され、主体的に考え、多面的・多角的な見方を引き出し、他教科や日常生活と関連させながら考えを深めることができる。 ・ 巻末の「学びの記録」は、生徒が1時間ごとの振り返りを記録できる。 ・ イラスト等でわかりやすく教材が示してあり、生徒が内容を理解しやすくすると共に、興味関心を高めることができるようになっている。 ・ (学校) シーズン1～3になっており、時期に応じて利用できる内容になっている。 ・ 「つなげよう」の発問が点線で囲まれており、補足的な印象をうける。 ・ 新しい読み物教材が多く、生徒にとって読みやすい資料となっているが、これまでの授業研究の良さが活かされにくい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ カラーユニバーサルデザインやユニバーサルフォントが採用されており、印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。 ・ 文字数の多い教材がある等、統一感がない。 ・ 見開きで始まらない教材があり、教材に集中しにくい。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いじめ問題」「情報モラル」については、「深めたいむ」を全学年に設け、3年間を通して考えられるようにしている。 ・ 様々な障がいを取り上げており、現在の社会情勢や課題等を考える場が設定してある。 ・ 巻末に著名人の直筆メッセージが掲載してあり、授業と関連付けて活用できる。 ・ 3学年で「SDGs」について取り上げている。 	

発行者名		日本文教出版
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材の35教材に加えて、多くのコラムが収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間で共通のテーマを設定し、系統的な指導ができる。また、『いじめ』と向き合う』ことについて重点を置き、直接的・間接的にいじめについて考えることで、多面的・多角的に学べるように構成されている。 ・ 「考えてみよう」、「自分に+1（プラスワン）」という流れで発問が設定され、「主発問につながる問い」から「自分事として考える問い」の順になっており、学習の流れが分かりやすい。 ・ 教材として取り上げている人物に関する参考資料や人物からのメッセージが記載されており、生徒の興味関心を高めることができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「プラットホーム」や参考資料等が多く掲載されており、学習をより深めることができるように配慮されている。 ・ タイトルと同時に登場人物が紹介されており、内容把握が行いやすく、議論の時間を確保しやすい構成になっている。 ・ 別冊「道徳ノート」は、発問欄が空白になっており、教員の自由な授業展開が可能である。しかし、教員によっては活用に苦慮することも考えられる。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルフォントが採用されており、印刷も鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。 ・ 教材によっては、見開きで写真やイラストが掲載されており、とてもインパクトがあり、より内容を把握しやすくなっている。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳科における定番の題材が網羅されており、これまでの授業研究が多く、若年教員も参考にしやすい。 ・ 教材ごとに主題名が掲載されており、この教材で何を考えるかを生徒が把握しやすくなっている。 ・ 「学習の進め方」では、グループでの話し合い、問題解決的な学習や体験的な学習（役割演技）等を写真で示すなど分かりやすくしており、体験を通して考えを深めることができるようになっている。 ・ （学校）別冊「道徳ノート」は、教材ごとに1ページで構成されており、生徒は書くことにより自己を振り返り、見つめることができ、教員は生徒の考えや変容を把握しやすい。 ・ SDGsに関連付けられる内容が薄い。 	

発行者名		学 研 教 育 み ら い
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材の35教材に加えて、多くのコラムが収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材の終わりに「深めよう」「クローズアップ」「クローズアッププラス」等が配置されており、多様な学習ができるようになっている。 ・ 「22の鍵」や「様々なテーマで学ぼう」等、3年間を通して系統的に学習できる構成になっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「考えよう」で発問の例示があり、授業展開の参考になる。 ・ 「マイプロフィール」、「心の四季」、「学びの記録」が設けられており、1年間の成長を感じられるものになっている。 ・ 教材名の下に「キーワード」があるが、発問になっているもの、あらすじになっているもの等、統一性がない。 ・ 「メモ」欄がどのように活用してよいか分かりづらい。 ・ 各教材に生徒が記述し、振り返りができる箇所が少ない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年の教材では、本市にゆかりのある俳優を取り上げている。 ・ 「深めよう」では、自分の考えを書いたり、グループで話し合ったりできるようにしている。 ・ 「生命尊重」や「いじめ」について考えさせる教材が豊富で、生徒にとって身近に感じられる構成になっている。 ・ 巻末に年間で4回分、道徳の授業について振り返る箇所があり、評価の参考にできる。 ・ 「考えよう」の発問例に、自己を見つめる発問が設けられていない教材がある。 	

発行者名		廣 濟 堂 あ か つ き
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材が35教材に加えて、多くのコラムが収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材に「考える・話し合う」が示され、内容理解や主発問につながる問いや、自分の事として考えるための1単位時間の学習の流れが示されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。 ・ (学校) 1単位時間で取り扱うには、内容量の多い読み物教材があり、生徒によっては内容理解が難しいものがある。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末で、「考える・話し合う」では、学習の手がかりで、道徳的価値を深め、考えを広げる・深める」では、自己をみつめる発問になっており、人間としての生き方を考えられるようにしている。 ・ 別冊「中学生の道徳ノート」の学習の記録は、罫線のみで使用しづらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。 ・ 見開きで始まらない教材があり、教材に集中しにくい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの授業研究の豊富な教材が多く収録されており、若年教員も参考にしやすい。 ・ 教材の最後には、偉人や著名人の言葉が記載してあり、学習の中で活用できる。 ・ 各学年とも巻末に「いじめ」「情報モラル」「SDGs」に特化したコーナーがある。 ・ 別冊「中学生の道徳ノート」には、読み物教材やアンケート、統計資料等が充実している。 ・ 教材の始めは教材名のみの記載にしている。そのため明確な導入（道徳的諸価値への方向付け）が必要となる。 ・ 話し合い活動や体験的な学習等の主体的な学習活動の工夫についての手引きとなるような記載がないため、学習が進めにくい。 	

発行者名		日本教科書
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材の37教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「もっと知りたい」「考えてみよう」では、教材に合った資料が掲載されており、生徒が議論や話し合い活動が活発になるよう工夫している。 ・ (学校) 巻末の「心の成長を振り返りましょう」での「レベル」という記述は、道徳科の授業の中では適切ではない。 ・ (市民) 巻末の自己評価表は、「数値による評価はしない教科」となっている道徳科と矛盾している。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材の終わりの「考え、話し合ってみよう そして深めよう」では、内容理解や主発問につながる問いとなっている。 ・ 「もっと知りたい」「話してみよう」等のコラムを設け、道徳的価値についてより深く考える工夫をしている。 ・ 内容項目順に教材が配列されているため、学校の実態をふまえた年間計画を作成するよう配慮が必要である。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明であり、字体、製本等が適切である。 ・ 3学年のp.27等のように背景の写真と文字が重なり見えにくい箇所がある。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省作成の教材を多く取り入れており、授業研究の豊富な教材が多く、若年教員も参考にしやすい。 ・ 3学年のp.78等のように世界の国々との比較のデータを示すことで、視野を広げることの大切さを伝えることができる。 ・ 巻末の「私の道徳記録」を利用することで、生徒が一年間を振り返ることができる。 ・ 「考え、話し合ってみよう そして深めよう」では、生徒が自己をみつめるような発問が少なく、自分事として考えにくい。 ・ SDGsに関連付けられる内容が薄い。 	